

中間貯蔵施設環境安全委員会（第29回）

令和8年3月30日（月）13:30～15:00
於CREVAおおくま 1階 会議室1A、1B

議事次第

1. 開会

2. 議題

- (1) 中間貯蔵施設に係る事業の実施状況について
 - ・令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針
 - ・除去土壌等の搬入及び施設の運営状況
 - ・県外最終処分に向けた取組の進捗状況 外
- (2) 中間貯蔵施設事業において発生した事故事例と対応等について
- (3) 福島県等が実施した令和7年度中間貯蔵施設における状況確認等の結果について
- (4) その他

3. 閉会

配布資料一覧

中間貯蔵施設環境安全委員会 委員名簿

中間貯蔵施設環境安全委員会（第29回）座席表

環境省出席者名簿

資料1 中間貯蔵施設事業の状況等について

資料1別添 モニタリング等の状況の詳細について

資料2 中間貯蔵施設事業において発生した事故事例と対応等について（2025年11月環境安全委員会報告以降）

参考資料 中間貯蔵施設による環境への影響の予測・評価について

資料3 令和7年度中間貯蔵施設における福島県の取組について

資料3別添 令和7年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング結果



中間貯蔵施設事業の状況等について

2026年3月

環境省

事業の方針

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

総論

- 安全を第一に、地域の理解を得ながら、住民の帰還や生活に支障を及ぼさないよう、事業を実施する。

輸送

- 特定帰還居住区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さない輸送も実施する。
- 安全で円滑な輸送のため、以下の対策を実施する。
 - ・運転者研修等の交通安全対策や必要な道路補修等を実施し、安全な輸送を確保
 - ・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など、特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化
- 福島県と連携し、市町村と調整の上、立地町である大熊町・双葉町への配慮等をしつつ、計画的な輸送を実施する。

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

用地

- 着実な事業実施に向け、丁寧な説明を尽くしながら、施設整備の進捗状況、除去土壌等の発生状況に応じて、必要な用地取得を行う。

施設

- 新たな受入・分別施設の設計・工事を進め、令和8年度中の稼働を目指す。これまでの知見や除染の進捗等を踏まえた更なる施設整備の検討を進める。なお、新たな施設を整備するまでの間は、搬入した除去土壌等は保管場において適切に保管する。
- 土壌貯蔵施設は、安全性を確保しつつ、適切な維持管理を徹底する。
- 仮設焼却施設及び仮設灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設は、安全に稼働しつつ有効に活用する。
- 各種施設等においては、防犯対策を含め、適切な管理を実施する。

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

復興再生利用・県外最終処分

- 福島県内で発生した除去土壌等については、中間貯蔵開始後30年以内(2045年3月まで)に、福島県外での最終処分を完了するため、復興再生利用・最終処分の基準、今後の進め方等に基づき、着実に取り組んでいく。
- 再生利用の推進等に係る閣僚会議での議論を踏まえつつ、各府省庁と連携し、地元の御理解を得ながら、理解醸成の場としても活用しうる復興再生利用の案件創出、実用途における先行事例の創出に向けた検討を進める。
- 最終処分場の構造・必要面積等の複数選択肢を踏まえ、最新技術や知見に関する情報を収集しつつ、県外最終処分の管理終了、中間貯蔵施設内での取り出し・運搬、減容技術等の効率化・低コスト化、減容技術の組合せ、減容化後の処分方法、県外最終処分場に関する立地の技術的事項、最終処分対象物の放射能濃度と社会的受容性、地域とのコミュニケーションや地域共生のあり方、候補地選定のプロセス等を検討する。

理解醸成・情報発信

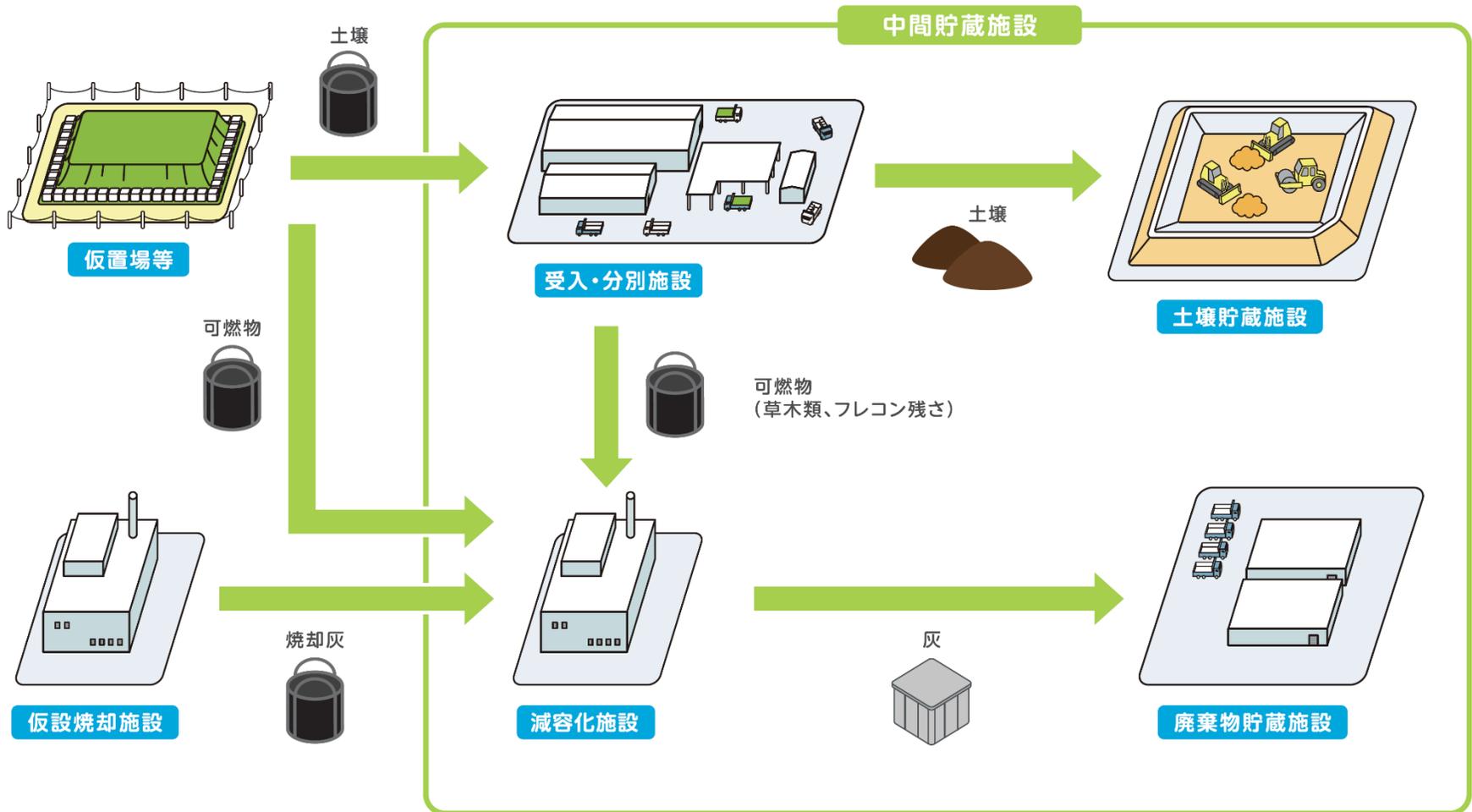
- 除去土壌等の県外最終処分の実現、復興再生利用の推進に向けて、その必要性・安全性等に対する全国民的な理解・信頼の醸成を進めること、特に、地元自治体、地域住民等による社会的受容性の段階的な拡大・深化を図ることを継続的に進める。
- 中間貯蔵事業情報センターや復興再生利用の現場等を有効に活用しつつ、現場視察・見学会の充実や地方自治体・関係省庁等との連携を推進し、より多くの方に福島の復興・環境再生の取組や地元の思いなどを発信する。

施設の整備

中間貯蔵施設事業の流れ

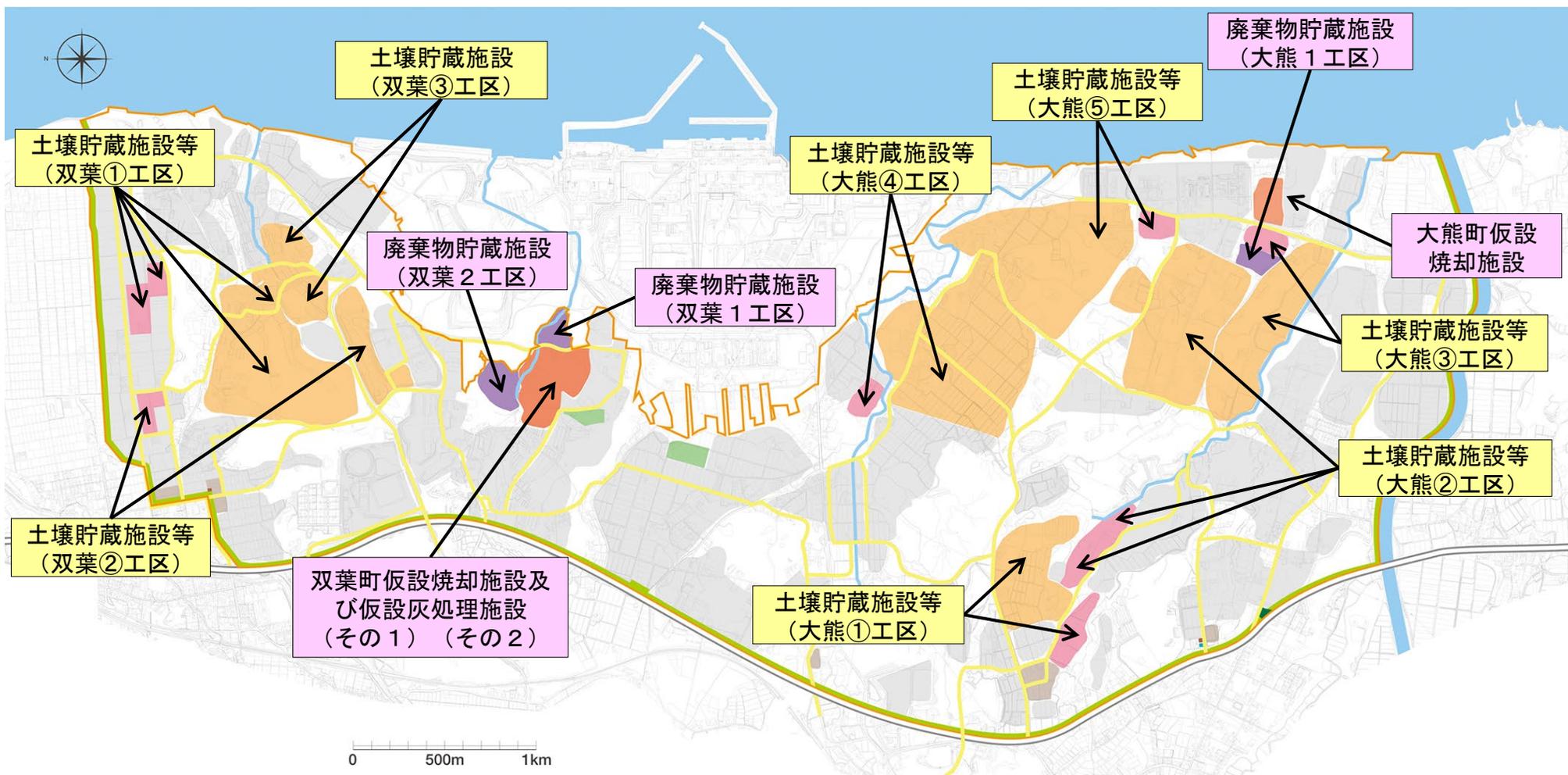
○ 仮置場や仮設焼却施設から輸送した除去土壌等は、中間貯蔵施設で処理し、貯蔵する。

中間貯蔵施設事業の流れ



● 主な物の流れを示しています。

主な施設の配置



- | | | | | | | | |
|--|---------|---|---------|---|-----------|---|------|
|  | 土壤貯蔵施設 |  | 仮設焼却施設 |  | スクリーニング施設 |  | 保管場等 |
|  | 受入・分別施設 |  | 廃棄物貯蔵施設 |  | 技術実証施設 | | |

土壌貯蔵施設の概要

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
貯蔵容量 ^{※1}	約103万 ³ m ³	約297万 ³ m ³ ^{※2}	約167万 ³ m ³ ^{※2,3}	約180万 ³ m ³	約269万 ³ m ³ ^{※2,3}	約105万 ³ m ³ ^{※2,3}	約85万 ³ m ³	約77万 ³ m ³ ^{※2,3}
貯蔵量 ^{※1}	約103万 ³ m ³	約289万 ³ m ³	約167万 ³ m ³	約171万 ³ m ³	約221万 ³ m ³	約102万 ³ m ³	約85万 ³ m ³	約63万 ³ m ³
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 貯蔵開始 2023年1月 貯蔵完了	2017年10月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2018年10月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2020年3月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2019年4月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2017年12月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2019年5月 貯蔵開始 2022年9月 貯蔵完了	2019年12月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)

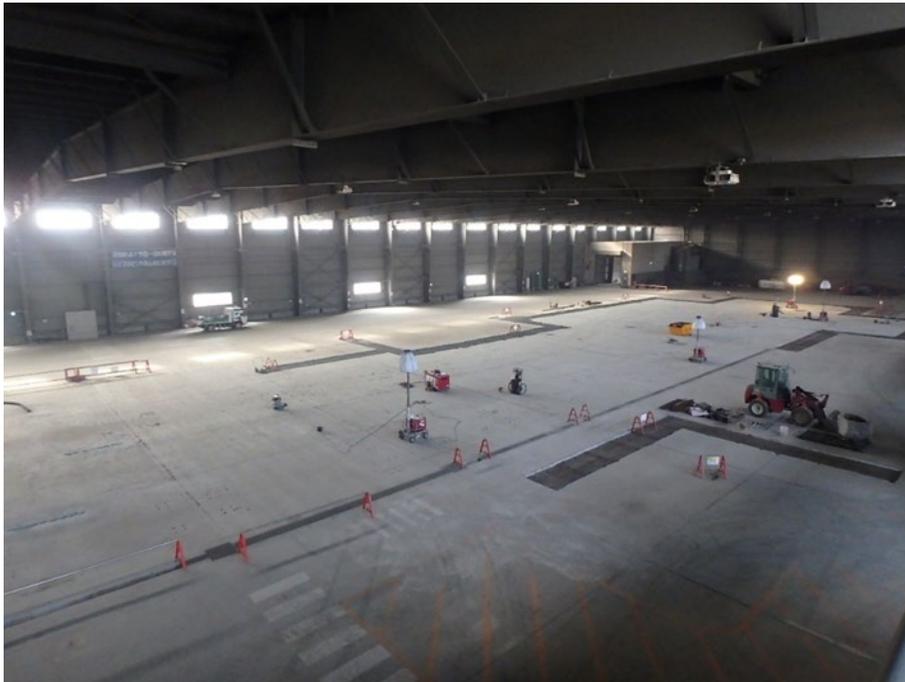
※1 貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋＝1 m³で換算）であり締め固め前。

※2 今後、必要に応じ堰堤を造成し、容量を増やす予定の工区。

※3 ※2のうち現行工事において堰堤の造成を行う工区。

土壌貯蔵施設等（大熊①工区）の状況

- 2017年9月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転及び除去土壌の貯蔵を開始し、2023年1月に貯蔵完了。
- 2022年8月から受入・分別施設の解体を開始し、2022年12月に解体完了。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ★: 土壌貯蔵施設

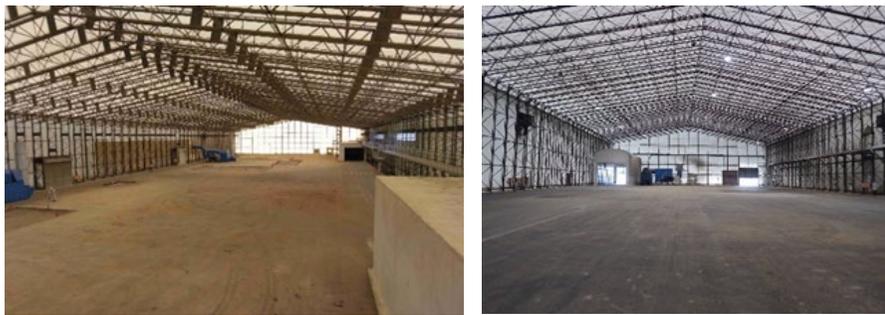
● 貯蔵量 約 103 万 m^3

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年 2月 28日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊②工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年8月及び2018年7月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年10月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2022年5月から受入・分別施設の解体を開始し、2022年10月及び2023年10月に解体完了。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 289 万 m^3

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊③工区）の状況

- 2017年11月に施設の工事に着手。
- 2018年7月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2018年10月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2023年6月から受入・分別施設の解体を開始し、2023年11月に解体完了。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ★: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 167 万 m^3

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊④工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年8月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2020年3月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2023年4月に受入・分別施設の解体を開始し、2023年11月に解体完了。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

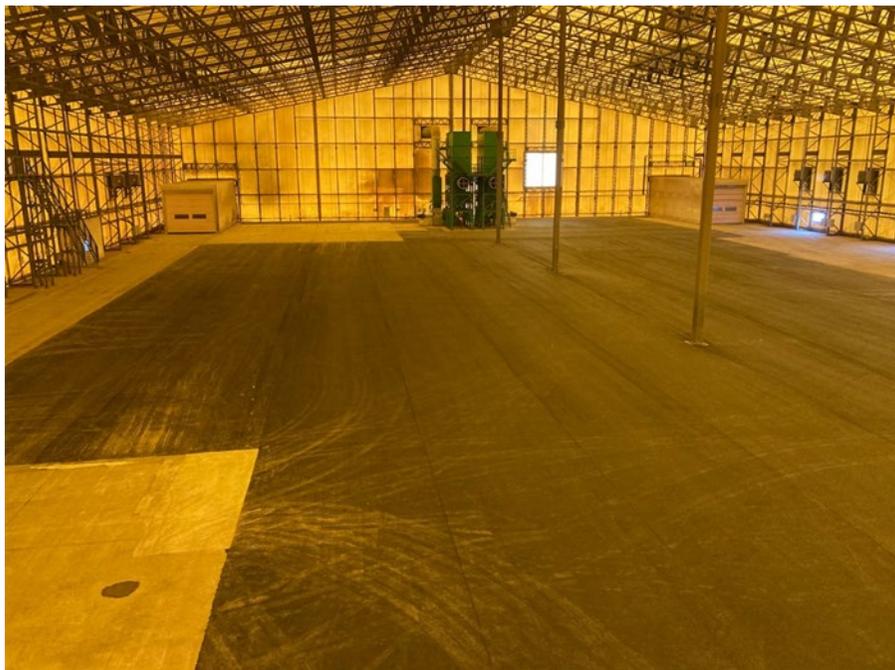
● 貯蔵量 約 171 万 m^3

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

土壌貯蔵施設等（大熊⑤工区）の状況

- 2018年10月に施設の工事に着手。
- 2019年8月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年4月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2023年6月に受入・分別施設の解体を開始し、2024年1月に解体完了。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 221 万 m^3

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

土壌貯蔵施設等（双葉①工区）の状況

- 2016年11月に施設の工事に着手。
- 2017年6月及び2018年9月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2017年12月に除去土壌の貯蔵を開始。
- 2022年4月から受入・分別施設の解体を開始し、2022年11月及び2024年2月に解体完了。



受入・分別施設



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 102 万³m

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

土壌貯蔵施設等（双葉②工区）の状況

- 2018年1月に施設の工事に着手。
- 2019年2月に受入・分別施設の運転を開始。
- 2019年5月に除去土壌の貯蔵を開始し、2022年9月に貯蔵完了。
- 2022年4月から受入・分別施設の解体を開始し、2022年10月に解体完了。



受入・分別施設



土壌貯蔵施設

施設の位置



- ★: 受入・分別施設
- ☆: 土壌貯蔵施設

● 貯蔵量 約 85 万 m^3

※測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

土壤貯蔵施設（双葉③工区）の状況

- 2018年9月に施設の工事に着手。
- 2019年12月に除去土壤の貯蔵を開始。



施設の位置

土壤貯蔵施設



☆: 土壤貯蔵施設

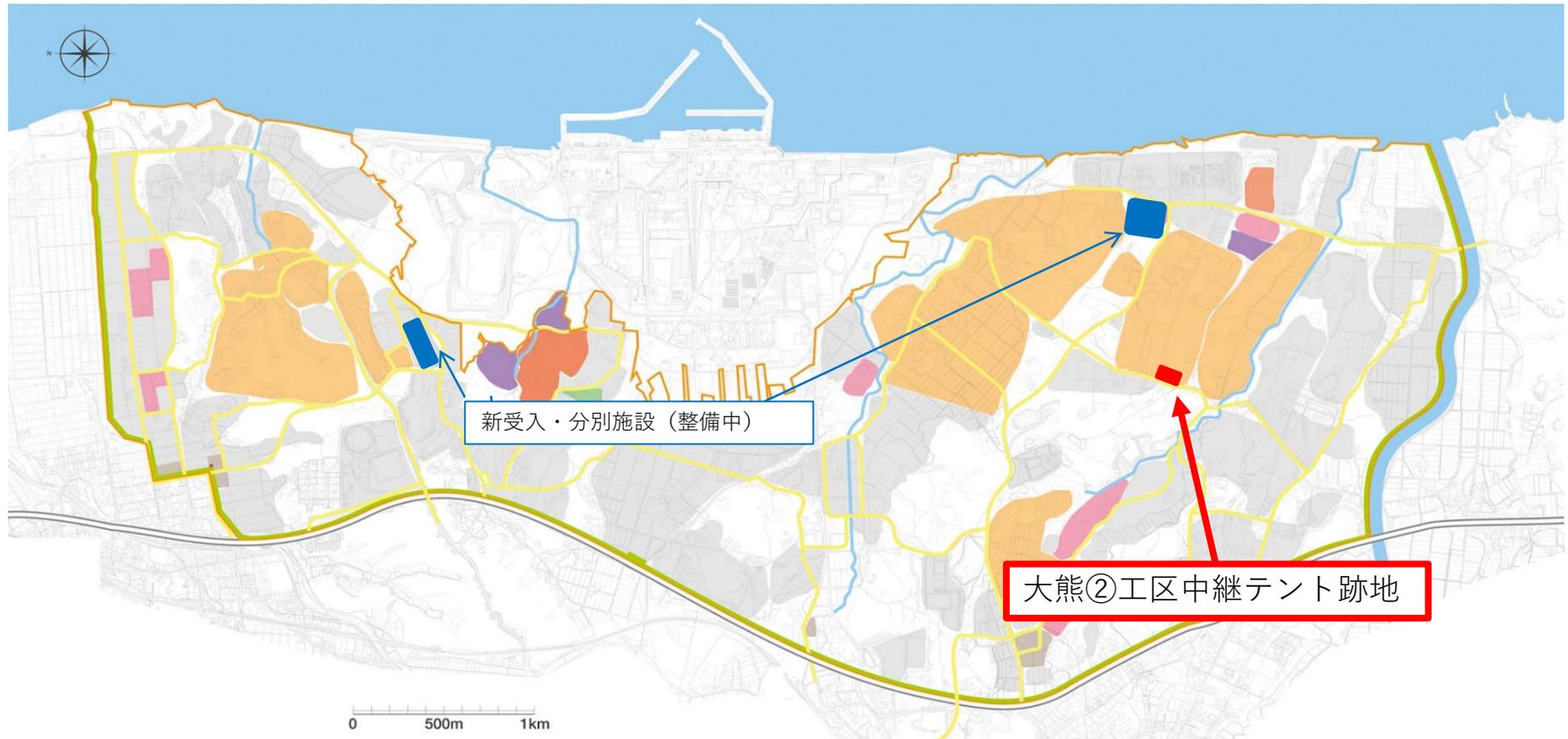
● 貯蔵量 約 63 万 m^3

※ 測量に基づく貯蔵量(輸送量ベース)

(2026年2月28日時点)

今後の受入・分別施設の設置について

- 現在整備中の受入・分別施設(大熊町、双葉町各1基)については、令和8年度内の稼働開始に向けて整備を進めている。
- 加えて、特定帰還居住区域等の除染範囲の拡大に対応しつつ、復興再生利用・県外最終処分に向けた取組を加速化するため、3基目の受入・分別施設を整備し、令和10年度中に稼働開始を目指している。
- 予定地については、立地条件等を考慮して、「大熊②工区中継テント跡地」に建設することとしたい。



新受入・分別施設及び土壌貯蔵施設工事の概要

工事件名	令和7～10年度中間貯蔵大熊地区 受入分別処理・貯蔵工事			令和7～10年度中間貯蔵双葉地区 受入分別処理・貯蔵工事	
土壌貯蔵工区	大熊4工区	大熊5工区	双葉3工区	大熊3工区	双葉1工区
概要	既設テントを活用した受入・分別施設および土壌貯蔵施設を整備するとともに、整備後は土壌の受入・分別処理、土壌貯蔵施設への埋立てを行う。			受入・分別施設および土壌貯蔵施設を整備するとともに、整備後は土壌の受入・分別処理、土壌貯蔵施設への埋立てを行う。	
受入・分別 要求処理能力	100袋/時以上			100袋/時以上	
受注者	清水JV			大林JV	
工期 ※継続工事あり	令和7年9月～令和11年3月			令和7年9月～令和11年3月	

中間貯蔵容器残さ分別処理工事①

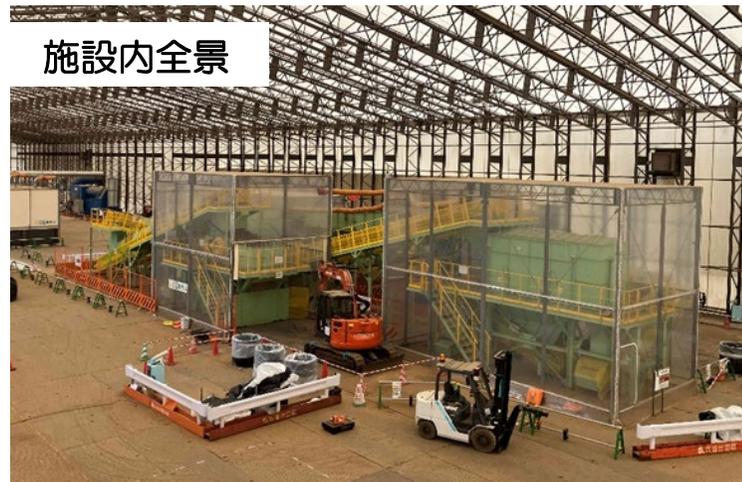
●破袋した容器残さに付着する土石等を土・石・フレコン片に分別処理する工事

【 処理工程 】

- ①運搬 保管場から容器残さフレコンを運搬する
- ②仮置き 建屋内へ搬入・仮置きする
- ③開封 フレコンを開封し、中に入った容器残さを取り出す
- ④乾燥 容器残さを乾燥室で乾燥させる
- ⑤分別処理 乾燥した容器残さを、1次ふるい機と振動ふるい機により100mmで分別した後、2次ふるい機により40mm以下の土砂に分別する。回収した容器残さはフレコンに詰める
- ⑥搬出 容器残さおよび分別した土砂を保管場等に搬出する
- ⑦保管場等定置 分別処理した容器残さフレコンを置場へ定置する

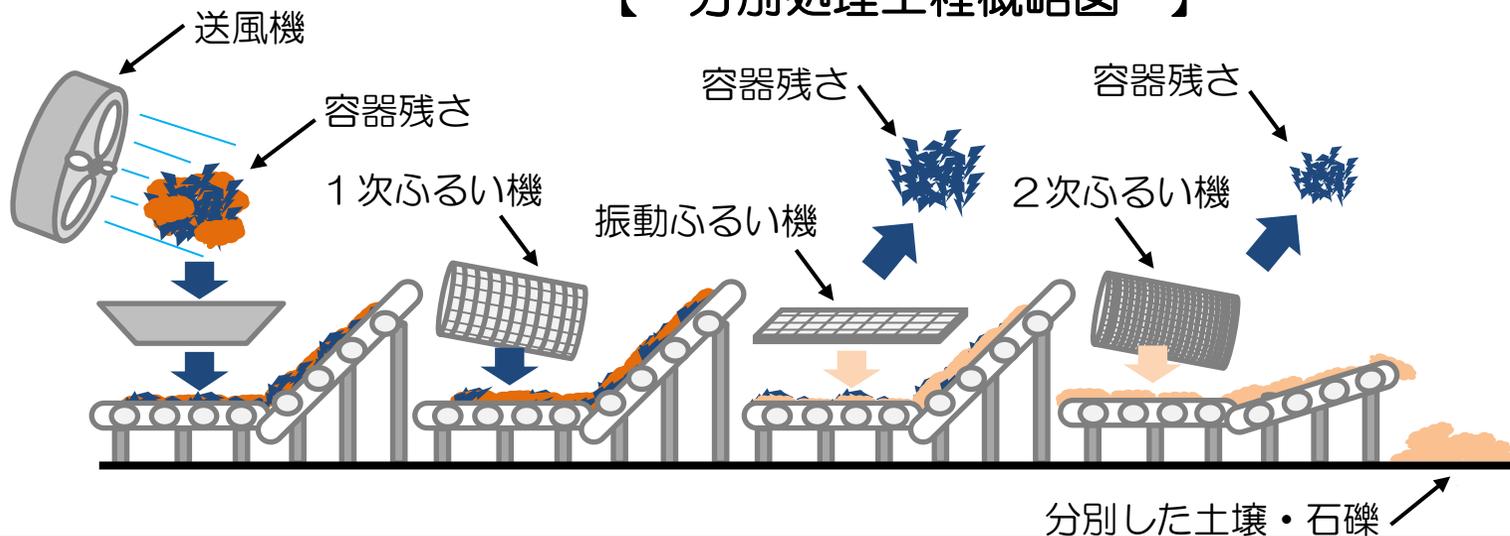
分別処理

施設内全景



処理期間（R7年8月からR8年2月）で合計2,901t処理済

【 分別処理工程概略図 】



分別処理前



分別処理後



中間貯蔵容器残さ分別処理工事②

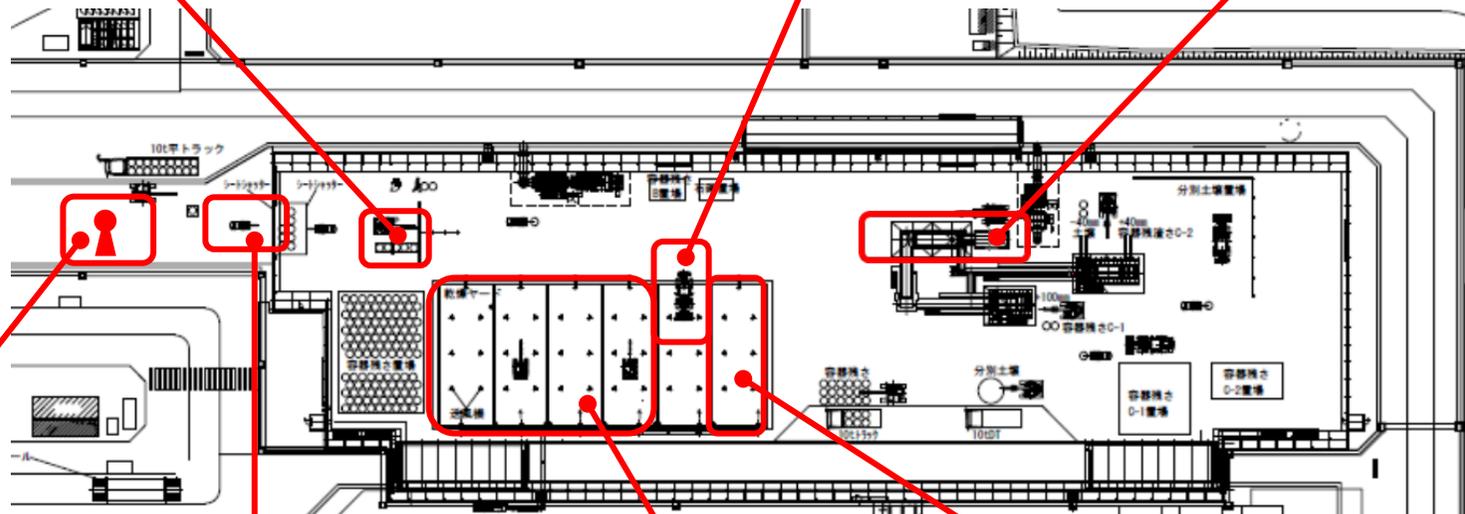
- 「令和7年度の中間貯蔵施設事業の方針」において、「安全を第一に、地域の理解を得ながら、住民の帰還や生活に支障を及ぼさないように事業を実施する」としており、これまでの工事事故の発生状況や要因を踏まえ事故防止対策（物理的、電氣的、運用的）を実施。

【主な事故防止対策】

【電氣的】
機械設備をガードフェンスで全周囲い、出入口開閉時に機械が緊急停止（インターロック機構）

【物理的】
立入禁止区域を設置

【運用】
工法の作業員検知AIカメラ設置（ホイールローダー）



【運用】
フォークリフト運転中は
作業員が定位置で待機

【物理的】
エンジン稼働時はパトライト点灯
(稼働認識)

【運用】
容器残さ乾燥（昼：エアコンと扇風機、夜：エアコン）
「※火災リスク低減のためジェットヒーターを使用せず」

【運用】
クレーンフォークとホイールローダーは
同一区画で同時動作を禁止

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	<ul style="list-style-type: none"> 仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設焼却施設： 150 t / 日 × 1 炉 (シャフト炉) 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (表面溶融炉) 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (コークスベッド式灰溶融炉)
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月 ※2026年度末で運営終了予定
処理対象物	<ul style="list-style-type: none"> 大熊町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 	<ul style="list-style-type: none"> 双葉町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 中間貯蔵施設内で発生する焼却残さ及び中間貯蔵施設内に搬入した焼却残さ 	同左
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPTJV	JFE・前田JV

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の処理量等

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
処理量 (2025年9月 ~2026年2月 末)	可燃物 : 373,186トン (+17,329トン)	可燃物 : 232,093トン (+18,457トン) 焼却残渣 : 179,226トン (+14,879トン)	可燃物 : 169,276トン (+17,953トン) 焼却残渣 : 147,882トン (+12,403トン)
焼却灰等の 放射性物質濃 度	焼却灰 : 3,600~ 180,000Bq/kg ばいじん : 6,900~ 290,000Bq/kg	ばいじん : 12,000~ 660,000Bq/kg スラグ : 9~6,700Bq/kg	ばいじん : 1,600~ 360,000Bq/kg スラグ : 22~7,200Bq/kg
外観			

廃棄物貯蔵施設の概要

【貯蔵対象物】

- 主に双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじん（鋼製角形容器に封入し、積み上げて貯蔵）

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（2棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）
貯蔵容量	29,280個	14,678個	30,028個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
施設の位置			
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵スケジュール	2020年4月 貯蔵開始	2020年3月 貯蔵開始 2024年12月 貯蔵完了	2023年12月 貯蔵開始
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理受注者	安藤・間JV	JESCO	安藤・間JV

廃棄物貯蔵施設の貯蔵量等

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
貯蔵量 (2025年9月末 ~2026年2月末)	鋼製角形容器：15,388個 (+1,186個)	鋼製角形容器：14,678個 (+0個：貯蔵完了)	鋼製角形容器：5,521個 (+1,800個)
外観			
貯蔵状況			

輸送・道路交通対策

中間貯蔵施設に係る輸送の状況

- 中間貯蔵施設への輸送にあたっては、安全を第一に、地域の理解を得ながら、輸送を実施する。
- これまでに約**1,426万 m^3** の除去土壌等(帰還困難区域を含む)を中間貯蔵施設に輸送した。
(2026年2月末時点)



(注) 端数処理の関係により合計が一致しない場合がある。

(注) 輸送量には除染現場からの仮置場を介さない輸送(直送)量を含む。

2025年度、2026年度の中間貯蔵施設への搬入量

市町村名	2025年度 輸送予定量(m ³)※	2025年度 輸送実績量(m ³) (2026年2月末時点)	2026年度 輸送予定量(m ³)※
南相馬市	2,000	2,506	3,000
富岡町	30,000	32,084	10,000
大熊町	103,000 (うち基幹輸送30,000、直送73,000)※	61,479 (うち基幹輸送17,634、直送43,845)※	182,000 (うち基幹輸送40,000、直送142,000)※
双葉町	78,000 (うち基幹輸送10,000、直送68,000)※	23,953 (うち基幹輸送10,872、直送13,081)※	144,000 (うち基幹輸送14,000、直送130,000)※
浪江町	39,000	46,015	89,000
飯舘村	12,000	14,258	20,000
合計	264,000 (うち基幹輸送123,000、直送141,000)※	180,295 (うち基幹輸送123,369、直送56,926)※	448,000 (うち基幹輸送176,000、直送272,000)※

※ ①実際の搬入量や輸送対象市町村は、下記の要因により変更の可能性がある。

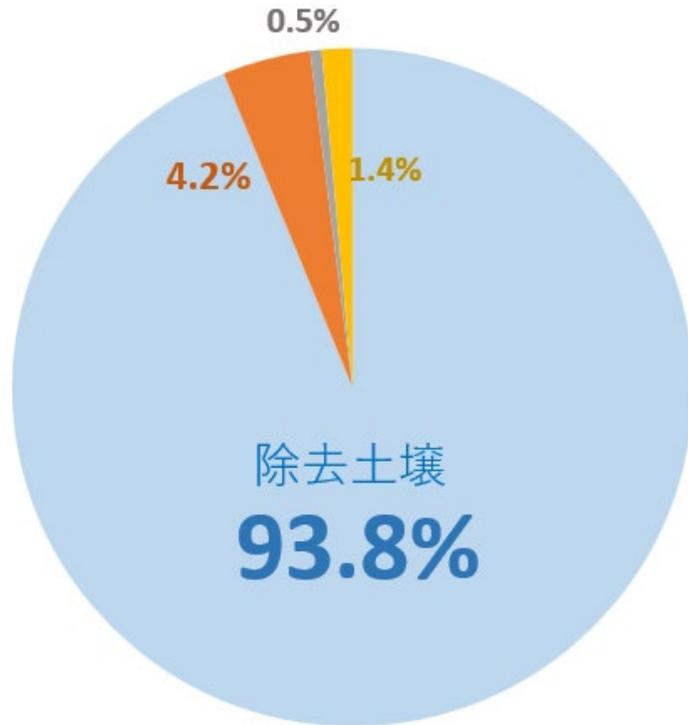
- ・自然災害等が発生した場合。
- ・年度をまたぐ前倒し・繰越しを行う場合。
- ・輸送対象物の発生見込数量が変わる場合。

②特定復興再生拠点区域、特定帰還居住区域、その他において発生する除去土壌等を計上。

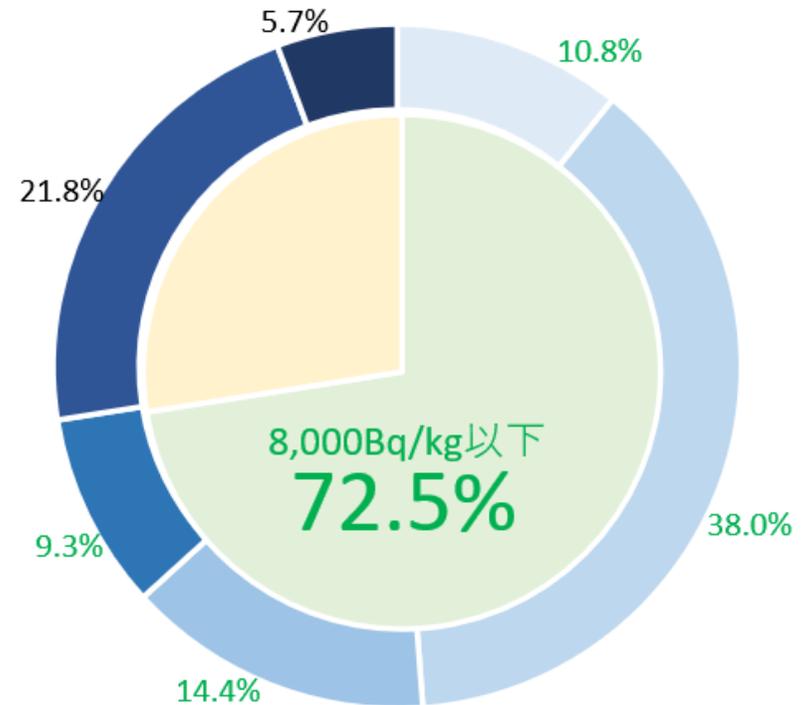
③除染実施者が仮置場を介さず直接中間貯蔵施設に除去土壌等を搬入(直送)する数量も計上。

中間貯蔵施設に輸送した除去土壌等の種類と濃度の分布

- 2026年2月末までに輸送した除去土壌等のうち、**土壌が93.8%**であり、**可燃物は4.2%**、**焼却灰1.4%**である。
- 除去土壌について、輸送時に仮置場等で測定した表面線量率及び重量によって換算した放射能濃度の分布を見ると、**8,000Bq/kg以下が約4分の3**を占めている。 ※1袋=1m³換算での体積での比率



■ 除去土壌 ■ 可燃物 ■ その他不燃 ■ 焼却灰



■ 1,000Bq/kg以下 ■ 1,000～3,000Bq/kg
■ 3,000～5,000Bq/kg ■ 5,000～8,000Bq/kg
■ 8,000～20,000Bq/kg ■ 20,000Bq/kg超

(注)小数点以下は四捨五入している。そのため合計が一致しない場合がある。

輸送ルートと道路交通対策（大熊町）

至 常磐双葉IC

至 南相馬市



至 広野IC

至 いわき市

輸送ルートの凡例	
——	輸送ルート
	中間貯蔵施設

輸送ルート



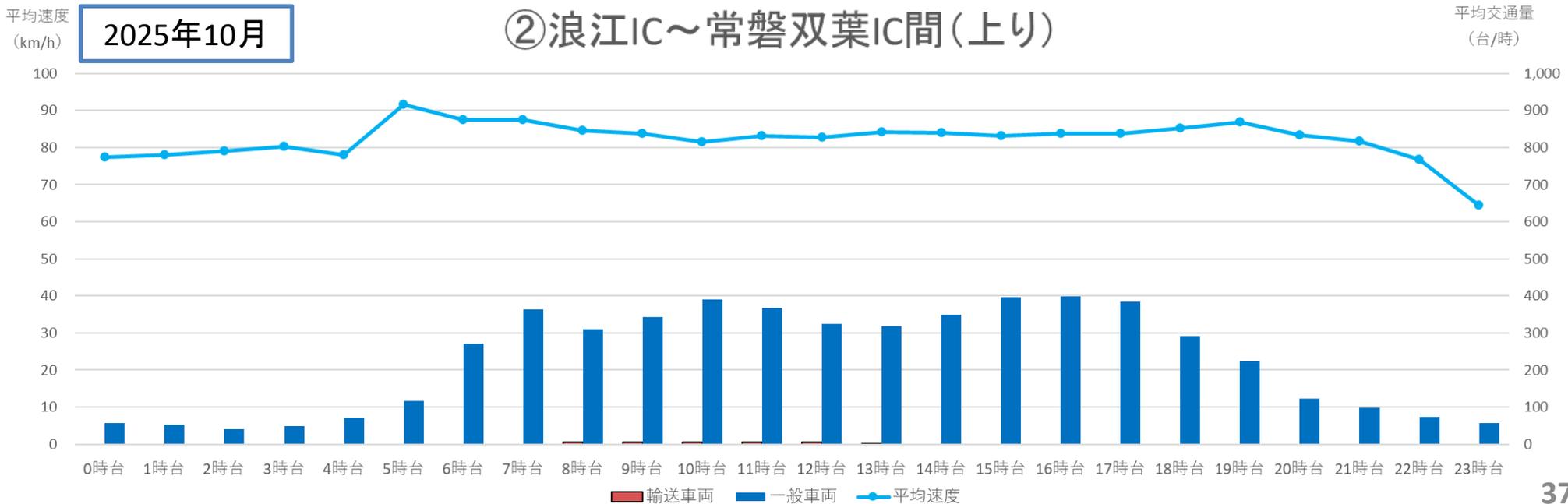
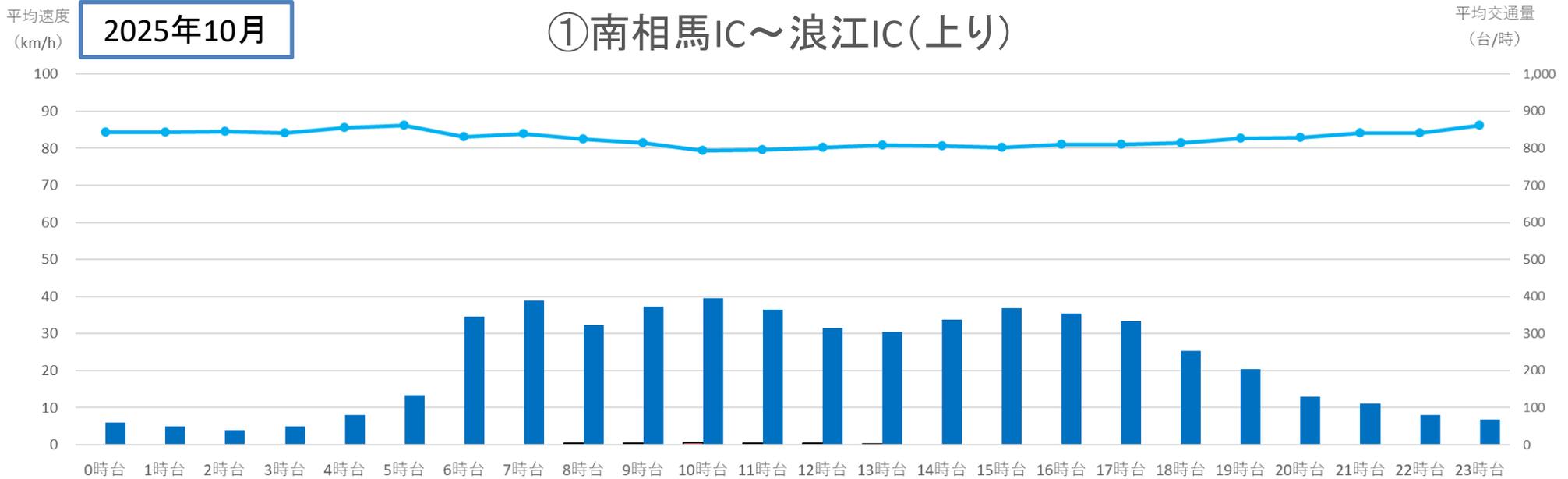
※データ集計の条件

- 速度データ(NEXCOトラカンデータ)
 - ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。
また、通行止め等の時間帯を控除。
- 一般車両(NEXCOトラカンデータ)
 - ・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。
また、通行止め等の時間帯を控除。
 - ・1日当たりの平均輸送車両台数を控除。
- 輸送車両(輸送課実走行データ)
 - ・1日当たりの平均輸送車両台数。
また、通行止め等の時間帯を控除。

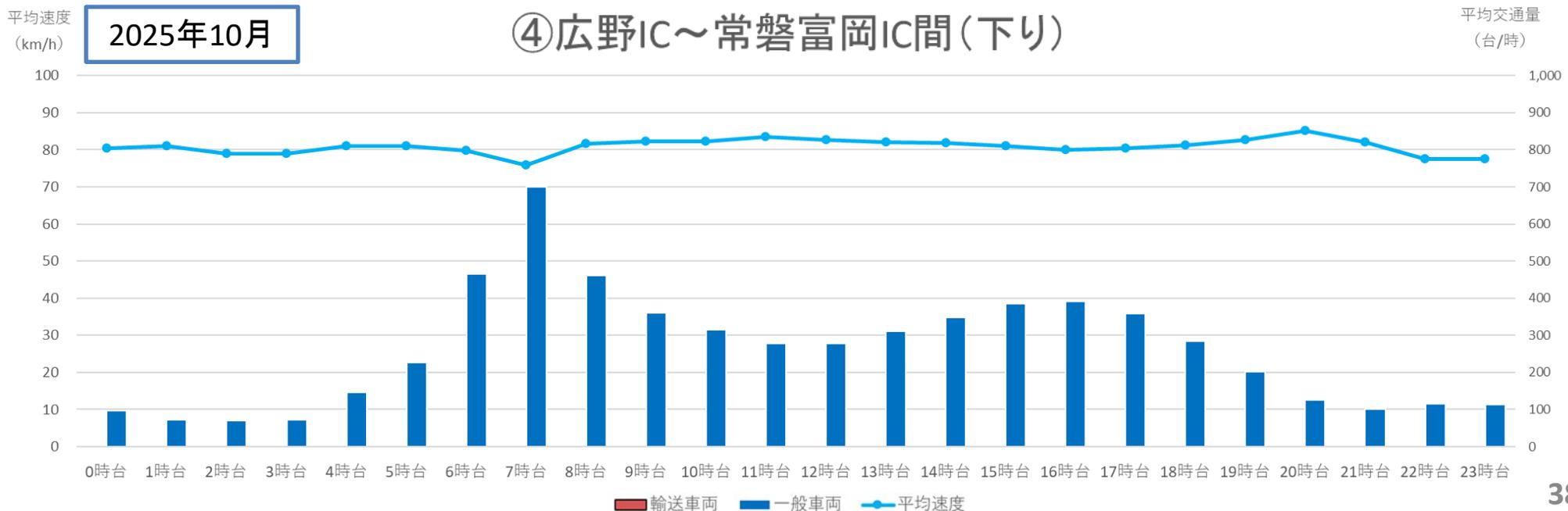
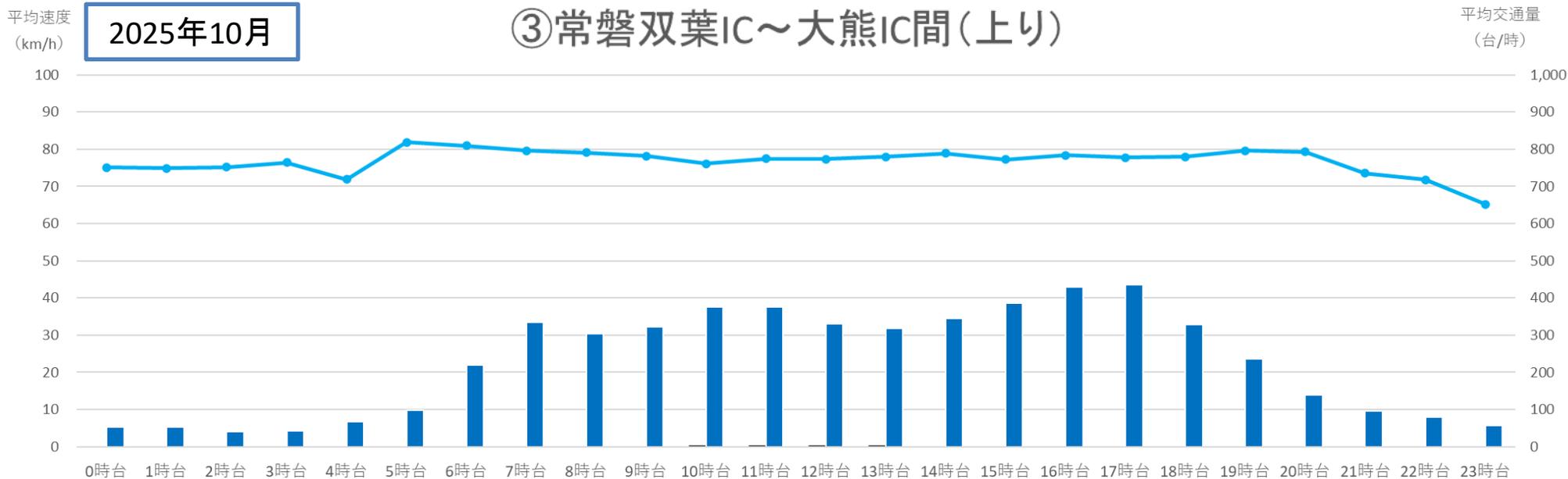
NEXCO東日本

- ④広野IC~常磐富岡IC間及び⑤いわき四倉IC~広野IC間は、基本的に現在輸送車両は通行していない。
- 引き続き、関係機関と連携の上、当該エリアを含む輸送ルートの交通状況を注視していく。

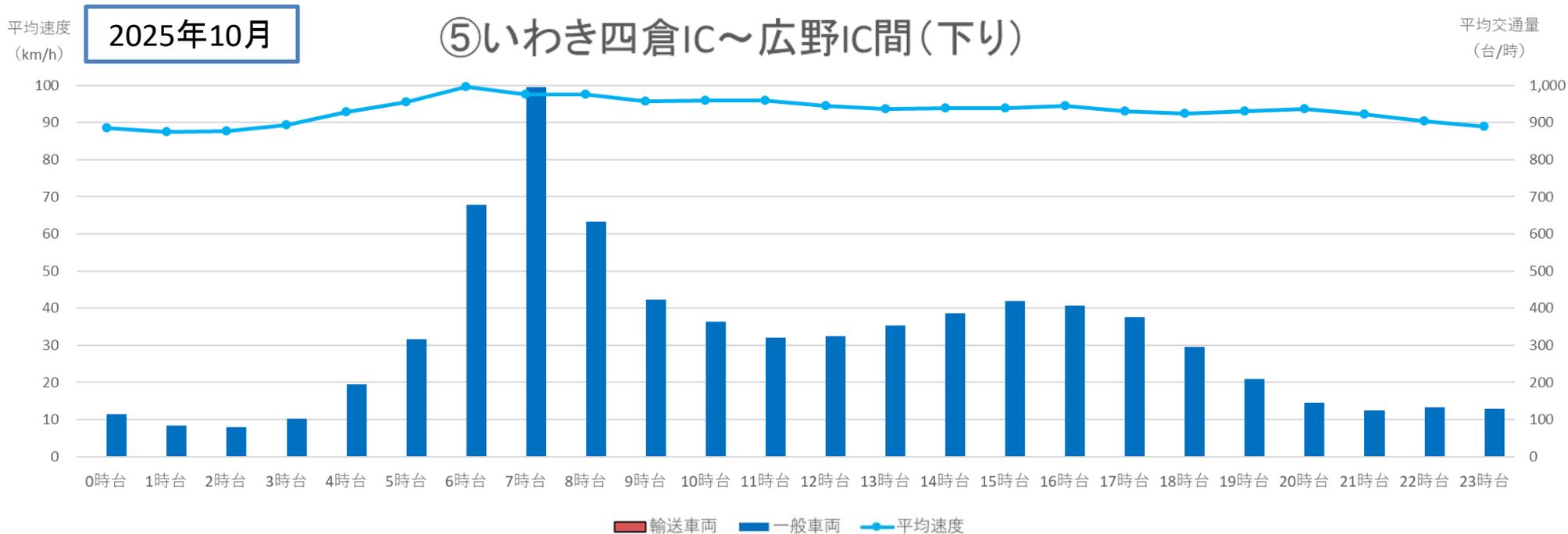
輸送ルート常磐道の交通状況 その1



輸送ルート常磐道の交通状況 その2



輸送ルート常磐道の交通状況 その3



モニタリング等

- 2025年10月1日から2026年2月28日の中間貯蔵施設のモニタリングにおいては、双葉③工区土壌貯蔵施設の地下水年次測定(2026年1月16日)においてダイオキシン類の基準超過が確認されたが、解析の結果、農薬由来と推定されている。それ以外のモニタリングでは基準超過等は確認されなかった。

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その1）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水（井戸）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊①工区	2025年10月17日～ 2026年2月17日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2023年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.4
	大熊②工区	2025年10月9日～ 2026年2月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.7
	大熊③工区	2025年10月9日～ 2026年2月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.9
	大熊④工区	2025年10月2日～ 2026年2月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月2日～ 2026年2月24日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2024年5月以降＜稼働中＞として管理）	資料1別添 P.13
	双葉①工区東側	2025年10月7日～ 2026年2月26日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2021年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.15
	双葉①工区西側	2025年10月14日～ 2026年2月12日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.17
	双葉②工区	2025年10月7日～ 2026年2月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2023年2月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.20
	双葉③工区	2025年10月7日～ 2026年2月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.22
● 地下水（集排水設備）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊①工区	2025年10月20日～ 2026年2月19日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区	2025年10月20日～ 2026年2月19日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
	大熊③工区	2025年10月20日～ 2026年2月19日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.9
	大熊④工区	2025年10月20日～ 2026年2月19日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月20日～ 2026年2月19日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	双葉①工区東側	2025年10月8日～ 2026年2月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.15
	双葉①工区西側	2025年10月8日～ 2026年2月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.17
	双葉②工区	2025年10月8日～ 2026年2月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	双葉③工区	2025年10月8日～ 2026年2月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.22

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その2）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
■ 処理水放流先河川の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	大熊①工区	2025年10月17日 ~ 2026年2月17日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設 (大熊②工区) の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区	2025年10月9日 ~ 2026年2月10日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水の放射能濃度 (週1回) は全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であった。	資料1別添 P.7
	大熊③工区	2025年10月9日 ~ 2026年2月10日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設 (大熊②工区) の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.9
	大熊④工区	2025年10月2日 ~ 2026年2月3日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水の放射能濃度 (週1回) は、全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であった。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月2日 ~ 2026年2月3日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設 (大熊④工区) の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.13
	双葉①工区東側	2025年10月7日 ~ 2026年2月26日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。 (当施設で発生した浸出水は、土壌貯蔵施設 (双葉③工区) の浸出水処理施設へ移送される。)	資料1別添 P.15
	双葉①工区西側	2025年10月14日 ~ 2026年2月12日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設 (大熊④工区) の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.17
	双葉②工区	2025年10月7日 ~ 2026年2月5日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設 (大熊②工区) の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.20
	双葉③工区	2025年10月7日 ~ 2026年2月5日 (月1回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設 (大熊④工区) の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.22
河川最下流における放射性セシウムの測定結果	前田川	2026年1月8日 (年4回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
	細谷川	2026年1月8日 (年4回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
	陳場沢川	2026年1月8日 (年4回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
	夫沢川	2026年1月8日 (年4回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
	小入野川	2026年1月9日 (年4回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.41
	熊川	2026年1月8日 (年4回)	全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.41

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設 その3）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★ 粉じん濃度	大熊②工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	最大値は2.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	最大値は1.8mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月3日～ 2026年2月20日（月1回）	最大値は0.9mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.13
★ 空間線量率 （作業環境）	大熊②工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	0.14～0.61μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	0.24～0.30μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月18日～ 2026年2月20日（月1回）	0.25～0.63μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.13
	双葉③工区	2025年10月24日～ 2026年2月20日（月1回）	2.93～2.95μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.22
★ 空気中の放射能濃度 （Cs134.Cs137）	大熊②工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月3日～ 2026年2月20日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
表面汚染密度 （★床 ★壁 ★設備 ★重機）	大熊②工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2025年10月7日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2025年10月18日～ 2026年2月21日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13

モニタリング結果概要（中間貯蔵容器残さ分別処理施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	東大和久容残分別テント	2025年10月3日～ 2026年1月7日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
◆ 排気中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	東大和久容残分別テント	2025年10月10日～ 2026年1月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
★ 粉じん濃度	東大和久容残分別テント	2025年10月3日～ 2026年1月9日（月1回）	最大値は0.3mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.25
		2026年2月2日 （月1回：解体中のモニタリング）	全て定量下限値未満であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.25
★ 空間線量率 （作業環境）	東大和久容残分別テント	2025年10月3日～ 2026年1月9日（月1回）	0.12～0.17μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.25
		2026年2月2日 （月1回：解体中のモニタリング）	0.12～0.14μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.25
★ 空気中の放射能濃度 (Cs134.137)	東大和久容残分別テント	2025年10月3日～ 2026年1月9日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
表面汚染密度 （★床★壁★設備）	東大和久容残分別テント	2025年10月20日～ 2026年1月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25

モニタリング結果概要（仮設焼却施設 大熊町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	大熊町仮設焼却施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	全て検出下限値(1Bq/Nm ³)未満であることを確認した。	資料1別添 P. 58
地下水(井戸)中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	大熊町仮設焼却施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P. 58
雨水(雨水排水集水桝)中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	大熊町仮設焼却施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P. 58
空間線量率	大熊町仮設焼却施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(毎日)	0.25 ～ 3.19 μ Sv/h の範囲であった。	資料1別添 P. 58
粉じん濃度	大熊町仮設焼却施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	今回の最大値は17mg/m ³ であった。	資料1別添 P. 58

モニタリング結果概要（仮設処理施設 双葉町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	双葉町仮設処理施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	全て検出下限値(1Bq/Nm ³)未満であることを確認した。	資料1別添 P. 60
地下水(井戸)中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	双葉町仮設処理施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P. 60
雨水(雨水排水集水桝)中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	双葉町仮設処理施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料1別添 P. 60
空間線量率	双葉町仮設処理施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(毎日)	0.12 ～ 0.31 μ Sv/h の範囲であった。	資料1別添 P. 60
粉じん濃度	双葉町仮設処理施設	2025年10月1日～ 2026年2月28日(月1回)	今回の最大値は3.13mg/m ³ であった。	資料1別添 P. 60

モニタリング結果概要（廃棄物貯蔵施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	大熊1工区	2025年10月1日～ 2026年2月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉1工区	2025年10月1日～ 2026年2月19日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2025年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.30
	双葉2工区	2025年10月1日～ 2026年2月2日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
★ 空間線量率 (作業環境)	大熊1工区	2025年10月24日～ 2026年2月25日（月1回）	0.10～9.95μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.28
	双葉1工区	2025年12月3日～ 2026年2月18日（月1回）	0.17～10.5μSv/hの範囲であった。 （2025年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.30
	双葉2工区	2025年10月24日～ 2026年2月25日（月1回）	0.07～9.52μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.32
表面汚染密度 (★床★壁)	大熊1工区	2025年10月24日～ 2026年2月25日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉1工区	2025年12月3日（年1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。 （2025年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.30
	双葉2工区	2025年10月24日～ 2026年2月25日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.32

モニタリング結果概要（技術実証フィールド）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆ 地下水中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
● 排気中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
★ 沈砂池からの放流水の 放射能濃度 (Cs134.Cs137)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
■ 処理水放流先河川の 放射能濃度 (Cs134.Cs137)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、対象期間中に処理水の放流実績はなかった。	資料1別添 P.35
★ 粉じん濃度	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月13日（月1回）	最大値は0.2mg/m ³ であり、高濃度粉じん作業（10mg/m ³ 超）に該当しない。	資料1別添 P.35
★ 空間線量率 (作業環境)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月13日（月1回）	0.08～0.70μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.35
★ 空気中の放射能濃度 (Cs134.Cs137)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
表面汚染密度 (★床★壁★設備)	技術実証フィールド	2025年10月2日～ 2026年2月13日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35

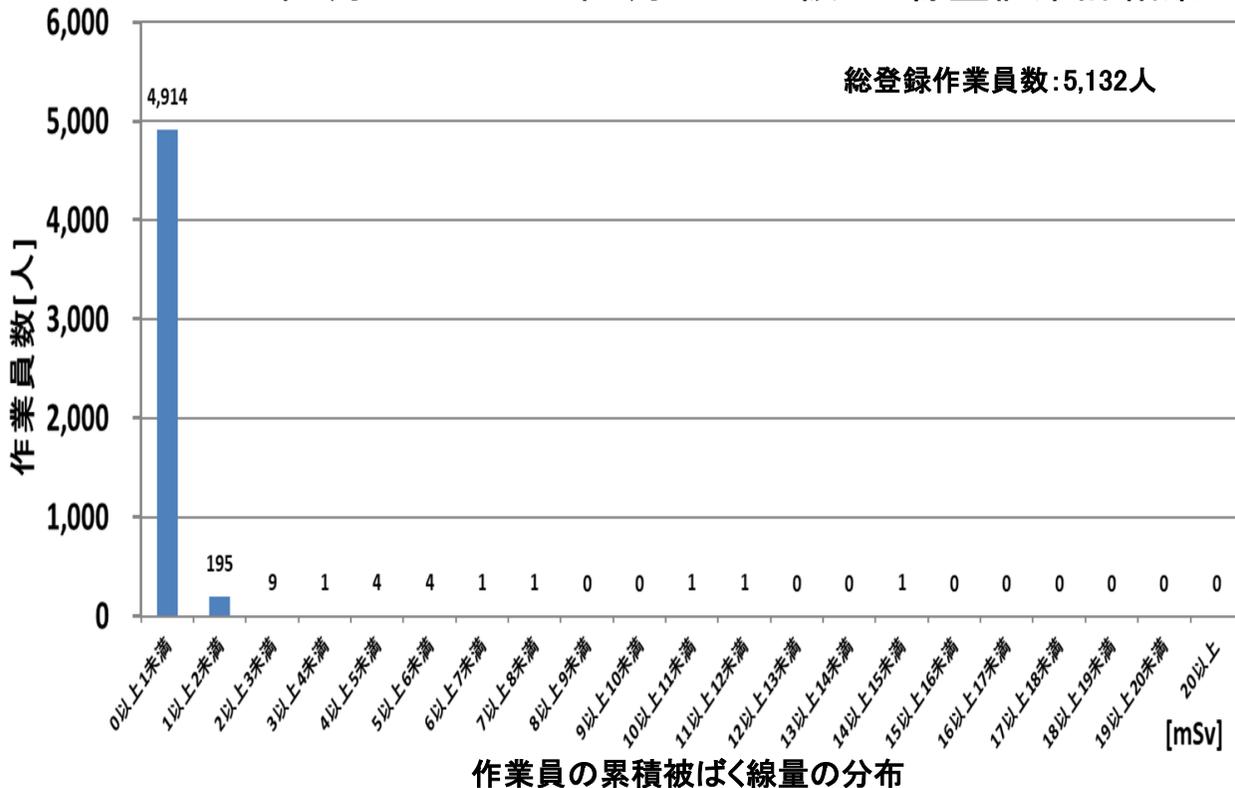
その他の空間線量率、放射能濃度等の測定結果

測定項目	対象期間	概要	詳細
各施設及び保管場等における空間線量率、地下水中放射能濃度 (Cs134.Cs137)	2025年10月1日 ~ 2026年2月28日	空間線量率については、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び除去土壌等を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。 また、解体作業を実施している施設や除去土壌の貯蔵作業が完了した施設においても周辺への影響は見られなかった。 地下水中の放射能濃度については、全て検出下限値 (1Bq/L) 未満であることを確認した。	資料1別添 P.62~64
中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度 (Cs134.Cs137)、空間線量率	2025年10月1日 ~ 2026年2月28日	大気中放射能濃度については、全て検出下限値未満であり、基準 (Cs134の濃度/20 + Cs137の濃度/30 ≤ 1) を下回った。 空間線量率については、通常の変動の範囲内で推移していることを確認した。	資料1別添 P.65,66
輸送路における放射線量率	2025年10月1日 ~ 2026年2月28日	輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。	資料1別添 P.69,70
仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率	2025年10月1日 ~ 2026年2月28日	全輸送車両が除去土壌の収集・運搬に係るガイドラインの基準の100μSv/hを十分に下回った。 (表面線量率が30μSv/hを超える大型土のうを積載した車両について測定を実施)	資料1別添 P.72
中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度	2025年10月1日 ~ 2026年2月28日	全輸送車両が退出基準の13,000cpmを十分に下回った。	資料1別添 P.73
中間貯蔵施設区域境界 (ゲート付近等) における空間線量率、表面汚染密度	2025年12月6日、2026年3月1日 (年4回)	空間線量率 (1m、表面) 及び表面汚染密度の測定結果において、低い数値となっていることを確認した。	資料1別添 P.75,76

作業員の被ばく線量①

- 仮置場等及び中間貯蔵施設の作業員、輸送車両の運転者等、全ての業務従事者の被ばく線量が、電離則及び除染電離則で定められた限度(5年間で100mSvかつ1年間で50mSv等)を超えないよう、各工事の受注者が管理している。具体的には、安全を見込んだ自主的な目安値(年間20mSvよりも低い数値)を設定し、管理している。
- 環境省は、各受注者が管理する作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、管理が適切に実施されていることを確認している。目安値を超える事例はなかった。

2025年9月1日～2026年1月31日の被ばく線量値集計結果



2021～2024年度毎の線量値集計結果

単位: mSv	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	集計単位: 人
20以上	0	0	0	0	0
19以上20未満	0	0	0	0	0
18以上19未満	0	0	0	0	0
17以上18未満	0	0	0	0	0
16以上17未満	2	1	0	0	3
15以上16未満	0	1	0	0	1
14以上15未満	1	0	1	0	2
13以上14未満	1	0	0	0	1
12以上13未満	3	0	1	1	5
11以上12未満	3	0	0	1	4
10以上11未満	0	0	0	1	1
9以上10未満	2	0	0	0	2
8以上9未満	3	0	0	3	6
7以上8未満	1	0	1	1	3
6以上7未満	1	0	2	2	5
5以上6未満	2	0	2	1	5
4以上5未満	3	0	2	2	7
3以上4未満	11	0	22	6	39
2以上3未満	112	13	60	41	226
1以上2未満	769	258	322	232	1,581
0以上1未満	10,528	10,253	7,461	5,727	33,969

※上記グラフは、2025年9月1日～2026年1月31日に中間貯蔵施設事業ならびに減容化事業に従事者登録された作業員の人数を示す。

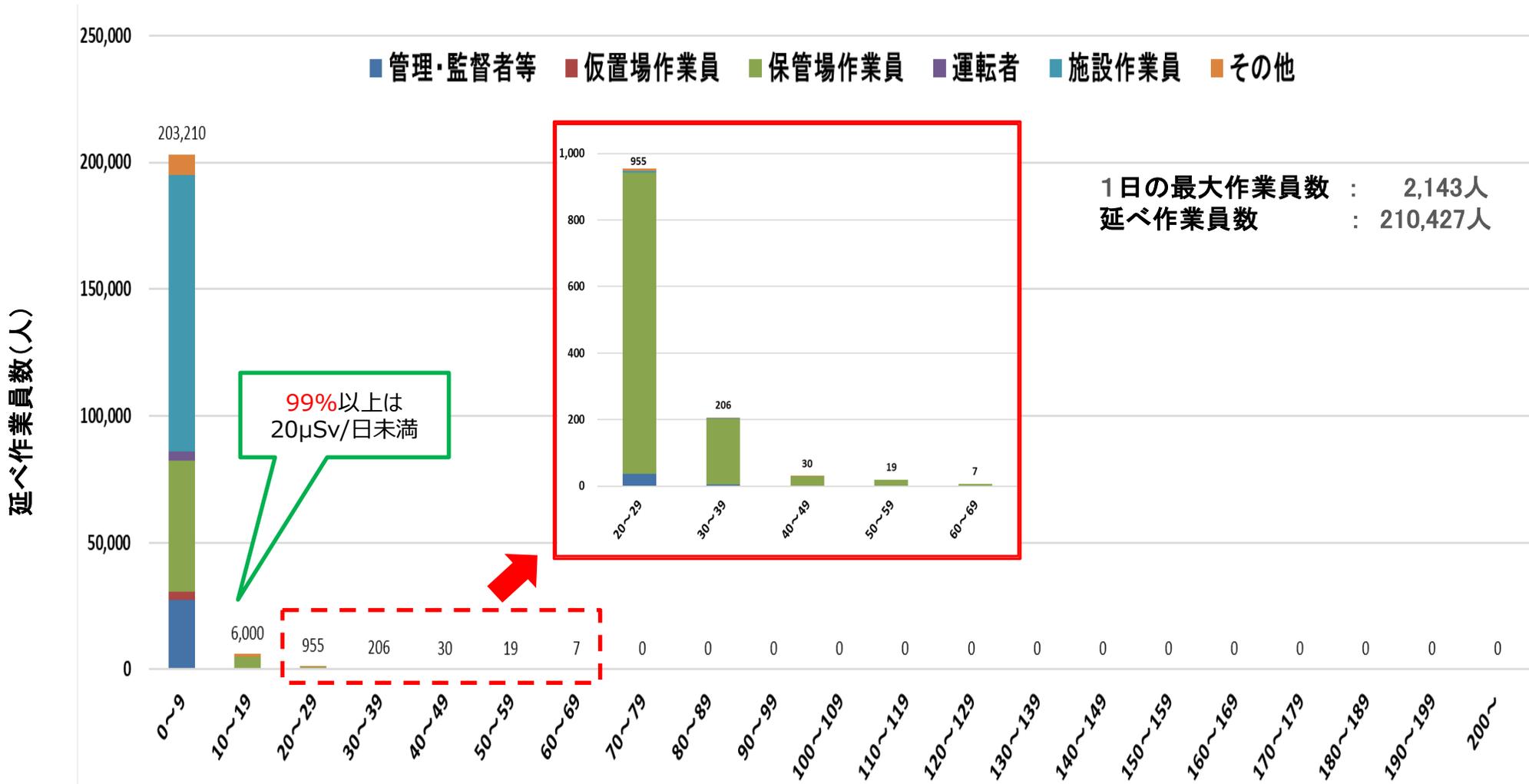
※中間貯蔵施設事業による被ばく線量に限ると、2025年度(2026年1月31日時点)での累積被ばく線量の最大値は4.41mSv。

2021年度～2024年度における年度別の累積被ばく最大値は、それぞれ4.00mSv、4.40mSv、3.80mSv、5.58mSv。

※2025年9月1日～2026年1月31日における女性従事者の3か月間の被ばく線量の最大値は0.86mSvであり、線量限度の5mSvを下回っている。過去最大は2018年度の3.00mSv。

※2025年9月の総作業員数2,032人に対し、女性従事者は106人で、女性割合は5.21%(2024年9月は3.93%)となっている。

作業員の被ばく線量②



作業員の日次被ばく線量の分布(2025年9月1日~2026年1月31日)

単位: μ Sv/日

※作業員数は、登録された作業員の延べ人数を示す。

1. 環境省業務の受注者（東京パワーテクノロジー（株））が発注した放射線測定器等の校正について、校正作業を請け負った（株）千代田テクノルの特定の社員が、校正部門に作業を依頼せず、自ら校正証明書及び校正シールを偽造していた事案に関して、東京パワーテクノロジー（株）より、機器の使用状況及び評価結果について報告がありました。
2. 不適切行為が、長期にわたって継続されていたことは大変遺憾であり、環境省では、令和7年12月25日付けで（株）千代田テクノルに対して指名停止措置を行いました。
また、環境省が発注している関係業務等の受注事業者に対して、本事案の周知と注意喚起を行う予定です。

【東京パワーテクノロジー株式会社からの報告内容】

- 不適切行為が行われた放射線測定器等が用いられた業務等は24件（中間貯蔵施設関連業務、仮設焼却炉等の管理運営業務、除去土壌等の輸送業務等）
- 不適切行為の対象となった放射線測定器等は以下の4種類
 - ・サーベイメータ
 - ・ダストサンプラー
 - ・粉じん計
 - ・積算型個人被ばく線量計
- 全ての機器の再校正及び使用状況の確認等の結果、安全性に影響はなかったことを確認。

中間貯蔵施設内におけるクマ対策

- ツキノワグマが福島県内増加傾向にあり、浜通りにも生息域を広げており、昨秋には中間貯蔵施設区域内でも目撃情報があった。今年度は大熊町側で2件、双葉町側で2件の目撃あり。
- そのため、①出没防止対策(クマを餌付かせない、居心地の良い環境を作らない)、②人身被害防止対策(クマとの遭遇を回避する)という対策を実施することとした。
- 具体的には、①の対策として、果樹の伐採や家屋周辺、道路沿い等の除草、②の対策として、受注者等への鈴・ラジオの携行の呼びかけやクマ撃退スプレーの推奨を実施している。
- また、中間貯蔵施設の視察においてもクマ対策を実施し、視察前の案内時の注意喚起のほか、降車前のクラクションの実施や動線の制限を実施している。

中貯内の果樹の伐採

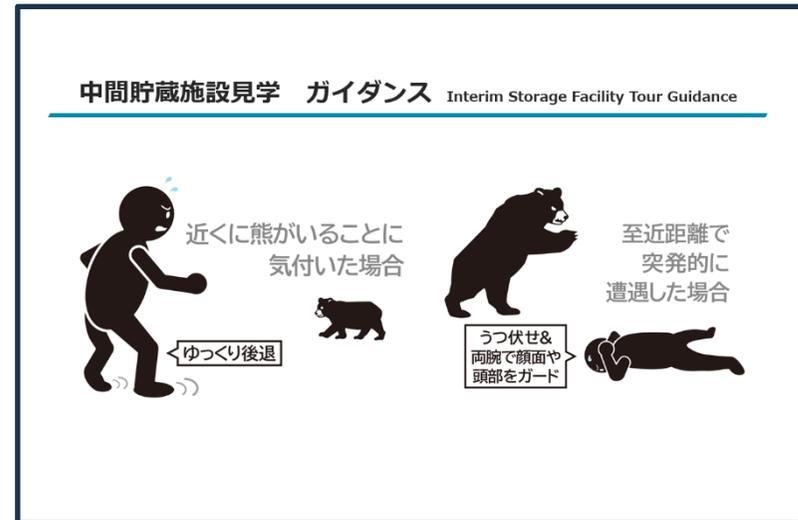


伐採前(栗)

伐採後



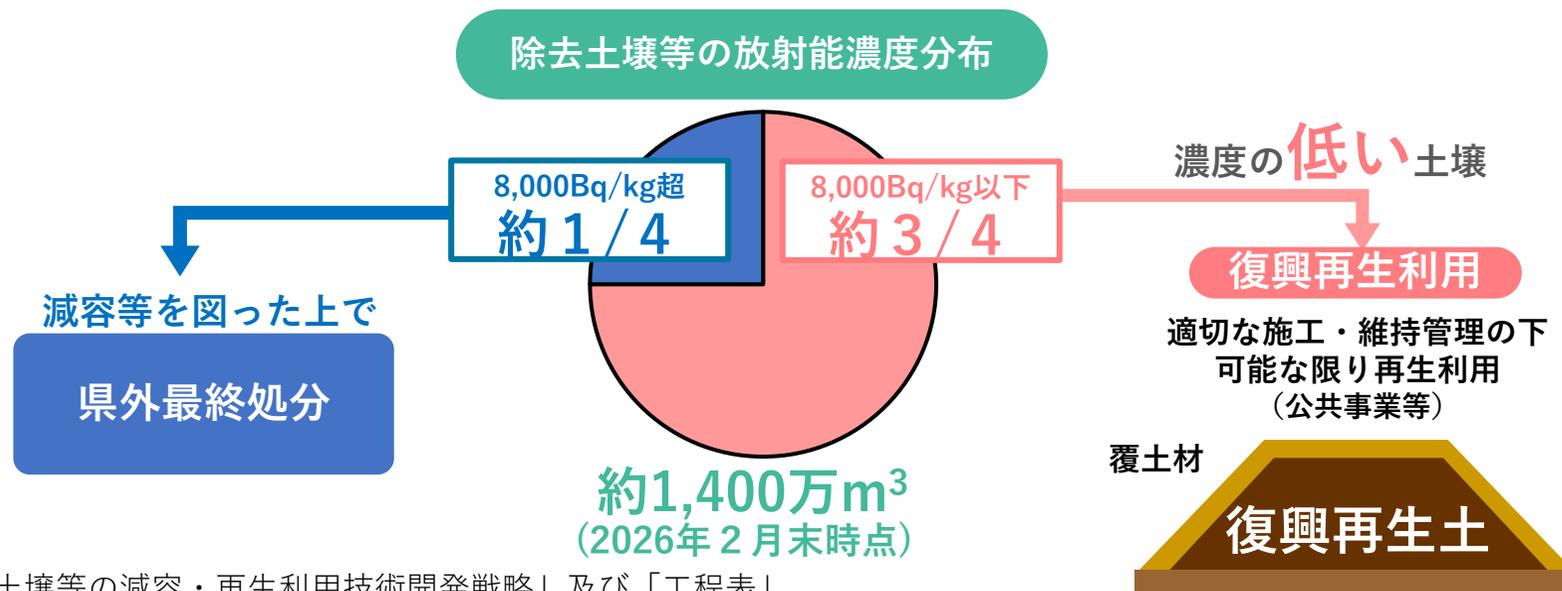
中貯視察前の案内スライド



県外最終処分の実現に向けた取組

県外最終処分、復興再生利用の基本的考え方

- 福島県内で発生した除去土壌等については、中間貯蔵開始後30年以内（2045年3月まで）に、福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずることと法律で規定。
- 県外最終処分の実現に向けては、除去土壌の復興再生利用等による最終処分量の低減が鍵。平成28年に策定した方針^{※1}に沿って、減容技術の開発、再生利用の実証事業、全国的な理解醸成等を着実に進めてきた。
- これまでの取組の成果や、国内外の有識者からの助言等も踏まえ、令和7年3月に復興再生利用・埋立処分の基準を策定した。また、最終処分場の構造・必要面積等の複数選択肢を提示し、2025年度以降の取組の進め方^{※2}についてとりまとめた。
- 除去土壌の復興再生利用等による最終処分量の低減方策、風評影響対策等の施策について、政府一体となって推進するため、令和6年12月に「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議」が設置された。



※1 「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略」及び「工程表」

※2 「県外最終処分に向けたこれまでの取組の成果と2025年度以降の進め方」

○復興再生土：復興再生利用に用いる除去土壌

福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議について

- 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けて、除去土壌の復興再生利用等による最終処分量の低減方策、風評影響対策等の施策について、政府一体となって推進するため、**閣僚会議**（福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議）を2024年12月に設置。
- 第2回を2025年5月に開催**し、「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等の推進に関する**基本方針**」を策定。
- 第3回を2025年8月に開催**し、当面5年程度で取り組む事項をとりまとめた「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関する**ロードマップ**」を決定。
- 県外最終処分に向けた取組を段階的かつ確実に実施できるよう、**本閣僚会議を年に1回程度開催し、進捗状況を継続的に確認する。**

<第3回会議の様子>



福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ①

令和7年8月26日 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議決定

抜粋版

(2025年夏)

(2030年頃)

総理大臣官邸での利用(実施済)・霞が関の中央官庁の花壇等への利用(2025年9月から順次)

パブリシティによる発信・理解醸成 → 施工 → モニタリング

霞が関の中央官庁以外にある各府省庁の庁舎等での率先した事例の創出
(分庁舎、地方支分部局、所管法人等の庁舎等)

関係者とのコミュニケーション

計画 → 施工 → モニタリング

...

実用途における先行事例の創出

先行事例の検討

- ・公共事業等における土地造成・盛土・埋立て等への利用
- ・公的主体が管理する施設等での土地造成・盛土・埋立て等への利用
- ・継続的かつ安定的に事業が実施できる民間企業が行う土地造成・盛土・埋立て等への利用 等

先行事例の創出

知見の活用

ガイドラインの内容拡充・見直し

県外最終処分の管理終了の検討

目指す姿
県外最終処分の実現に向けて、実用途における復興再生利用の目的を立てる

復興再生利用の推進

知見の活用

知見の活用

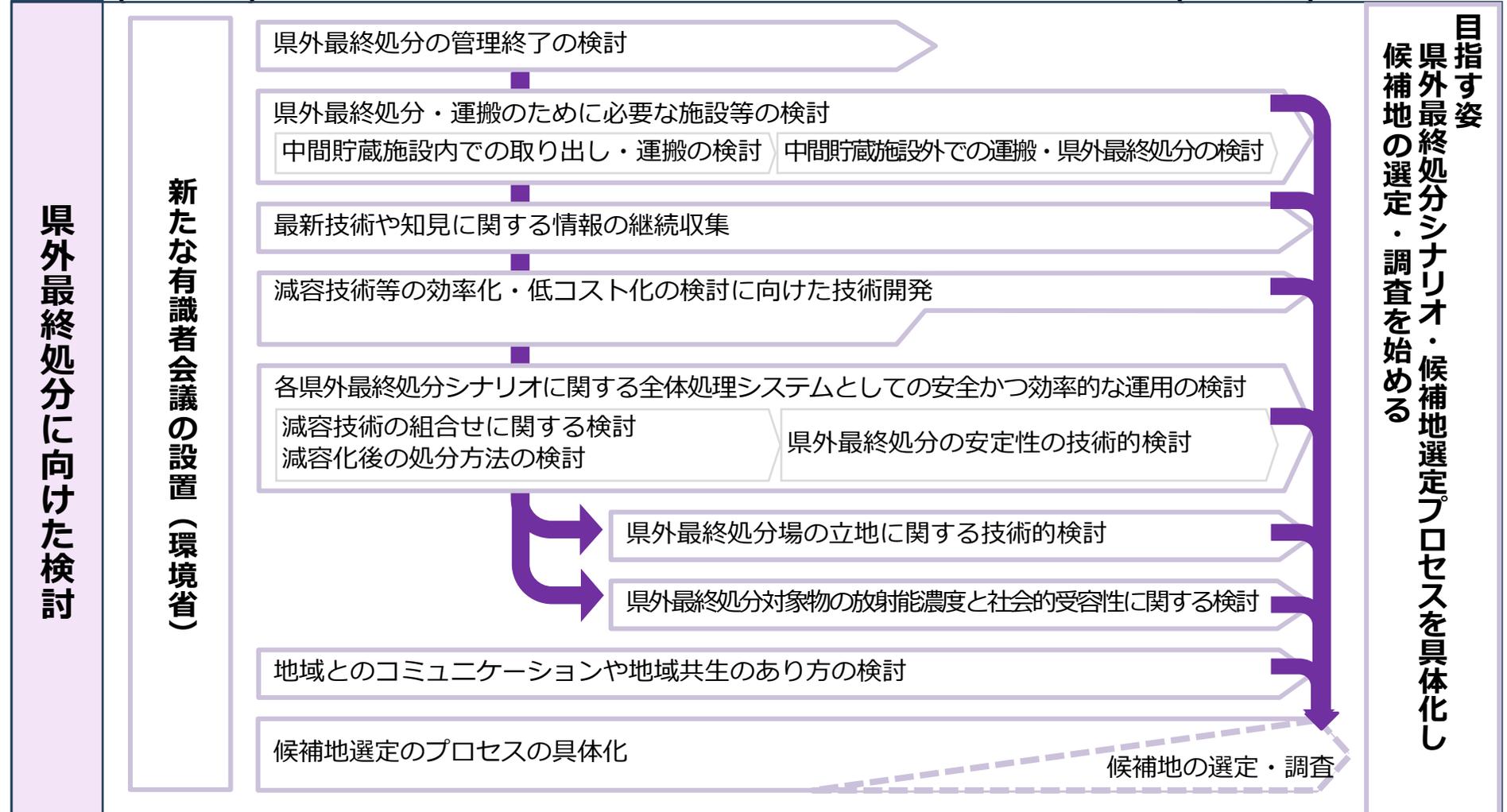
福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ②

令和7年8月26日 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議決定

抜粋版

(2025年夏)

(2030年頃)



令和7年8月26日 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議決定

抜粋版

(2025年夏)

(2030年頃)

理解醸成・リスクコミュニケーション

復興再生利用に用いる除去土壌の呼称の決定

- 大阪・関西万博での展示
- パネルディスプレイによる発信・理解醸成(総理大臣官邸・中央官庁での復興再生利用を含む)
- 中央官庁でのポスターの掲示
- 中間貯蔵事業情報センター・ながどろひろばでの情報発信

復興再生利用の必要性・安全性等についての全国民的な理解醸成、機運の醸成

- ウェブページ・SNS等を通じた発信
- 本省、地方支分部局、所管法人等での発信
- イベントにおける発信
- 所管業界への発信

安心感・納得感の醸成、社会受容性を拡大・深化させるための取組(見学会等)

- 中間貯蔵施設の見学会
東京電力福島第一原子力発電所と連携した見学
- 飯舘村長泥地区環境再生事業の見学会
- 中央官庁の花壇等への利用事例の活用(ふくしま復興フェア、こども霞が関見学デー等)
- 霞が関の中央官庁以外にある各府省庁の庁舎等での事例の活用

県外最終処分の実現に向けた理解醸成の取組

進捗の確認 WEBアンケート調査、理解醸成等の取組に係る参加者へのアンケートの調査等

目指す姿
県外最終処分の実現に向けて、復興再生利用の先行事例を創出し、その拡大が見通せるよう、安心感・納得感を醸成する

※復興再生利用の推進、県外最終処分に向けた検討、理解醸成・リスクコミュニケーションの進捗状況については、IAEAのフォローアップを受けるとともに、国内外に対して透明性高く情報発信を行う
※中間貯蔵施設の跡地利用等についても検討していく

環境再生に関する技術等検討会

- 環境省では、県外最終処分に向けた技術的事項等の検討に当たり、専門的知見を活用するため、2025年9月に、「環境再生に関する技術等検討会」(以下、検討会)を新たに設置。
- 検討会の検討事項は、復興再生利用に係る事項、除去土壌等の最終処分に係る事項、理解醸成・リスクコミュニケーションに関する事項等。
- 第1回検討会では、これまでの取組の進捗と今後の進め方について議論。合わせて復興再生利用に用いる除去土壌の呼称について検討*。
* 環境省では、検討会での意見を踏まえ、呼称を「復興再生土」と決定

<第1回検討会の様子>



<検討会委員一覧>

高橋 隆行(座長)	福島大学 共生システム理工学類 教授
飯本 武志	東京大学 環境安全本部 教授
遠藤 和人	国立研究開発法人国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 廃棄物・資源循環研究室 室長
大迫 政浩	国立研究開発法人国立環境研究所 企画部 フェロー
大塚 直	早稲田大学 法学学術院 教授
勝見 武	京都大学大学院 地球環境学堂 教授
川瀬 啓一	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 福島廃炉安全工学研究所 副所長 兼 安全管理部長
佐藤 努	北海道大学 大学院工学研究院環境循環システム部門 教授
高村 昇	長崎大学 原爆後障害医療研究所 災害復興科学分野 教授
二村 真理子	東京女子大学 現代教養学部 経済経営学科 教授
宮武 裕昭	国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ グループ長
宮本 輝仁	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 農地基盤情報研究領域 農地整備グループ グループ長

中間貯蔵施設内での道路盛土実証事業（概要）

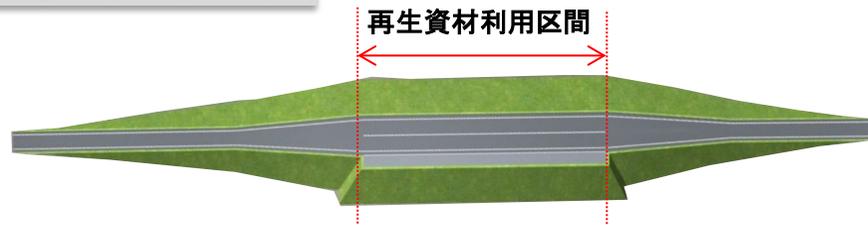
(1) 実施目的

○中間貯蔵施設用地を活用し、道路盛土への利用について実証事業を実施。放射線や沈下量等のモニタリングを通じた放射線に対する安全性や構造物の安定性のほか、走行試験を通じて使用性の確認を行った。

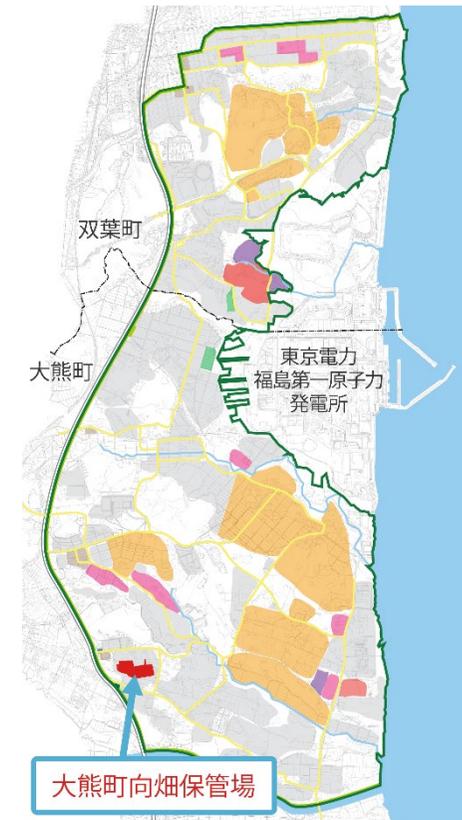
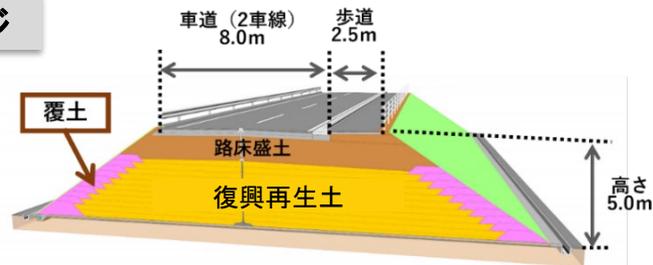
(2) 事業概要

- 実施場所 中間貯蔵施設内
- 構造物の種類 一般的な道路規格として、3種2級（交通量4千～2万台/日）の歩道付きの構造
- 放射能濃度が平均約6,400Bq/kgの除去土壌を約2,700m³使用

上方からのイメージ



構造イメージ



(3) 盛土の施工期間

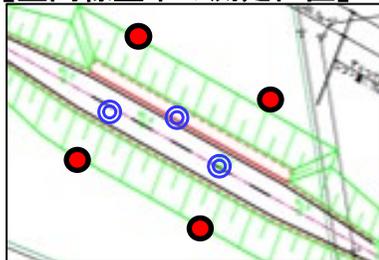
2022年10月3日～2023年10月3日

※2023年1月から2023年3月までは、除去土壌の品質調整に係る検討を実施。

道路盛土実証事業①（空間線量率）

- 境界部の空間線量率は、施工中を含め、施工前後で $0.15\sim 0.24\ \mu\text{Sv/h}$ で推移。
- 盛土上の空間線量率は、施工中 $0.16\ \mu\text{Sv/h}\sim 1.32\ \mu\text{Sv/h}$ で推移したが、竣工後は施工前と同程度で推移。

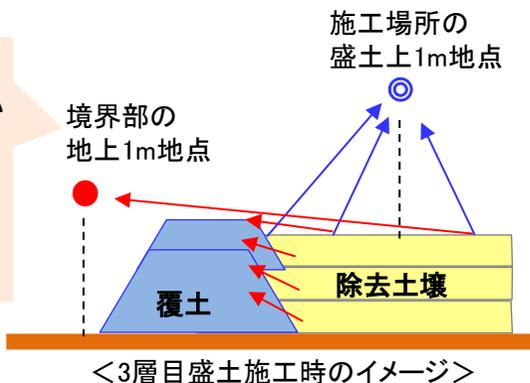
【空間線量率の測定位置】



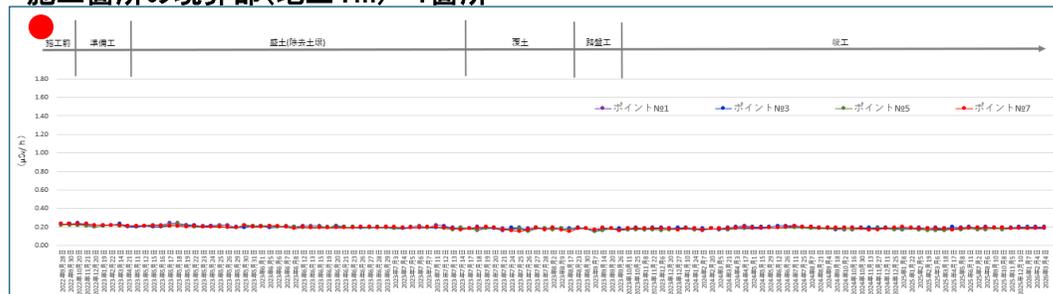
【空間線量率】
境界部
(周辺住民を想定) ●4地点

施工場所となる盛土上
(作業者・道路利用者を想定) ○3地点

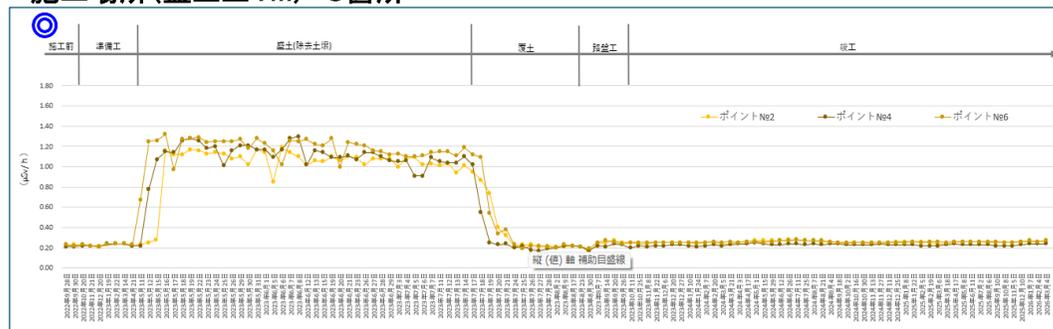
距離減衰や覆土による遮へい効果により、境界部の空間線量率は盛土作業の前後で変化なし。



施工箇所の境界部(地上1m) 4箇所



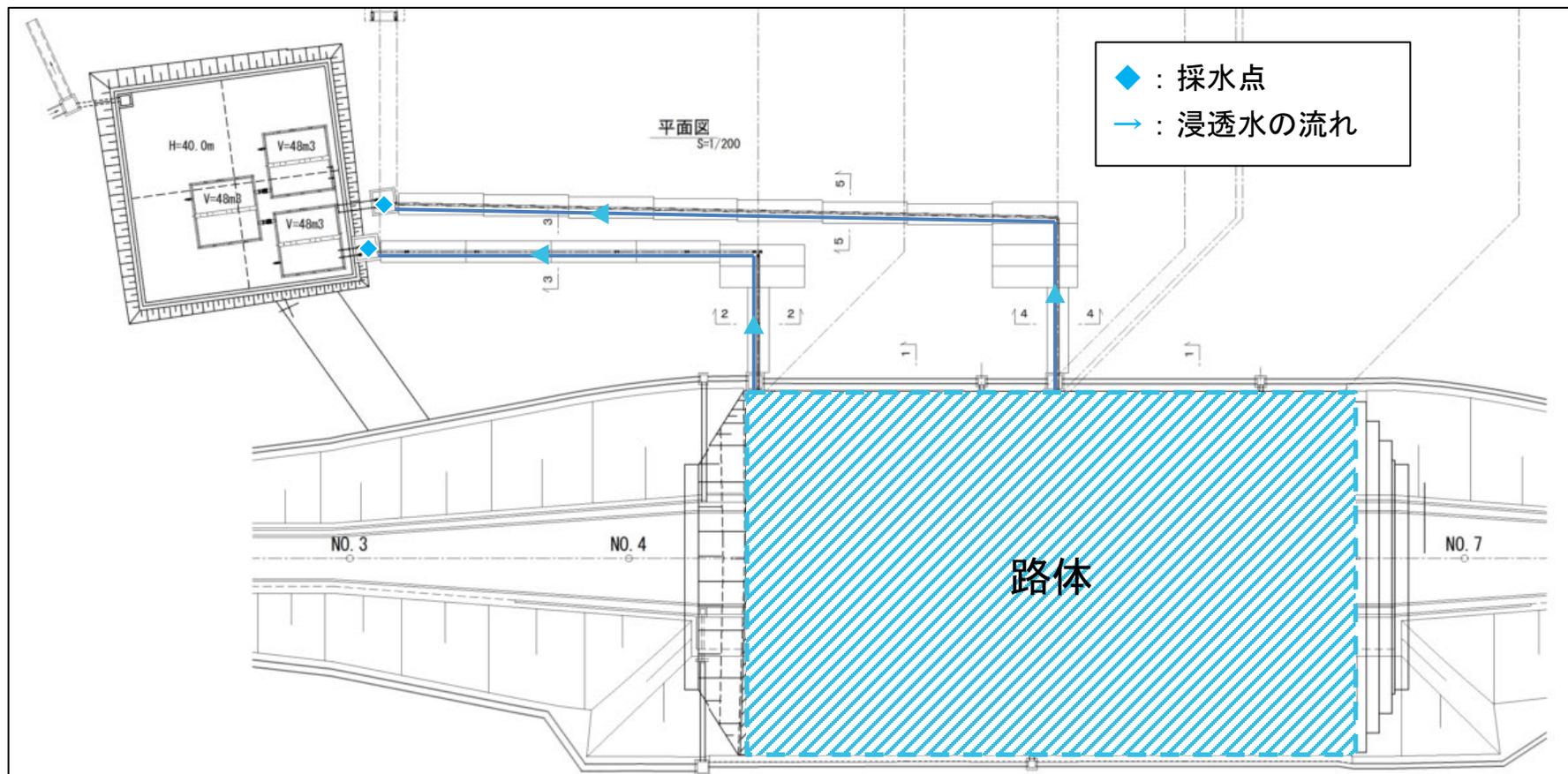
施工場所(盛土上1m) 3箇所



測定位置		測定期間	測定頻度	測定結果
境界部	施工前	2022年9月28日～2023年5月9日	1回/月	$0.20\sim 0.23\ \mu\text{Sv/h}$
	施工中	2023年5月10日～2023年10月2日	1回/日	$0.15\sim 0.24\ \mu\text{Sv/h}$
	竣工後	2023年10月3日～2026年3月4日	1回/2週	$0.16\sim 0.21\ \mu\text{Sv/h}$
盛土上	施工前	2022年9月28日～2023年5月9日	1回/月	$0.21\sim 0.24\ \mu\text{Sv/h}$
	施工中	2023年5月10日～2023年10月2日	1回/日	$0.16\sim 1.32\ \mu\text{Sv/h}$
	竣工後	2023年10月3日～2026年3月4日	1回/2週	$0.20\sim 0.28\ \mu\text{Sv/h}$

道路盛土実証事業②（浸透水中の放射線濃度）

■ 浸透水中の放射能濃度は、全て検出下限値未満であることを確認。



測定項目	測定期間	結果の概要	測定頻度
未改良土・改良土別の採水点における盛土浸透水の放射能濃度	2023年5月22日 ～継続中	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認。	週1回 ※2024年度より2週1回

道路盛土実証事業③（沈下板による沈下量測定）

【測定結果】

■ 沈下板による沈下量（下図参照）

- ・ 改良土では、沈下量が竣工後、おおむね21～33mmとなっている。
- ・ 未改良土では、沈下量が竣工後、おおむね53～66mmとなっている。

■ 変位杭による深さ方向への沈下量

- ・ 安定性が損なわれるような沈下は生じていない。

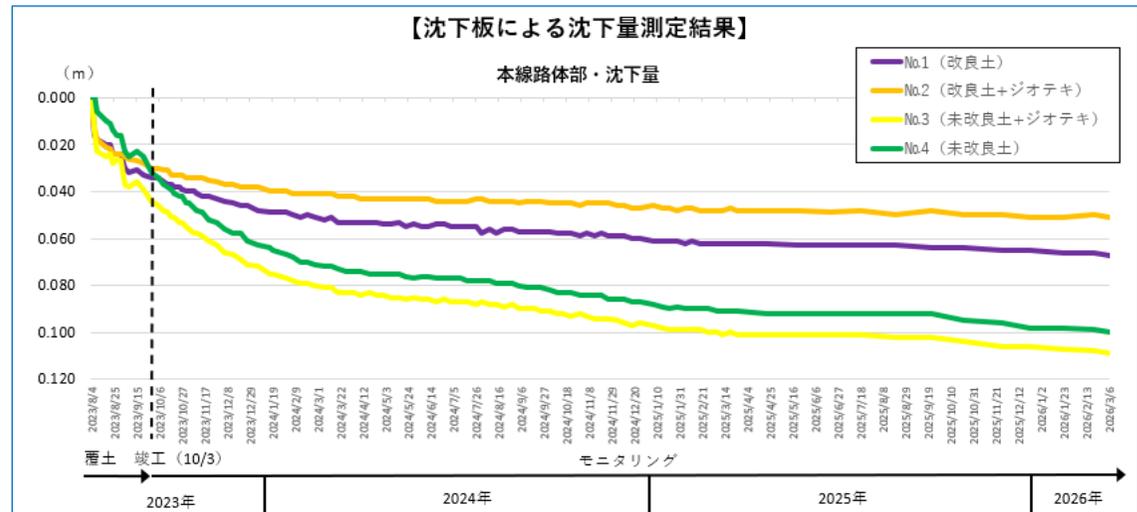
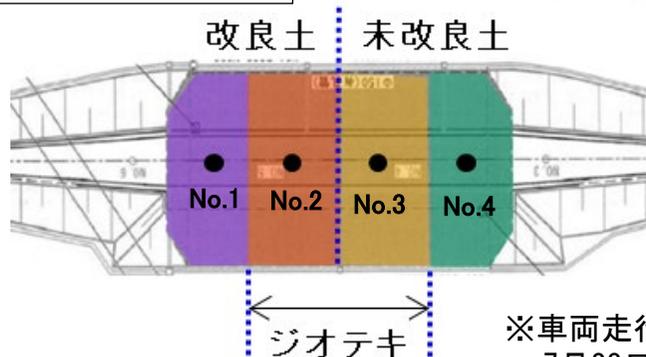
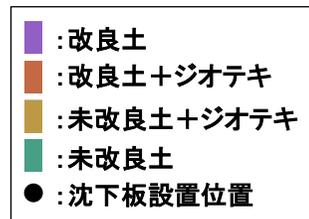
※ 盛土の法肩付近における竣工後の沈下量は、改良土で26～32mm、未改良土で56～65mmと上記沈下板と同程度の沈下量を観測。

【測定期間】

2023年8月4日～

【計測頻度】

- ・ 盛土完了後1ヶ月後まで：2回/週
- ・ 盛土完了後2ヶ月後～2025年3月：1回/週（走行試験中は、各試験日とも走行前後に計測）
- ・ 2025年4月～：1回/月



※車両走行による負荷を掛け、盛土の安定性及び使用性を確認するための走行試験を2024年7月23日（総重量約10t）、7月24日（総重量約20t）、10月29日（総重量約25t）に行った。

飯舘村長泥地区の環境再生事業（概要）

【飯舘村長泥地区環境再生事業の実施状況】

- ・2～4工区全体で、再生資材化した除去土壌（約20万立米）による盛土を実施
- ・完成した4工区については2025年4月に飯舘村や地権者へ引継ぎ、現在は営農再開に向けた試験栽培等を村や県主導で実施中
- ・環境省では引き続き環境モニタリング等を実施中
- ・2、3工区については覆土工事と暗きょ排水工事を実施しているほか、環境モニタリング等を実施中
- ・1工区については設計中

① 農地盛土等造成（2021年度以降実施）



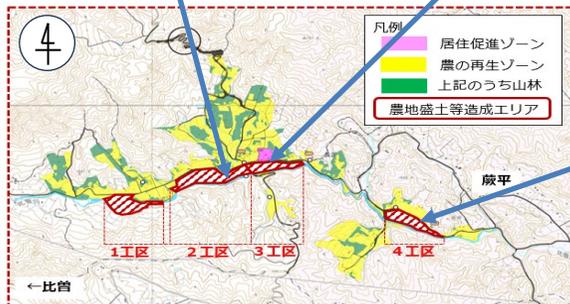
【3工区】



【4工区】

【飯舘村長泥地区】

【2工区】



② 水田試験等

水田試験（2021年～2024年度実施）

水田機能（透水性、地耐力等）を確認し、概ね基準の範囲内。
玄米の放射性セシウム濃度は食品の基準（100Bq/kg）を大きく下回った（0.4～0.6 Bq/kg）。



2024年8月



2024年10月

【4工区】水田試験エリア

栽培試験（2019年～2024年度実施）

花き類及び野菜等の栽培試験を実施。
収穫した食用作物の放射性セシウムの濃度を測定した結果、放射性セシウム濃度は食品の基準（100Bq/kg）を大きく下回った。（0.1～4.7Bq/kg）



2024年5月



2024年6月

【4工区】転換畑

【4工区】傾斜畑

飯舘村長泥地区の環境再生事業

放射線等の安全性モニタリング：2工区～4工区（2020年～2025年度）

主な測定項目	測定期間	結果の概要	測定頻度
空間線量率(周辺環境)	2021年4月2日～2025年12月22日	0.16～1.32 μ Sv/hの範囲であった。	週1回
空気中の放射能濃度	2021年9月22日～2025年12月4日	全て検出下限値未満(Cs134: 1.0×10^{-7} Bq/cm ³ 、Cs137: 1.0×10^{-7} Bq/cm ³)であることを確認した。	月1回
放流先河川の放射能濃度	2021年4月27日～2025年12月3日	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	月1回
地下水監視孔(井戸)中の放射能濃度	2021年1月25日～2025年12月3日	Cs134は全て検出下限値(1Bq/L)未満、Cs137は検出下限値(1Bq/L)未満～2.6Bq/Lの範囲であり、基準(Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90 \leq 1)を下回った。	月1回
湧水処理集水枡からの放流水中の放射線濃度	2021年12月1日～2025年12月22日	Cs134は全て検出下限値(1Bq/L)未満、Cs137は検出下限値(1Bq/L)未満～7.7Bq/Lの範囲であり基準(Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90 \leq 1)を下回った。	週1回

※4工区は工事が終了したことから、2025年度より3回/年(4・6・10月)測定。

※詳細につきましては、中間貯蔵施設情報サイトのモニタリング情報をご覧ください。

(URL : http://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/recycling/project_iitate/)

技術実証フィールドの状況

2025年8月の「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ」において県外最終処分に向けた検討事項として示された、減容技術等の効率化・低コスト化、減容化後の処分方法の検討等の課題解決のため、引き続き技術実証フィールドを活用し、実証試験を行っていく。

1. 技術実証フィールド施設の現状



ドローンによる技術実証フィールド全景(2026年2月4日時点)

2. 実証事業等概要

(1) 新規実施予定の事業

- ・2024年度までに実施した公募実証事業等の実証事業により得られた除去土壌の土質データ等を基に、除去土壌の土質調整実証試験、分級後細粒分の処分実証試験など、除去土壌等の復興再生利用、県外最終処分に向けた実証試験を実施予定。また、過去の試験で発生し保管していた分級細粒分の物性(密度、粒度、強熱減量等)を確認中。

(2) 継続実施中の事業

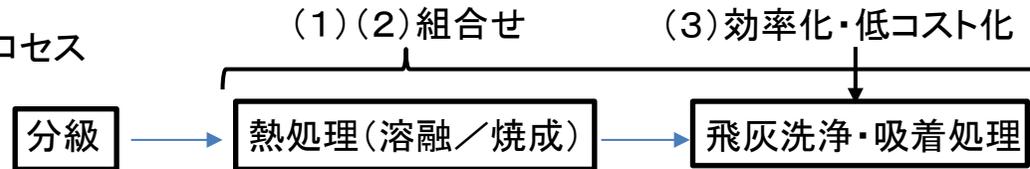
国立環境研究所との共同実証事業【2022年度～】(テーマ名: 溶融スラグの有効利用のための環境安全性評価)

- ・地盤利用安全性確認試験: 2024年度で沈下量モニタリングが終了したスラグ混合盛土を保管中。保管中も引き続き頻度を下げて沈下量等を確認中。
- ・環境安全性確認試験 : 2024年度に設置したテストセル(屋外大型カラム試験装置)を用いて、溶融スラグ浸透水の水質を継続的に測定中。2026年9月までモニタリング予定であるが、降雨量が想定より少ないため延長の可能性あり。

技術実証施設(双葉) (旧：飛灰洗淨処理技術等実証施設) の状況

2025年8月の「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ」において県外最終処分に向けた検討事項として示された、減容技術等の効率化・低コスト化、減容技術の組合せに関する検討等の課題解決のため、引き続き技術実証施設(双葉)(旧：飛灰洗淨処理技術等実証施設)を活用し、実証試験を行っていく。

(参考)減容化のプロセス



- 2024年度までに主に個別の減容技術の実証試験を行ったが、今後は減容技術等の効率化・低コスト化や、熱処理後の飛灰を埋立処分や洗淨する等、前段の減容化が後段の減容化や埋立処分に与える影響のような、減容技術の組合せに関する検討等を行う必要がある。
- このため、技術実証施設(双葉)では、飛灰の洗淨処理技術の更なる効率化、飛灰の直接固型化(埋立処分にあたってのセメント固型化)のための固型化体の安定性の検討等のため、2025年度から、以下の各試験を実施中。
 - (1) 飛灰の最終処分(セメント固型化)に関し、熱処理後のその1飛灰※、その2飛灰※等の直接固型化に係る適切な条件を、固型化体の安全性・安定性の観点から2月末までの予定で検証中。
 - (2) 廃棄物の更なる減容化を目的として、分級後細粒分、その1飛灰、その2飛灰、洗淨後飛灰等の熱処理について、実機の検討に用いるデータを実験室レベルで取得し、溶融条件(温度、塩基度)を確認した。
 - (3) その2飛灰がその1飛灰と溶出特性が異なることから、効果的な洗淨処理条件を検証することで、セシウムを効果的に溶出させる方法の確立を目指す。定期的にサンプリングした「その2飛灰」の組成・構造等を分析し、データを解析中。2026年度以降、効率的な洗淨方法を検証する予定。

※その1飛灰：双葉町仮設灰処理施設その1で発生する飛灰。 ※その2飛灰：双葉町仮設灰処理施設その2で発生する飛灰。

復興再生利用・最終処分に係る理解醸成

- 除去土壌の復興再生利用や最終処分に関する全国的な理解醸成が必要不可欠。大学生等の若い世代向けの理解醸成（大学等での講義、現地WS等）、現地見学会、メディアとのタイアップによる情報発信、除去土壌を用いた鉢植え・プランターの設置を始めとした各種取組を展開中。
- 今年度は、最終処分・復興再生利用の安全性・必要性等について、特に、若い世代・自治体・メディア等への情報発信を更に進める等により、理解醸成の取組を強化。

若い世代向けの取組

大学等での講義



イベント出展

万博でのブース出展



現場見学

中間貯蔵施設や飯館村長泥地区の実証事業事業エリアを対象とした現地見学会を開催

中間貯蔵施設 現地視察



一般見学会

再生利用実証事業 現地視察



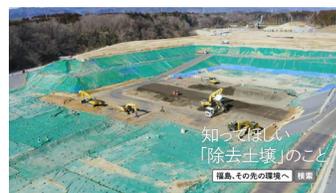
一般見学会

メディアとのタイアップ等による情報発信

インフルエンサー（Youtuber）と連携した情報発信



YouTubeのCM発出



地方テレビ局と連携した情報発信



除去土壌を用いた鉢植え等の設置

総理大臣官邸



環境大臣室



2025年4月末時点で
24施設に設置済み

万博での展示



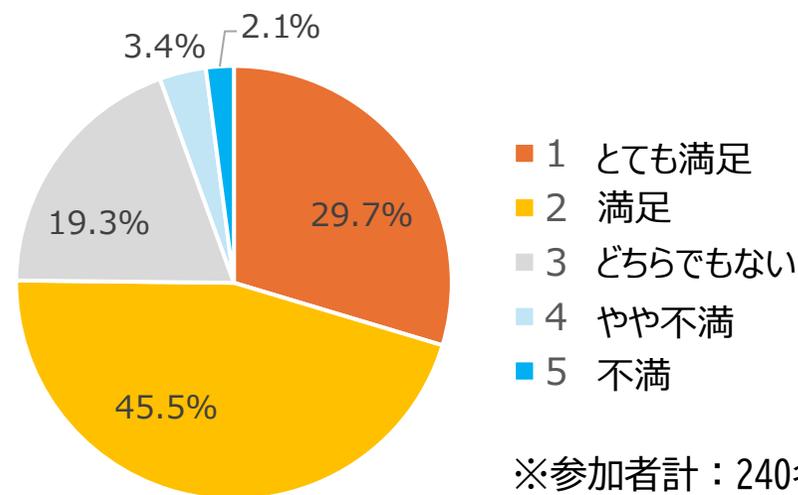
パネルディスカッション

- 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた、理解醸成活動の一環として、除去土壌等の県外最終処分・復興再生利用についてともに考え、理解を深めるためのパネルディスカッションを実施。
- 2025年8月に福島県、9月に東京都内で2回、3月に宮城県、埼玉県で各1回の計5回開催。パネリスト間のディスカッションのみならず、参加者からの疑問や意見を付箋で集めて議論で取り扱うことで、関心が多く寄せられている論点も含めて一方的な発信にならないよう議論のテーマを設定。
- パブリックコメント、事前に受け付けた質問、参加者が記載した付箋から、下記の話題などを取り扱った。
 - ・復興再生利用の必要性、安全性について
 - ・復興再生利用の説明の仕方について
 - ・復興再生利用・県外最終処分の今後の進め方について

< 8月18日のパネルディスカッションの様子 >



<参加者の満足度（アンケート）>



※参加者計：240名
回答数：145名

霞が関の中央官庁の花壇等への復興再生利用概要（理解醸成）

- 環境省のウェブページにおいて、総理大臣官邸・霞が関の中央官庁での利用の概要やモニタリングデータについて順次掲載。
- 復興再生利用を行っている庁舎の利用現場やエントランス等では、理解醸成のためのパネルを掲示。
- 環境省、関係省庁のSNS等でも情報を発信。
- 関係大臣等からも、会見における発言や施工箇所への視察などにより情報を発信（5号館は、令和7年11月13日に石原環境大臣、11月14日に辻環境副大臣と友納環境大臣政務官が視察）。
- 来庁者に対する施工箇所の説明を実施。



環境省ウェブページ



パネル



大臣等による視察

現地見学の実施

- 各種見学会：中間貯蔵施設（毎月）及び長泥地区の環境再生事業について、一般の方向けの見学会（事前申込制）を実施。
- 環境再生ツーリズムの推進：全国の学生等を対象に、長泥地区環境再生事業エリアの視察を含む現地見学・ワークショップを実施。また、福島県が推進する「ホープツーリズム」での中間貯蔵施設の視察受入れや、東京電力福島第一原子力発電所の見学と連携した現地見学を実施。

福島、その先の環境へツアー（2025年度）

- ・「福島の今と未来を伝えよう」と、全国から学生や若手社会人を募集。復興の現状や福島県が抱える課題を見つめ直し、若い世代の視点から情報を発信することを目的として、2月にツアーを開催した。中間貯蔵施設も見学。約170名参加。



有識者企画ワークショップ（2025年度）

- ・除去土壌等の復興再生利用・福島県外最終処分等に対する理解醸成等を目的として、飯舘村の長泥地区の再生事業に携わっている万福裕造氏を中心に、全国の大学のネットワークを活用して、学生を集めた現地見学・ワークショップを実施。
- ・それに全国の大学生が参加し中間貯蔵施設や長泥地区の環境再生事業エリアを見学した。全国約25校の学生が参加。



中間貯蔵事業情報センターについて

- 2025年3月15日にグランドオープンした大熊町産業交流施設内に「中間貯蔵事業情報センター」を新たに開設。
- 同センターでは中間貯蔵事業の進捗や規模感を視覚的に伝える展示等により、中間貯蔵事業、除去土壌等の再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島復興・環境再生の取組を発信している。
- また、同センターは、中間貯蔵施設の見学会等の発着拠点となり、中間貯蔵施設の建設を受け入れ、大切な土地を提供いただいた大熊町・双葉町の方の思い等についても発信している。

イメージ図



展示面積：650㎡
(前センターは約100㎡)

中間貯蔵施設の視察者の推移



(25年度は2月末まで)

新情報センターのオープンにより来館者は大幅に増加 前年同期比243.3%

中間貯蔵施設の現地見学①

- ・中間貯蔵事業や除去土壌等の県外最終処分に向けた取組等に対する認知度や理解度を高めるため、2018年度から中間貯蔵施設の視察・見学を受け付けている。
- ・2026年2月末時点で累計31,081名の方に御参加いただいております、視察後にはアンケートを実施している。

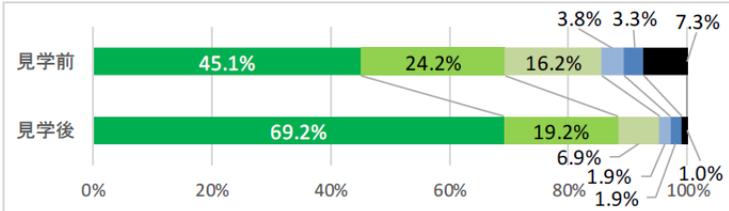
中間貯蔵施設見学後のアンケート結果

設問3-2)

復興再生利用をする必要があると思いますか？

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない

全体



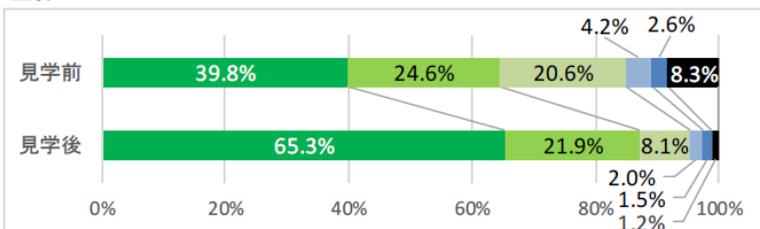
2026年2月の見学者からの回答

設問3-4)

復興再生利用を進めることに賛成・反対ですか？

- 賛成である
- どちらかといえば賛成である
- どちらともいえない
- どちらかといえば反対である
- 反対である
- わからない

全体



2026年2月の見学者からの回答



サンライトおおくま(見晴台)



海渡神社



双葉町 正八幡神社



双葉工区 土壌貯蔵施設

中間貯蔵施設の現地見学②



高市総理による視察
令和7年12月2日
高市総理視察

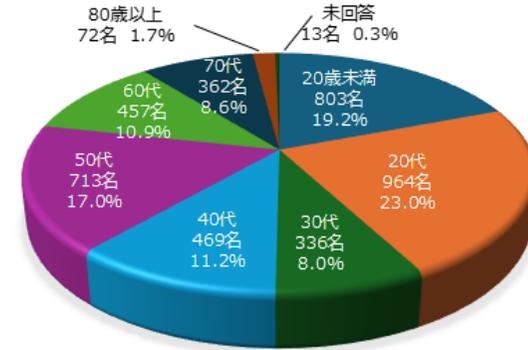


報道機関への公開
2月4日国内メディア
3月4日海外メディア



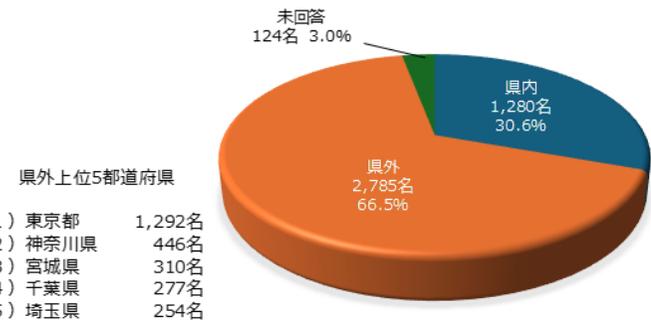
多数の学生ツアー
学生団体は100団体
(令和7年度)
2,413人(全体の29%)

年代別中間貯蔵施設見学者（令和7年度）



回答者数：4,189名

中間貯蔵施設見学者の住まい（令和7年度）



回答者数：4,189名

※2025年度の実績(3月を除く)

飯舘村長泥地区環境再生事業の広報拠点エリア

広報拠点エリア(ながどろひろば、駐車場、ビニールハウス)



ながどろひろば
～花の里 ながどろ～
環境再生情報ひろば

(2025.4.25オープン)



▲動画放映ゾーン



▲パネル展示



▲再生資材化施設模型



ビニールハウス (2024.4.1運用開始)

栽培している花きの種類:

トルコギキョウ、カンパニュラ、カスミソウ、マリーゴールド、キンギョソウ、アルストロメリア、スターチス、ラナンキュラス、カーネーション 等

【施設情報】

開館時間	10:00～16:00
休館日	毎週水曜日・年末年始
入館料	無料
住所	〒960-1723 福島県相馬郡飯舘村長泥字長泥815-1

【ながどろひろば来訪者数】

期間	人数
2025年4月25日～ 2026年1月31日	約2,700名 ※一般見学会、視察等含む



長泥地区の現地見学会について

- ・長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高めるため、視察・見学対応を2021年度から実施している。
- ・2026年1月末時点で累計5,700名以上の方を案内した。

一般見学会

- ・2025年度の長泥地区環境再生事業の一般の方向け現地見学会（一般見学会）は10回開催し、119名の参加があった。
- また、2021年～2025年度までに合計53回開催し、のべ約700名の参加があった。今後も継続開催。



一般の方向けの現地見学会の様子（花き栽培ビニールハウス、看板前、放射線測定体験）

視察等（視察、ツアー、見学、取材）

- ・2025年度の視察等については、1月末時点で約1,900名に対応した。
- また、2021年～2025年度（1月末）までにのべ約5,700名に対応した。

<主な視察者> ※2025年度

行政機関：経済産業省・復興庁・環境省（大臣等）、衆議院環境委員会、各府省庁担当者、福島県、飯舘村 等
小中高校生：飯舘村立いいたて希望の里学園、栃木県立大田原高校、大田原女子高校 等
大学生：福島大学、島根大学、上智大学、関西学院大学、筑波大学 等
その他：カーカム会議、山村振興ブロック会議 等



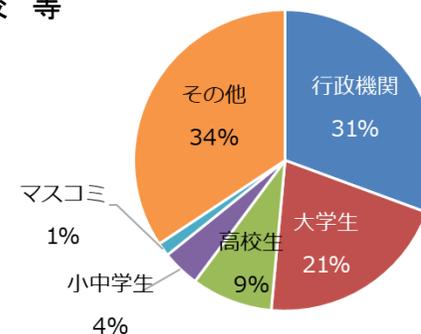
今井復興大臣政務官視察



衆議院環境委員会視察



福島大学生見学



2025年度（4月～1月）見学、ツアー、視察者の内訳について

福島や環境再生に関心を知っていただくための広報の実施

全国のテレビ局とのタイアップ

福島復興の様子や、いまだ福島の課題として残っている除去土壌等の福島県外最終処分等について、全国のテレビ局(3月上旬)にて1分番組で放映。



YouTubeCM

県外最終処分や復興再生利用の内容と、これまでの経緯をまとめた30秒×2バージョンのYouTubeCMを実施。

※環境省YouTubeアカウント「福島、その先の環境へ。」でも公開予定

YouTubeチャンネル マイナビHuman「竹山が追う | “復興再生土”から見える福島の未来」

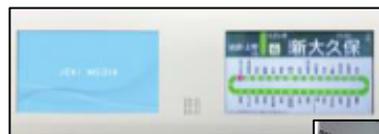
福島環境再生に向けたこれまでの歩みや課題、県外最終処分・復興再生利用の必要性・安全性等について、出演者であるカンニング竹山、松田実桜とともに学んでいく番組。3月6日(金)から30分弱で放映。



公共交通機関での広告

2026年3月9日(月)より、全国の空港及び隣接駅13箇所や、首都圏では下記電車ビジョンにて、15秒の動画を放映。

- ①JR山手線 まど上ビジョン
- ②JR横須賀線・総武線快速 トレインチャンネル
- ③JR中央線快速 トレインチャンネル
- ④東京メトロ Tokyo Metro Vision(全線)
- ⑤都営地下鉄 ちかッとビジョン(全線)





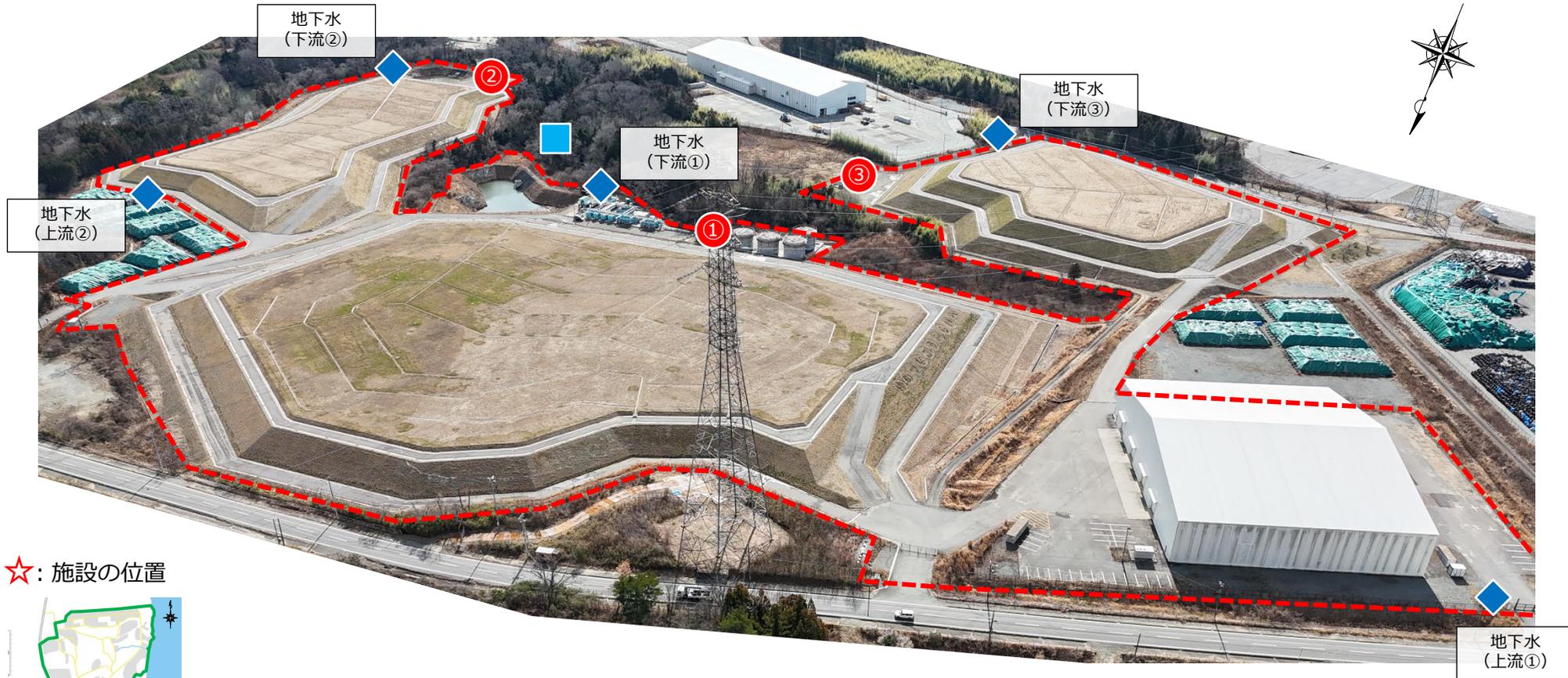
モニタリング等の状況の詳細について

2026年3月

環境省

土壌貯蔵施設のモニタリング結果 (月次測定等)

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



★：施設の位置



【凡例】

◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度

■：放流先河川の放射能濃度

●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度

---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流①	2018/7/11	(稼働前)	240	8.1
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	110	18
上流②	2020/2/24	(稼働前)	110	25
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	36	12
下流①	2018/7/11	(稼働前)	32	9.5
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	150	8.8
下流②	2020/2/24	(稼働前)	42	23
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	36	11
下流③	2021/2/23	(稼働前)	42	9.6
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	40	12

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流①	2018/7/11	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	ND	ND
上流②	2020/2/24	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	ND	ND
下流①	2018/7/11	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	ND	ND
下流②	2020/2/24	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	ND	ND
下流③	2021/2/23	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
集排水設備①	2018/7/11	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備②	2020/3/5	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備③	2021/3/9	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
測定日			
2018/7/11	(稼働前)	ND	ND
2025/10/17 ~2026/2/17	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

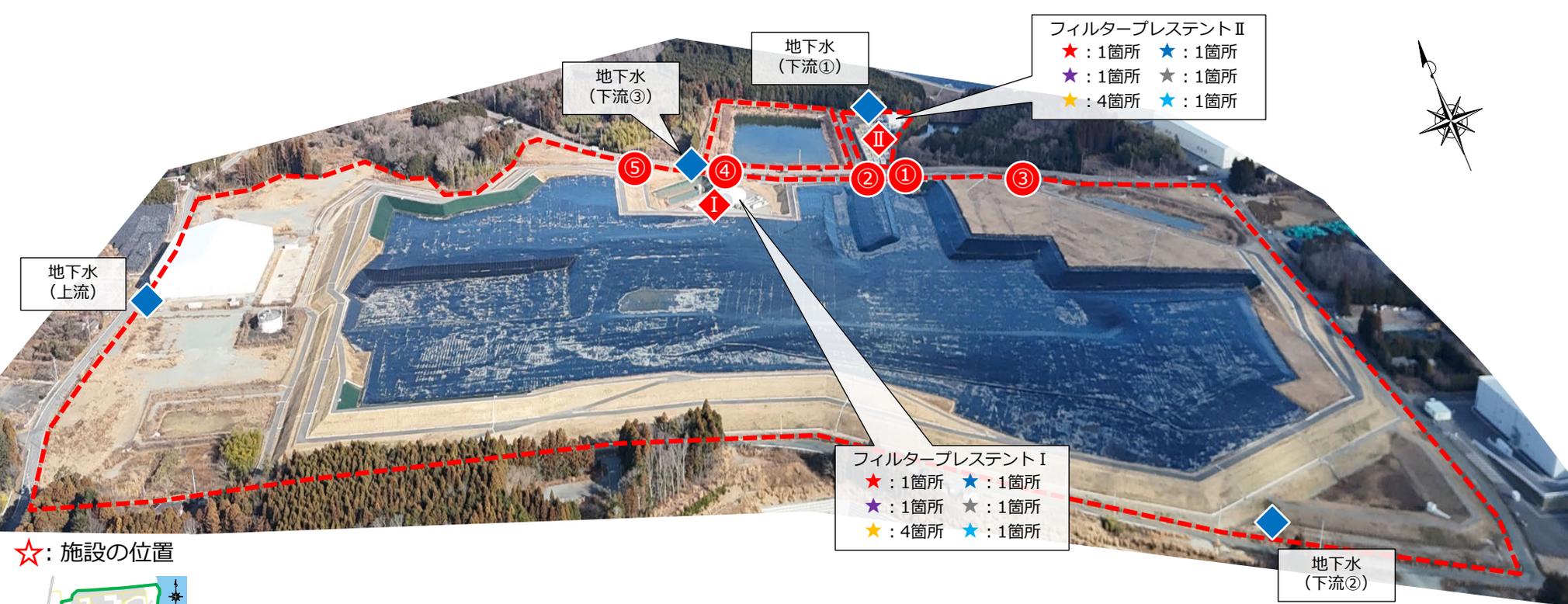
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≤1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。

浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞①

6頁参照

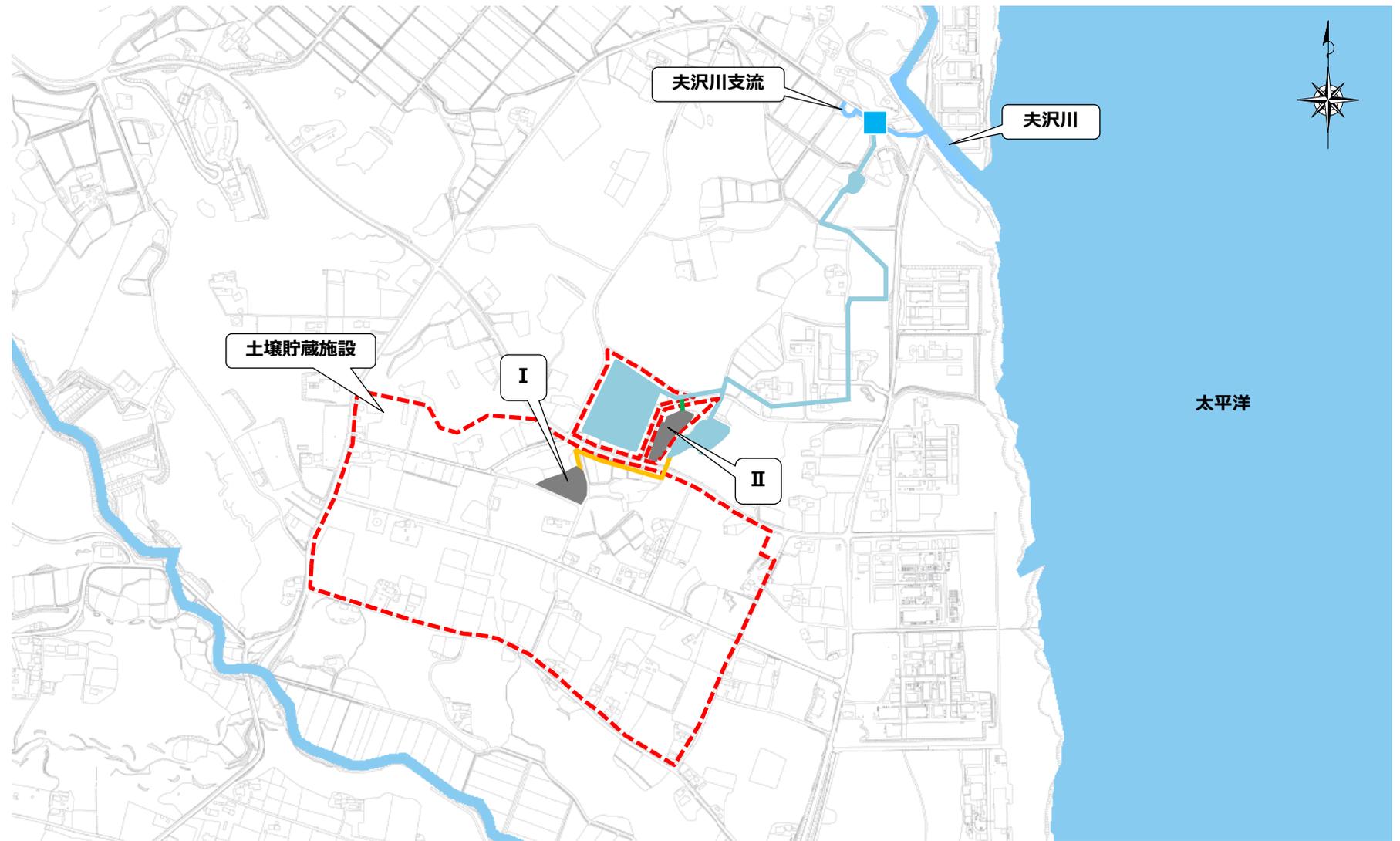


☆: 施設の位置



【 凡例 】		
◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度	● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度	◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
■ : 放流先河川の放射能濃度	★ : 粉じん濃度	★ : 空間線量率（作業環境）
☆ : 空気中の放射能濃度	★ : 表面汚染密度（床）	★ : 表面汚染密度（壁）
★ : 表面汚染密度（設備）	---	---
	---	---

土壤貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞②



【凡例】

■ : 河川水観測地点

- - - : 敷地境界線

— : 放流水の流路（浸出水処理施設Ⅰ）

— : 放流水の流路（浸出水処理施設Ⅱ）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率	塩化物イオン濃度
			(mS/m)	(mg/L)
上流	2018/7/10	(稼働前)	13	13
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	12	14
下流①	2018/7/11	(稼働前)	23	13
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	27	14
下流②	2018/7/10	(稼働前)	17	5.7
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	24	8.6
下流③	2017/10/11	(稼働前)	19	6.5
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	51	16

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134	Cs-137
			(Bq/L)	(Bq/L)
上流	2018/7/10	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND
下流①	2018/7/11	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND
下流②	2018/7/10	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND
下流③	2017/10/11	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134	Cs-137
			(Bq/L)	(Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ～2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備②	2018/10/15	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ～2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備③	2019/6/26	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ～2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備④	2017/10/5	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ～2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備⑤	2020/5/28	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ～2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日	測定項目	水素イオン濃度		生物化学的酸素要求量	化学的酸素要求量	浮遊物質濃度
			(pH)	(BOD)	(COD)	(SS)	
			最小値	最大値	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
処理水I	2025/10/9 ～2026/2/4		7.9	8.3	1.1～22	6.9～22	ND～2
処理水II	2025/10/6 ～2026/2/3		7.8	8.1	0.9～3.3	9.4～25	ND

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L

浮遊物質濃度 (SS) のNDとは、報告下限値 (1mg/L) 未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134	Cs-137
			(Bq/L)	(Bq/L)
処理水I	2025/10/3 ～2026/2/4		ND	ND
処理水II	2025/10/6 ～2026/2/25		ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

※放流水の放射能濃度測定（週次測定）は、浸出水処理を行った週に実施。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム	放流量
			最小値	最大値		
					(Bq/L)	(m ³)
処理水I	2025/10/3 ～2026/2/4	50	0.1	2.2	ND	1380
処理水II	2025/10/1 ～2026/2/25	260	0.0	1.8	ND	7680.1

濁度管理値：5以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値 (5.85Bq/L) 未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目	Cs-134	Cs-137
		(Bq/L)	(Bq/L)
2018/7/10	(稼働前)	ND	5.0
2025/10/9 ～2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2025/10/7 ～2026/2/13
	粉じん濃度 (mg/m ³)
フィルタープレセントI	2.3
フィルタープレセントII	2.1

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³

※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2025/10/7 ～2026/2/13	
	空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
フィルタープレセントI	0.14	0.16
フィルタープレセントII	0.54	0.61

★空気中の放射能濃度

測定地点	2025/10/7～2026/2/13	
	Cs-134 (Bq/cm ³)	Cs-137 (Bq/cm ³)
フィルタープレセントI	ND	ND
フィルタープレセントII	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10⁻²Bq/cm³、セシウム137：1.0×10⁻²Bq/cm³

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度/2×10⁻³+セシウム137の濃度/3×10⁻³≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点	2025/10/7 ～2026/2/13		
	表面汚染密度 (Bq/cm ²)		
フィルタープレセントI	床	I-①	ND
		I-①	ND
		I-②	ND
		I-③	ND
	設備	フィルタープレシI	ND
フィルタープレセントII	床	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレシII	ND

表面汚染密度検出下限値：0.27～0.33Bq/cm²

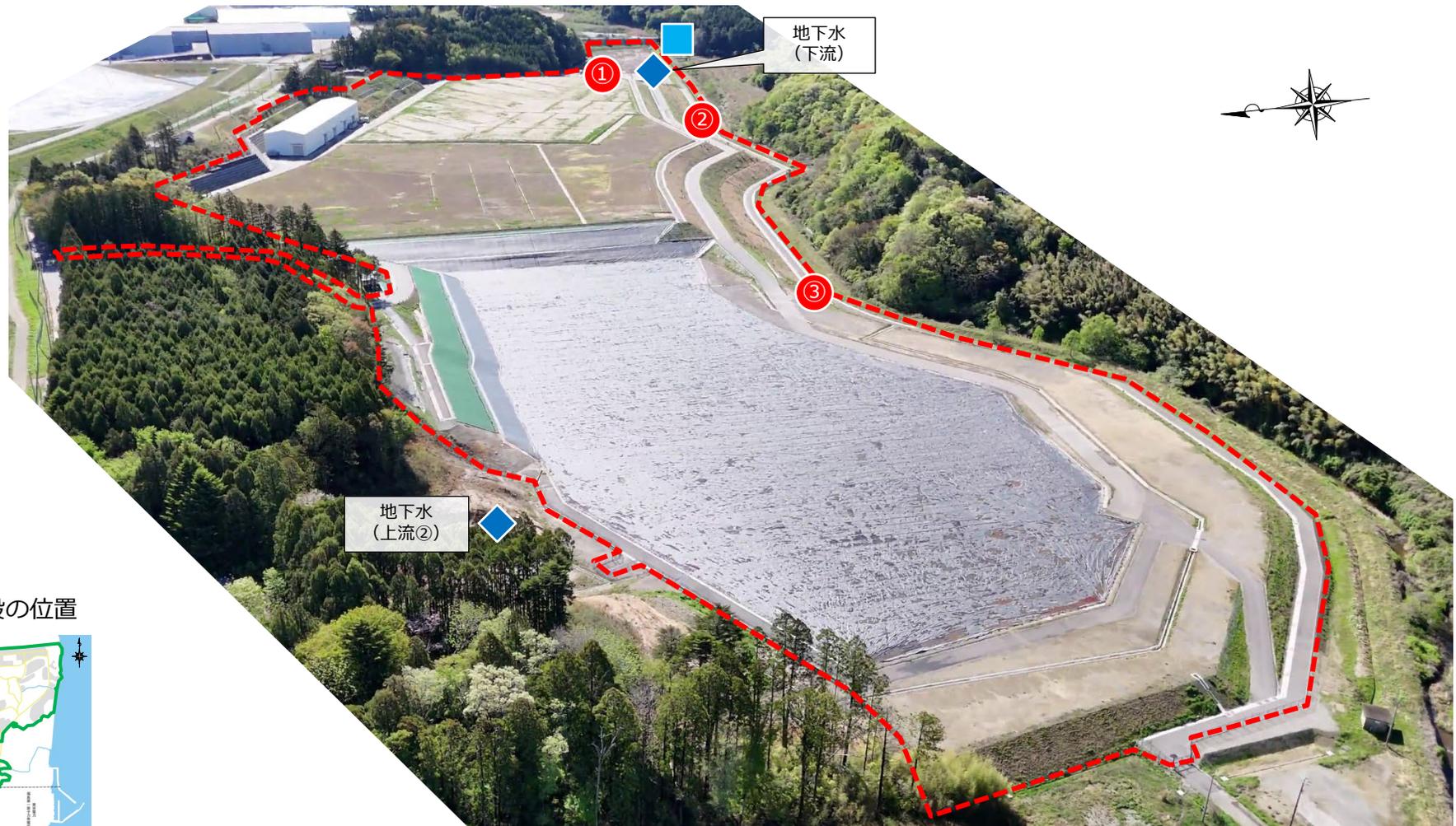
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm²

※2025年4月以降、下記の土壌貯蔵施設の浸出水処理施設が稼働停止中のため、浸出水処理は本工区の浸出水処理施設において実施。

- ・大熊①工区
- ・大熊③工区
- ・双葉②工区

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定） <貯蔵中>



☆: 施設の位置



【凡例】

◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度

● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度

■ : 放流先河川の放射能濃度

--- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流②	2021/6/3	(稼働前)	17	13
	2025/10/9 ~2026/2/10	(貯蔵中)	19	20
下流	2018/9/25	(稼働前)	90	130
	2025/10/9 ~2026/2/10	(貯蔵中)	120	98

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流②	2021/6/3	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/9 ~2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND
下流	2018/9/25	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/9 ~2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
集排水設備①	2020/2/10	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備②	2018/9/27	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備③	2021/10/8	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
測定日			
2018/9/18	(稼働前)	ND	1.2
2025/10/9 ~2026/2/10	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

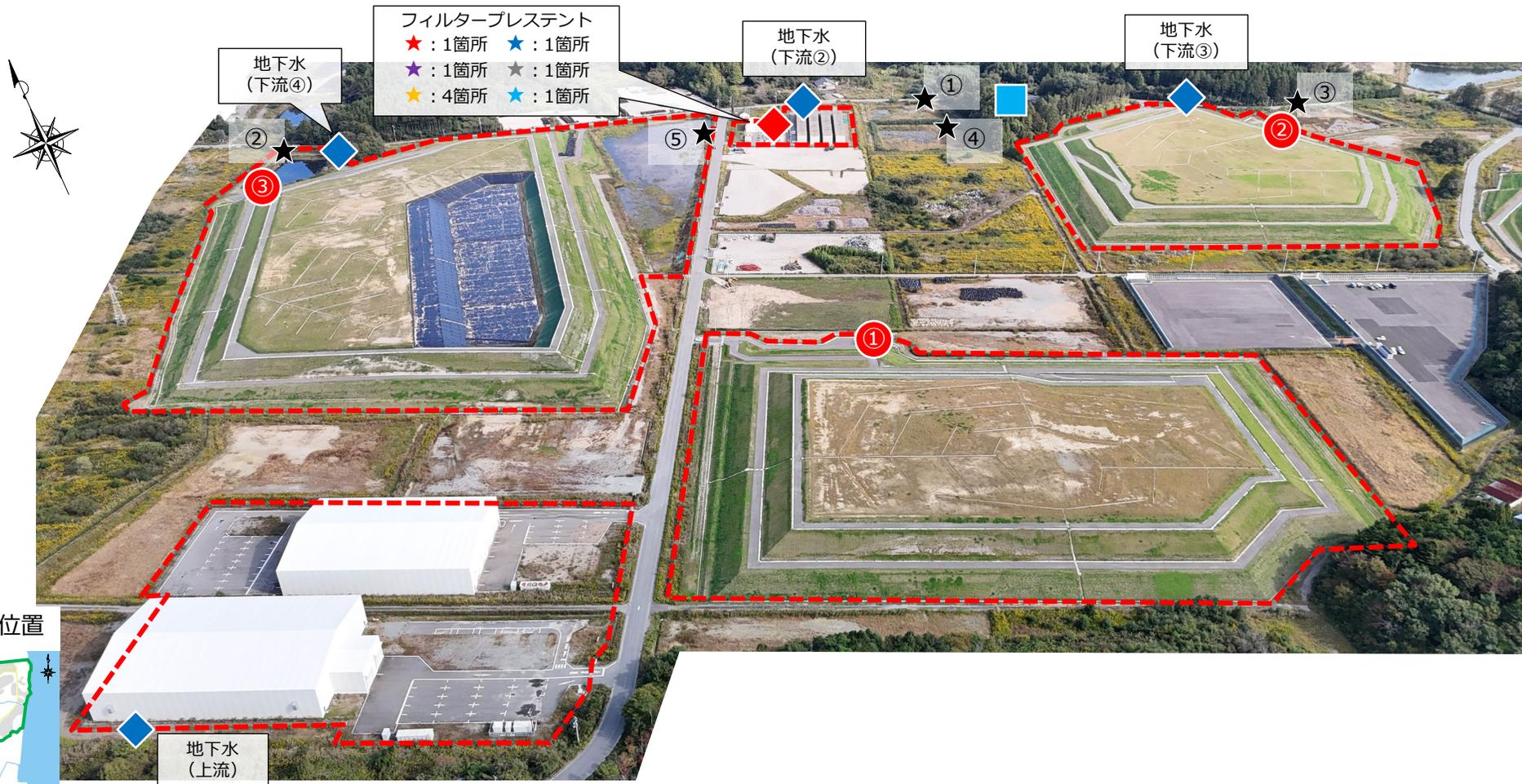
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≤1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。

浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）〈貯蔵中〉



☆：施設の位置



- 【凡例】
- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
 - ：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
 - ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
 - ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
 - ：放流先河川の放射能濃度
 - ★：粉じん濃度
 - ★：空間線量率（作業環境）
 - ★：空気中の放射能濃度
 - ★：表面汚染密度（床）
 - ★：表面汚染密度（壁）
 - ★：表面汚染密度（設備）
 -

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2020/3/12 (稼働前)		37	17
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		40	19
下流②	2020/3/12 (稼働前)		57	12
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		38	18
下流③	2020/3/12 (稼働前)		24	21
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		200	14
下流④	2020/9/3 (稼働前)		110	13
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		41	11

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2020/3/12 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		ND	ND
下流②	2020/3/12 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		ND	ND
下流③	2020/3/12 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		ND	ND
下流④	2020/9/3 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)		ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
集排水設備①	2020/3/24 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19 (貯蔵中)		ND	ND
集排水設備②	2020/4/15 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19 (貯蔵中)		ND	ND
集排水設備③	2020/11/17 (稼働前)		ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19 (貯蔵中)		ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定日	測定項目		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
	最小値	最大値				
	2025/10/7 ~2026/2/3	7.8	8.2	2.0~5.1	15~50	ND~1

pH基準：5.8~8.6, BOD基準：60mg/L, COD管理値：90mg/L, SS基準：60mg/L
浮遊物質量 (SS) のNDとは、報告下限値 (1mg/L) 未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定日	測定項目	
	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2025/10/3 ~2026/2/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

※放流水の放射能濃度測定(週次測定)は、浸出水処理を行った週に実施。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m ³)
		最小値	最大値		
2025/10/1 ~2026/2/25	770	0.0	4.7	ND	23100

濁度管理値：5以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値 (5.85Bq/L) 未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目	
	測定日	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2025/10/28 ~2026/2/24	48
	2025/10/28 ~2026/2/24	18
沈砂池②	2025/10/28 ~2026/2/24	7.6
	2025/10/28 ~2026/2/24	16
沈砂池③	2025/10/28 ~2026/2/24	10
	2025/10/28 ~2026/2/24	

SS基準：60mg/L

浮遊物質量 (SS) の報告下限値：1mg/L

※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目	
	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/3/12 (稼働前)	ND	ND
2025/10/2 ~2026/2/3 (貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

★粉じん濃度

測定地点	測定項目	
	測定日	粉じん濃度 (mg/m ³)
フィルタープレセント	2025/10/7 ~2026/2/13	1.8

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³

※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	測定項目	
	測定日	空間線量率 (μSv/h)
	最小値	最大値
フィルタープレセント	2025/10/7 ~2026/2/13	0.24 0.30

★空気中の放射能濃度

測定地点	測定項目	
	Cs-134 (Bq/cm ³)	Cs-137 (Bq/cm ³)
フィルタープレセント	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10⁻⁷Bq/cm³、セシウム137：1.0×10⁻⁷Bq/cm³

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度/2×10⁻³+セシウム137の濃度/3×10⁻³≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点	測定項目	
	測定日	表面汚染密度 (Bq/cm ²)
フィルタープレセント	床 ①	ND
	床 ②	ND
	床 ③	ND
	床 ④	ND
	壁 ①	ND
	壁 ②	ND
設備	フィルタープレセント	ND

表面汚染密度検出下限値：0.26~0.34Bq/cm²

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

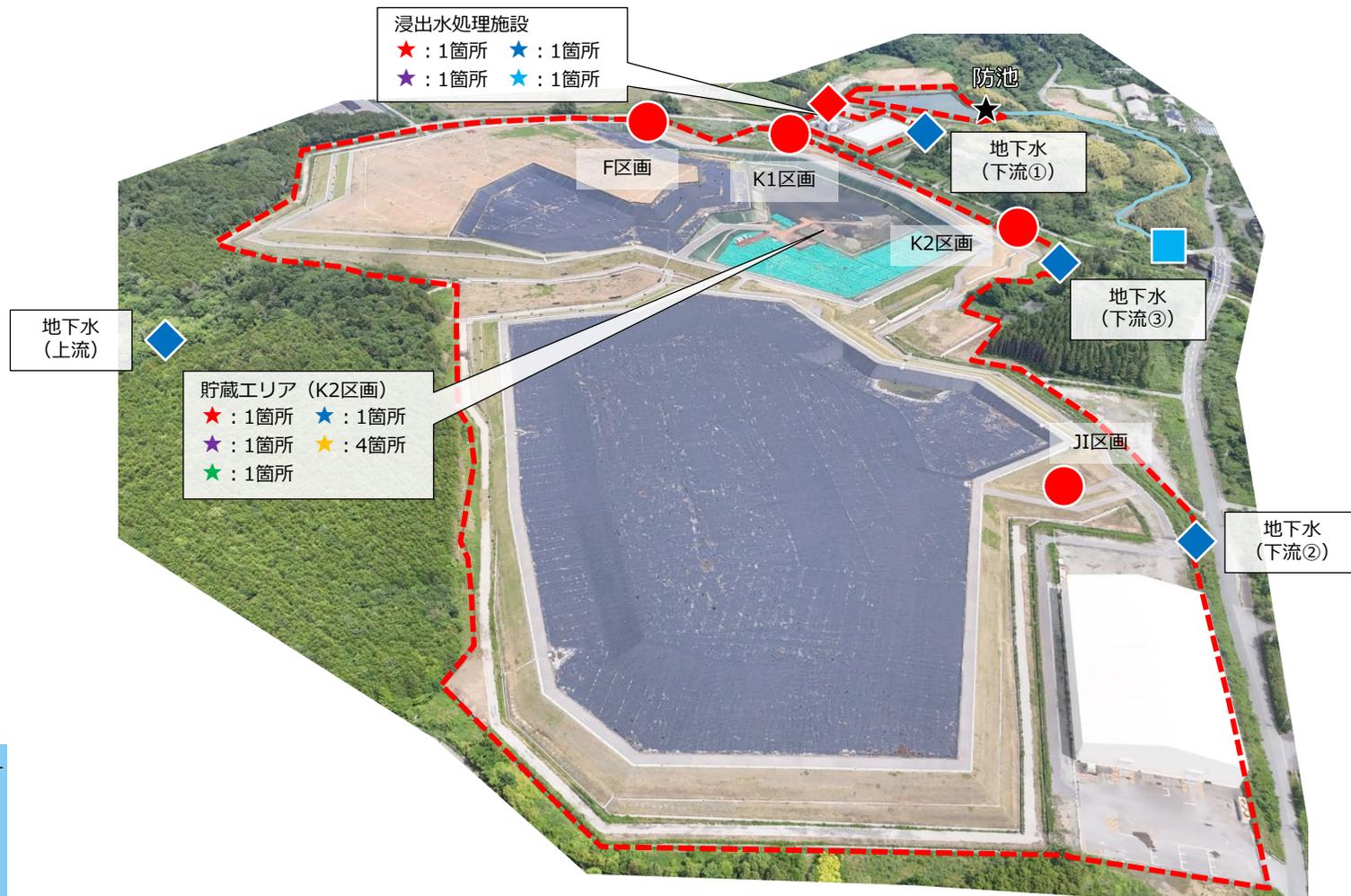
限度：40Bq/cm²

※2025年4月以降、下記の土壌貯蔵施設の浸出水処理施設が稼働停止中のため、

浸出水処理は本工区の浸出水処理施設において実施。

- ・大熊⑤工区
- ・双葉①工区西側
- ・双葉③工区

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



★: 施設の位置



【 凡例 】		
◆ : 地下水 (井戸) 中の電気伝導率等、放射能濃度	● : 地下水 (集排水設備) 中の放射能濃度	◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量	■ : 放流先河川の放射能濃度	★ : 粉じん濃度
★ : 空間線量率 (作業環境)	☆ : 空気中の放射能濃度	☆ : 表面汚染密度 (壁)
★ : 表面汚染密度 (設備)	☆ : 表面汚染密度 (重機)	--- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日	測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2019/4/18	(稼働前)	21	11
	2025/10/2 ~2026/2/3	(稼働後)	12	13
下流①	2019/4/18	(稼働前)	33	14
	2025/10/2 ~2026/2/3	(稼働後)	47	45
下流②	2020/7/31	(稼働前)	29	21
	2025/10/2 ~2026/2/3	(稼働後)	35	22
下流③	2024/4/12	(稼働前)	34	16
	2025/10/2 ~2026/2/3	(稼働後)	120	32

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2019/4/18	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/24	(稼働後)	ND	ND
下流①	2019/4/18	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/24	(稼働後)	ND	ND
下流②	2020/8/6	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/24	(稼働後)	ND	ND
下流③	2024/4/12	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/24	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
貯蔵エリア (F区画)	2019/4/18	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(稼働後)	ND	ND
貯蔵エリア (K1区画)	2019/11/28	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(稼働後)	ND	ND
貯蔵エリア (J1区画)	2020/8/18	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(稼働後)	ND	ND
貯蔵エリア (K2区画)	2024/4/17	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/20 ~2026/2/19	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日	測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池 (防池)	2025/10/2 ~2026/2/3		8.7

SS基準：60mg/L

浮遊物質量 (SS) の報告下限値：1mg/L

※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/12/22	(稼働前) ※	ND	ND
2025/10/2 ~2026/2/3	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度 / 60 + セシウム137の濃度 / 90 ≤ 1

※放流水の流路変更により2021年1月に観測地点を変更した。

★粉じん濃度

測定地点	2025/10/3 ~2026/2/20
	粉じん濃度 (mg/m ³)
貯蔵エリア (K2区画)	0.9
浸出水処理施設	0.2

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³

※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2025/10/18 ~2026/2/20	
	空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
貯蔵エリア (K2区画)	0.48	0.63
浸出水処理施設	0.25	0.27

★空気中の放射能濃度

測定地点	2025/10/3~2026/2/20	
	Cs-134 (Bq/cm ³)	Cs-137 (Bq/cm ³)
貯蔵エリア (K2区画)	ND	ND
浸出水処理施設	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10⁻⁷Bq/cm³、セシウム137：1.0×10⁻⁷Bq/cm³

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度 / 2×10⁻³ + セシウム137の濃度 / 3×10⁻³ ≤ 1

表面汚染密度（★壁、★設備、★重機）

測定地点		2025/10/18 ~2026/2/21	
		表面汚染密度 (Bq/cm ²)	
貯蔵エリア (K2区画)	壁	東側	ND
		西側	ND
		南側	ND
		北側	ND
浸出水処理施設	重機	バックホウ	ND
	設備	濁水処理装置	ND

表面汚染密度検出下限値：0.31~0.37Bq/cm²

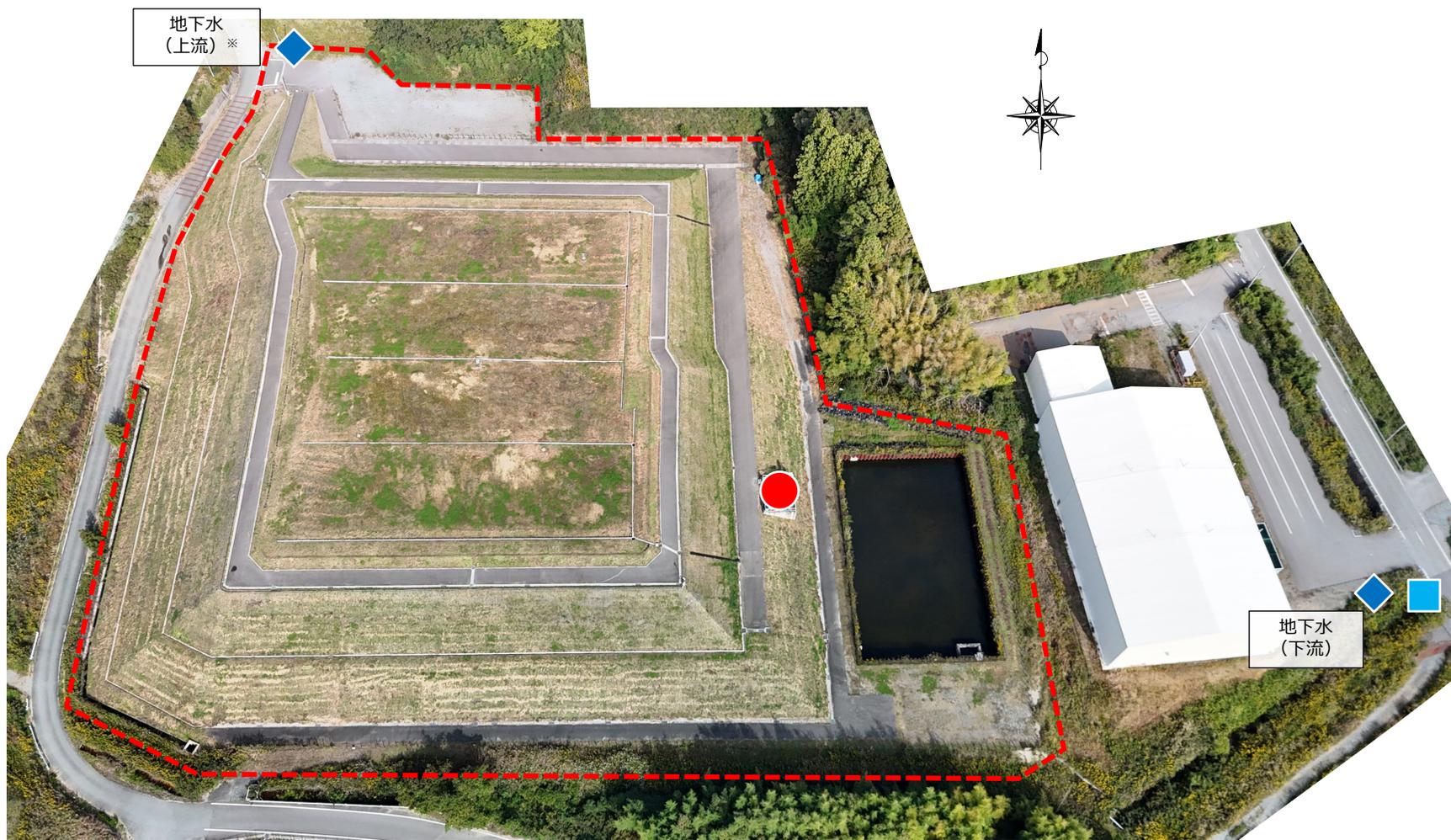
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm²

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。

浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定地点（月次測定）〈貯蔵中〉



☆：施設の位置



【凡例】

◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度

●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度

■：放流先河川の放射能濃度

---：敷地境界線

※敷地境界の変更に伴い従前の上流井戸を移設し、2021年4月より現地点での測定を開始。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2021/4/7	(井戸移設後)	91	44
	2025/10/7 ~2026/2/26	(貯蔵中)	51	64
下流	2017/11/23	(稼働前)	17	9.4
	2025/10/7 ~2026/2/26	(貯蔵中)	21	12

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2021/4/7	(井戸移設後)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/26	(貯蔵中)	ND	ND
下流	2017/11/23	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/26	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
測定日			
2017/12/7	(稼働前)	ND	ND
2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
測定日			
2017/11/2	(稼働前)	ND	ND
2025/10/7 ~2026/2/26	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60 + セシウム137の濃度/90 ≤ 1

土壤貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定地点（月次測定）〈貯蔵中〉



☆: 施設の位置



- 【凡例】
- ◆: 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
 - : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
 - : 放流先河川の放射能濃度
 - : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流①	2018/9/10	(稼働前)	100	6.8
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	100	36
上流②	2020/3/25	(稼働前)	19	13
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	53	120
下流①	2018/9/10	(稼働前)	19	11
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	17	13
下流②	2020/3/25	(稼働前)	83	9.6
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	18	12
下流③	2021/10/27	(稼働前)	34	7.2
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	310	32

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流①	2018/9/10	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	ND	ND
上流②	2020/3/25	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	ND	ND
下流①	2018/9/10	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	ND	ND
下流②	2020/3/25	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	ND	ND
下流③	2021/11/2	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
集排水設備①	2018/9/10	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備②	2020/3/31	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備③	2022/1/11	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目		
	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	
2018/9/3	(稼働前)	ND	ND
2025/10/14 ~2026/2/12	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60 + セシウム137の濃度/90 ≤ 1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。

浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

土壤貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定）〈貯蔵中〉①

19頁参照



☆: 施設の位置

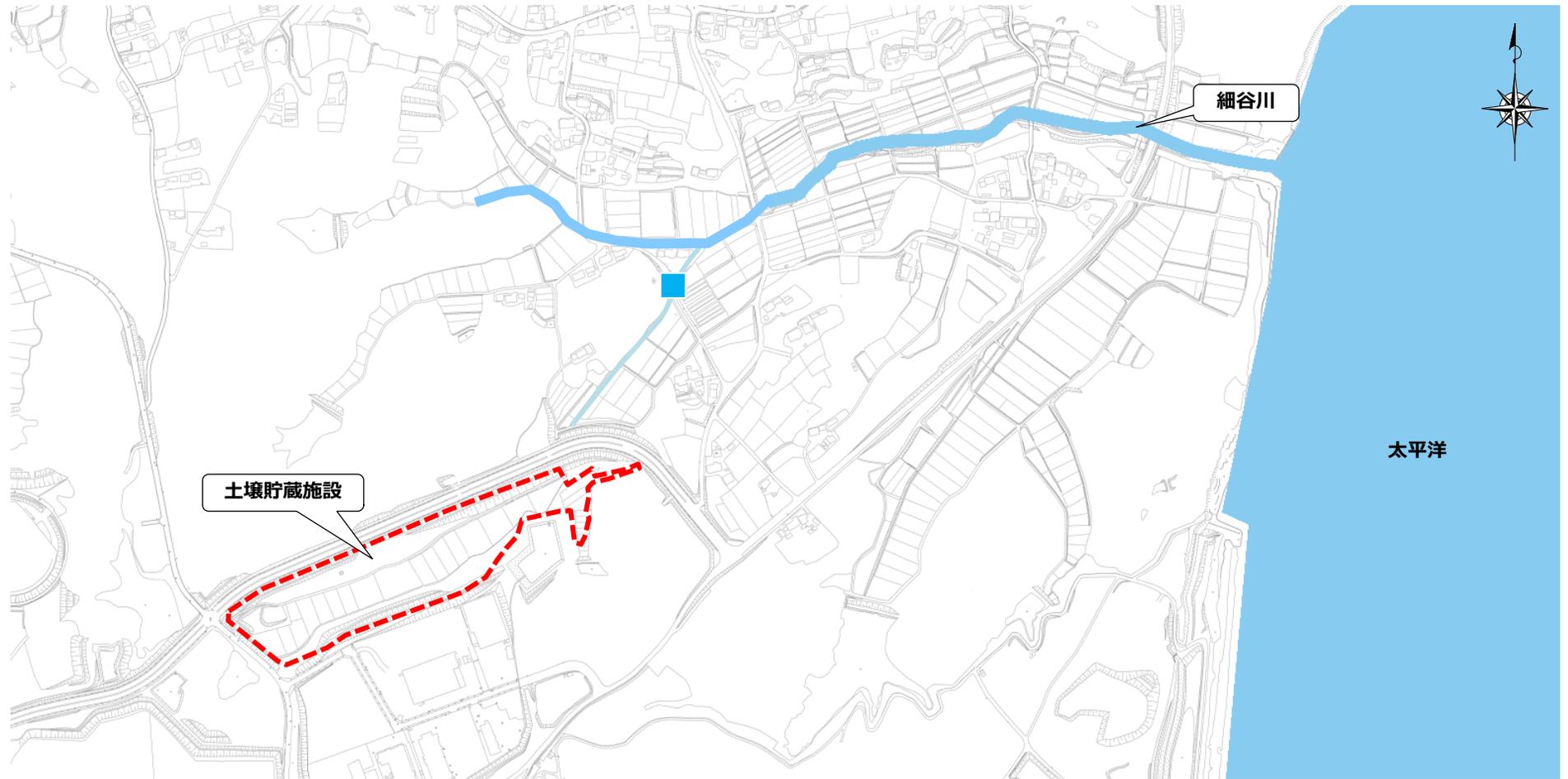


【凡例】

◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
■ : 放流先河川の放射能濃度

● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
--- : 敷地境界線

土壤貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞ ②



【凡例】

■ : 河川水観測地点 - - - : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2019/5/8	(稼働前)	61	8.0
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	52	19
下流	2019/5/8	(稼働前)	18	10
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	27	16

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2019/5/8	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND
下流	2019/5/8	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
測定日			
2019/5/21	(稼働前)	ND	ND
2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
測定日			
2019/4/24	(稼働前)	ND	ND
2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

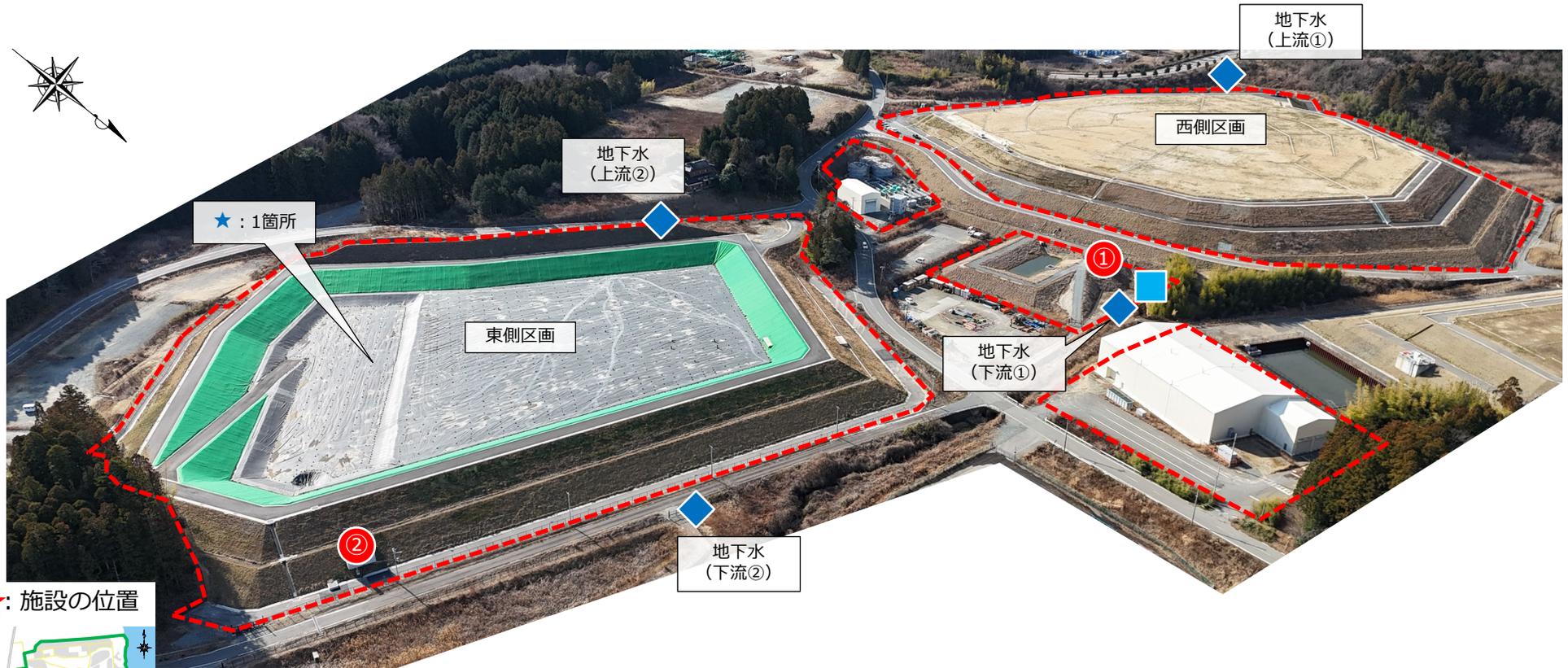
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60 + セシウム137の濃度/90 ≤ 1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。

浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



★: 施設の位置



【凡例】

◆ : 地下水 (井戸) 中の電気伝導率等、放射能濃度

● : 地下水 (集排水設備) 中の放射能濃度

■ : 放流先河川の放射能濃度

★ : 空間線量率 (作業環境)

--- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流①	2019/12/24	(稼働前)	18	8.1
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	35	12
上流②	2021/12/18	(稼働前)	20	14
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	26	19
下流①	2019/12/24	(稼働前)	22	7.8
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	23	11
下流②	2021/12/16	(稼働前)	49	52
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	49	43

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流①	2019/12/24	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND
上流②	2021/12/21	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND
下流①	2019/12/24	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND
下流②	2021/12/16	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
集排水設備①	2019/12/20	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND
集排水設備②	2021/12/16	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/8 ~2026/2/4	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/12/17	(稼働前)		ND	ND
2025/10/7 ~2026/2/5	(貯蔵中)		ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60 + セシウム137の濃度/90 ≤ 1

★空間線量率（作業環境）

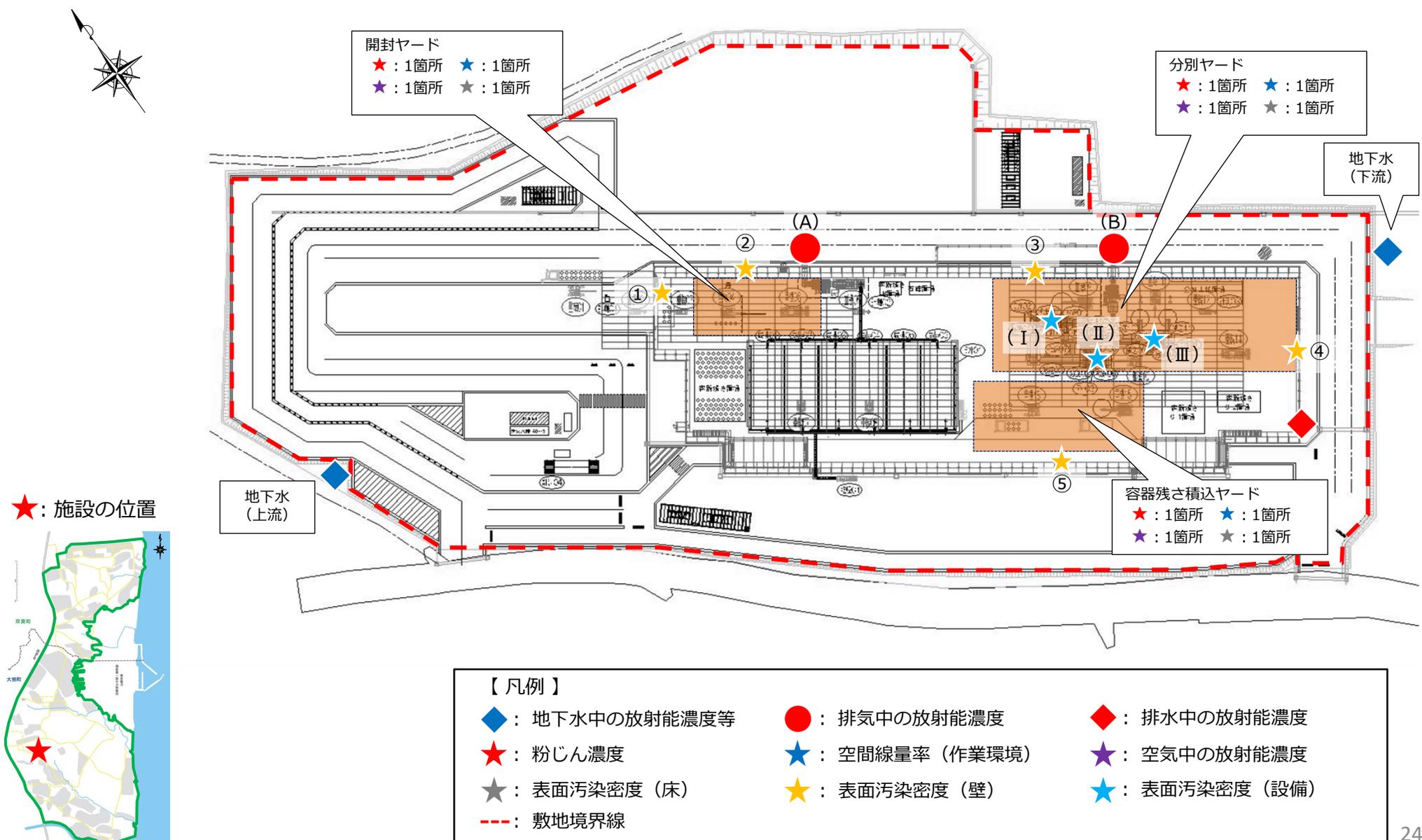
測定地点	2025/10/24 ~2026/2/20	
	空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
東側区画	2.93	2.95

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。

浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

中間貯蔵容器残さ分別処理施設のモニタリング結果 (月次測定)

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定地点 （月次測定）＜解体中のモニタリング地点を含む＞



中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2025/8/7	(稼働前)	43	12
	2025/10/3 ～2026/1/7	(稼働後)	41	12
下流	2025/8/7	(稼働前)	47	3.0
	2025/10/3 ～2026/1/7	(稼働後)	7.5	7.3

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/3 ～2026/1/7	(稼働後)	ND	ND
下流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/3 ～2026/1/7	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

● 排気中の放射能濃度

測定地点		2025/10/10～2026/1/13	
		Cs-134 (Bq/m ³ N)	Cs-137 (Bq/m ³ N)
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.1Bq/m³N、セシウム137：0.1Bq/m³N

放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.3Bq/m³N、セシウム137：0.3Bq/m³N

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

● 排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

※1：2026年2月に実施した解体中のモニタリング結果を含む。

★ 粉じん濃度

測定地点	2025/10/3 ～2026/2/2 粉じん濃度 (mg/m ³)
	開封ヤード※1
分別ヤード※1	0.3
容器残さ積込ヤード	0.2

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³

※期間中の最大値を示す。

★ 空間線量率（作業環境）

測定地点	2025/10/3 ～2026/2/2 空間線量率 (μSv/h)	
	最小値	最大値
開封ヤード※1	0.12	0.13
分別ヤード※1	0.14	0.17
容器残さ積込ヤード	0.15	0.16

★ 空気中の放射能濃度

測定地点	2025/10/3～2026/1/9	
	Cs-134 (Bq/cm ³)	Cs-137 (Bq/cm ³)
開封ヤード	ND	ND
分別ヤード	ND	ND
容器残さ積込ヤード	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：2.0×10⁻⁸Bq/cm³、セシウム137：2.0×10⁻⁸Bq/cm³

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度/2×10⁻³+セシウム137の濃度/3×10⁻³≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2025/10/20 ～2026/1/12 表面汚染密度 (Bq/cm ²)
床	開封ヤード	ND
	分別ヤード	ND
	容器残さ積込ヤード	ND
壁	①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
	⑤	ND
設備	(Ⅰ) 一次分別機（回転式）	ND
	(Ⅱ) 一次分別機（振動式）	ND
	(Ⅲ) 二次分別機（回転式）	ND

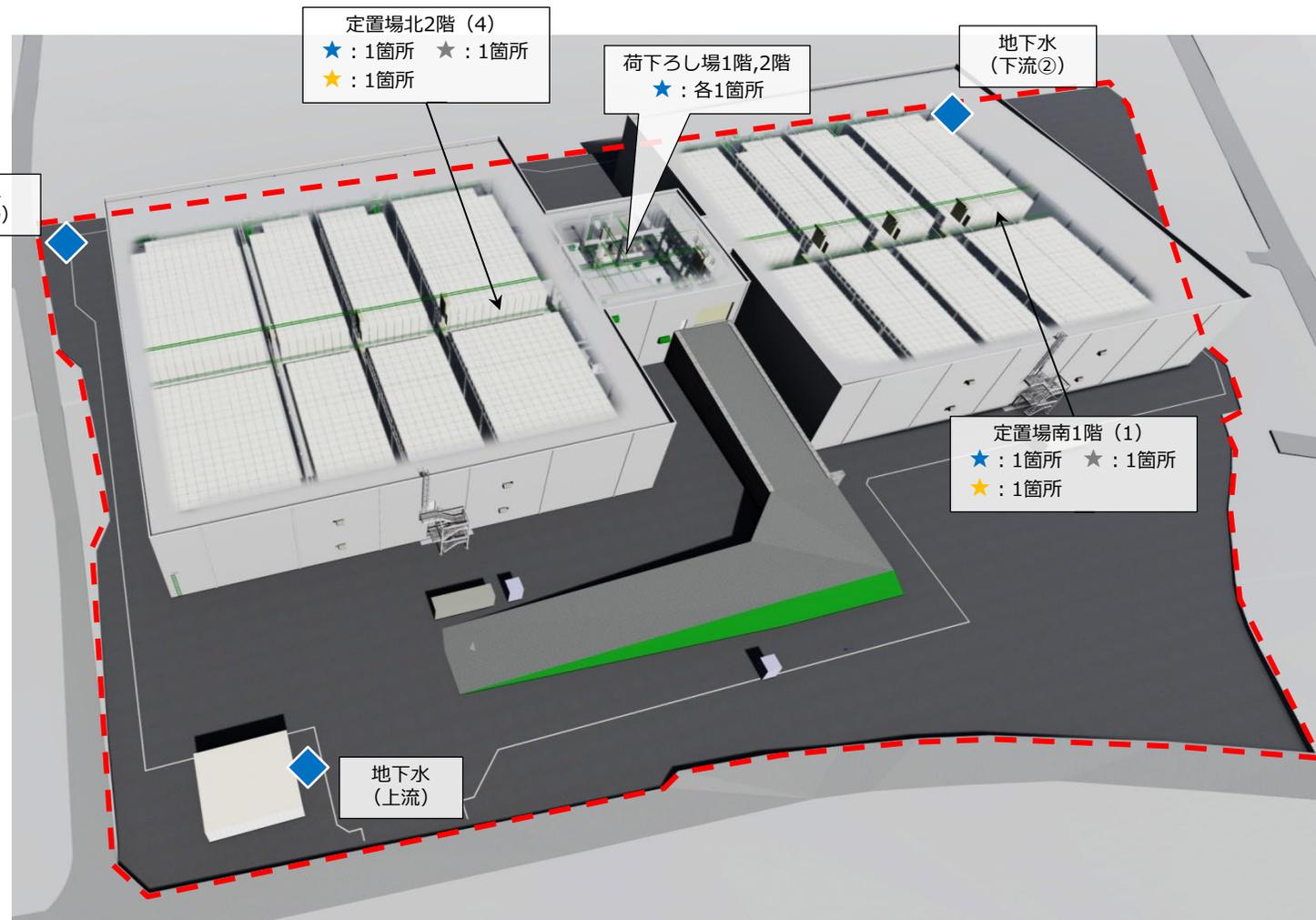
表面汚染密度検出下限値：0.30Bq/cm²

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm²

廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果 (月次測定等)

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★ : 施設の位置



- 【凡例】
- ◆ : 地下水中の放射能濃度等
 - ★ : 空間線量率 (作業環境)
 - ☆ : 表面汚染密度 (床)
 - ☆ : 表面汚染密度 (壁)
 - : 敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2020/3/31	(稼働前)	30	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	17	11
下流①	2020/3/31	(稼働前)	28	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	19	10
下流②	2020/3/31	(稼働前)	15	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	16	8.1

塩化物イオン濃度報告下限値：（稼働前）100mg/L、（稼働後）0.1mg/L
 NDとは、塩化物イオン濃度が報告下限値未満であることを示す。
 ※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2020/3/12	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	ND	ND
下流①	2020/3/9	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	ND	ND
下流②	2020/3/9	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
 NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★ 空間線量率（作業環境）

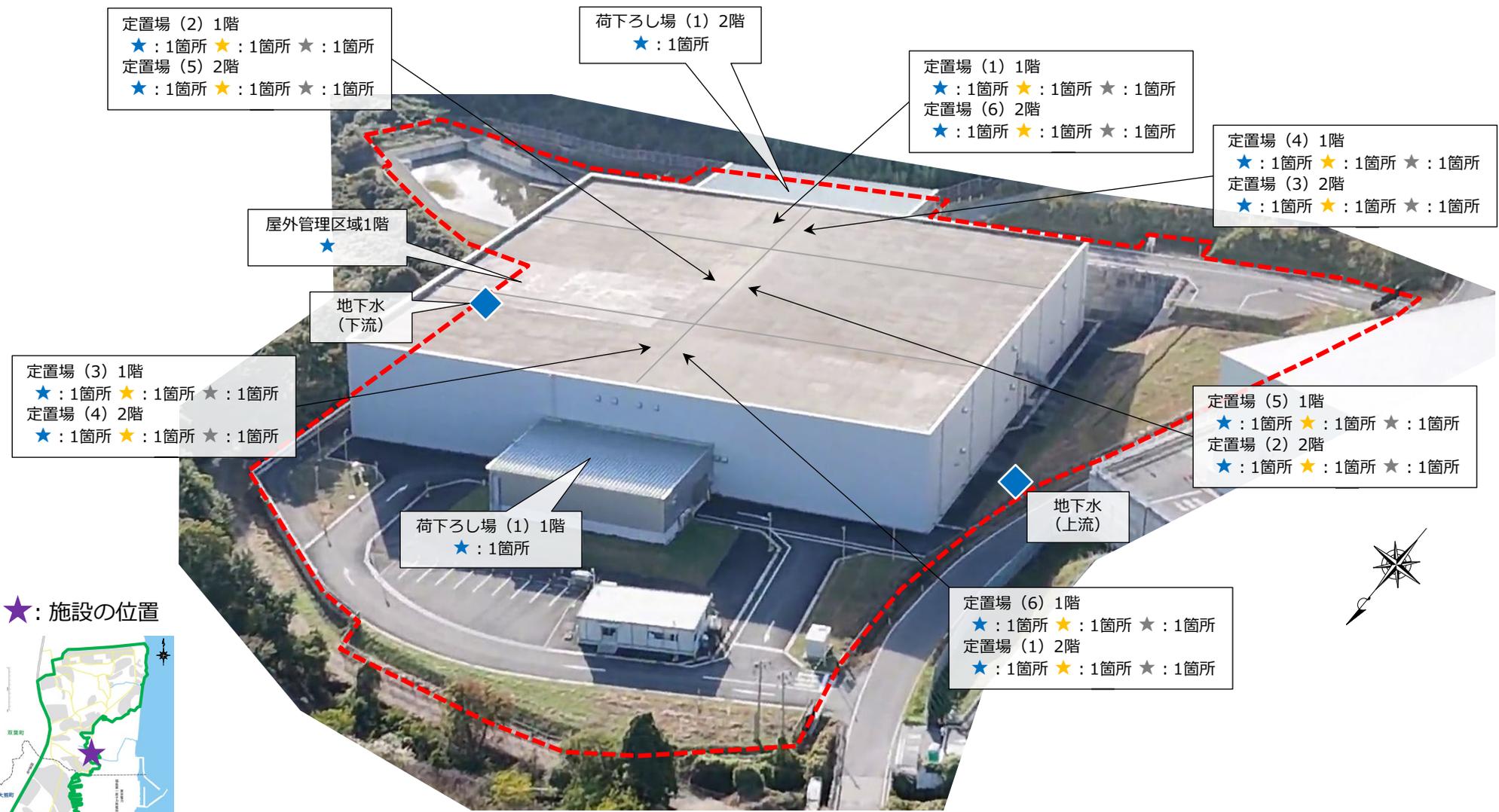
測定地点	2025/10/24 ~2026/2/25 空間線量率 (μ Sv/h)	
	最小値	最大値
	定置場南1階 (1)	1.90
荷下ろし場 1階	0.10	0.12
定置場北2階 (4)	8.24	9.95
荷下ろし場 2階	0.11	0.13

表面汚染密度（★床、★壁）

測定地点		2025/10/24 ~2026/2/25 表面汚染密度 (Bq/cm ²)
床	定置場南1階 (1)	ND
	定置場北2階 (4)	ND
壁	定置場南1階 (1)	ND
	定置場北2階 (4)	ND

表面汚染密度検出下限値：0.40~0.41Bq/cm²
 NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
 限度：40Bq/cm²

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞



★ : 施設の位置



- 【凡例】**
- ◆ : 地下水中の放射能濃度等
 - ★ : 空間線量率 (作業環境)
 - ★ : 表面汚染密度 (床)
 - ★ : 表面汚染密度 (壁)
 - - - : 敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2020/3/2	(稼働前)	16	7.3
	2025/10/1 ~2026/2/19	(貯蔵中)	19	8.5
下流	2020/3/2	(稼働前)	21	12
	2025/10/1 ~2026/2/19	(貯蔵中)	24	6.1

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND
下流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/19	(貯蔵中)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★ 空間線量率（作業環境）

測定地点	2025/12/3 ~2026/2/18	
	空間線量率 (μ Sv/h)	
	最小値	最大値
定置場 (1) 1階	3.26	3.75
定置場 (2) 1階	9.12	10.5
定置場 (3) 1階	1.40	1.68
定置場 (4) 1階	5.82	6.78
定置場 (5) 1階	8.62	10.5
定置場 (6) 1階	3.59	4.27
荷下ろし場 (1) 1階	0.17	0.20
屋外管理区域 1階	1.05	1.05
定置場 (1) 2階	1.74	2.10
定置場 (2) 2階	2.51	2.95
定置場 (3) 2階	2.29	2.67
定置場 (4) 2階	3.45	4.10
定置場 (5) 2階	1.35	1.70
定置場 (6) 2階	1.98	2.38
荷下ろし場 (1) 2階	0.19	0.23

表面汚染密度（★床、★壁）（年次測定）

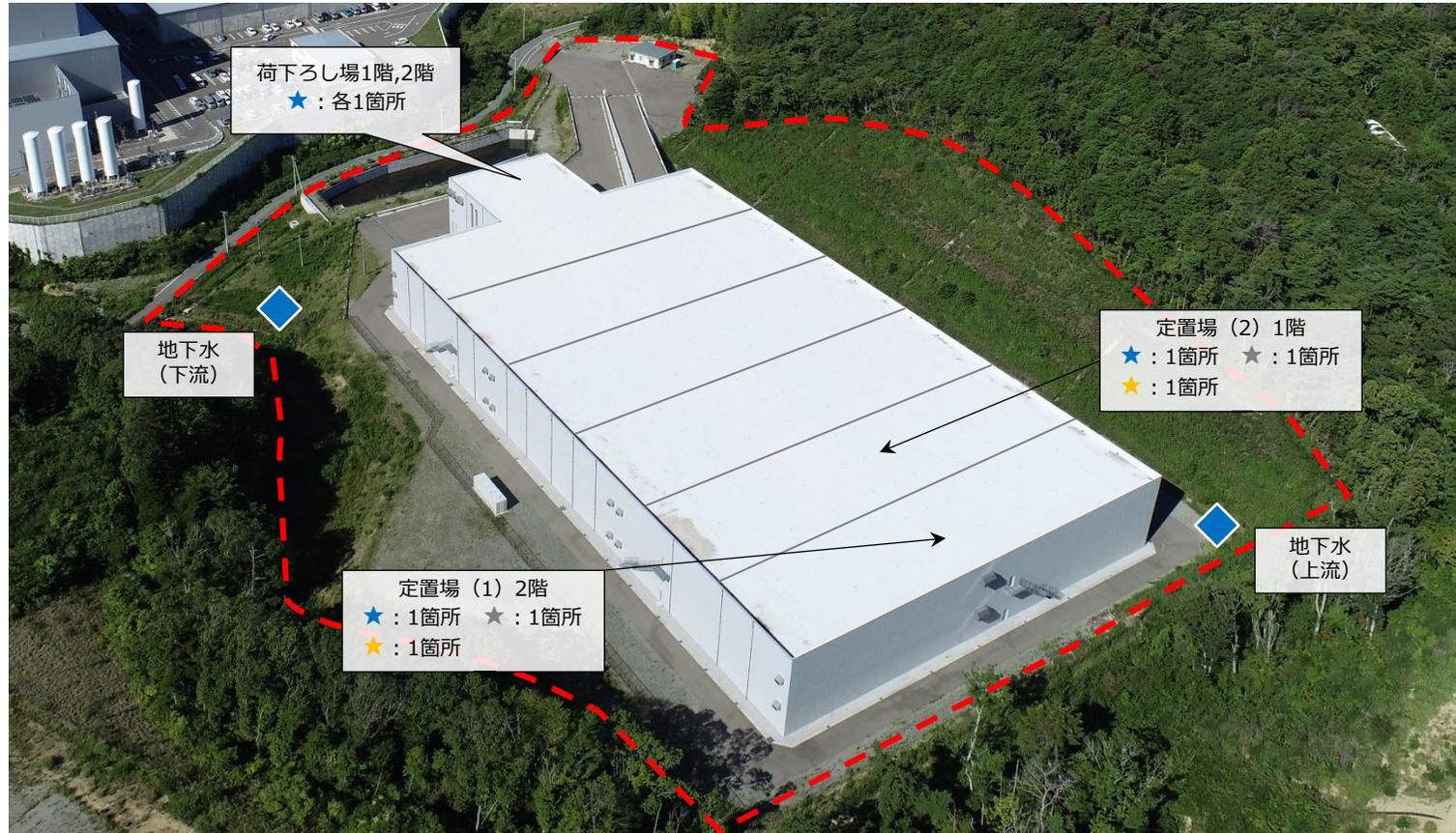
測定地点	2025/12/3	
	表面汚染密度 (Bq/cm ²)	
床	定置場 (1) 1階	ND
	定置場 (2) 1階	ND
	定置場 (3) 1階	ND
	定置場 (4) 1階	ND
	定置場 (5) 1階	ND
	定置場 (6) 1階	ND
	定置場 (1) 2階	ND
	定置場 (2) 2階	ND
	定置場 (3) 2階	ND
	定置場 (4) 2階	ND
	定置場 (5) 2階	ND
	定置場 (6) 2階	ND
壁	定置場 (1) 1階	ND
	定置場 (2) 1階	ND
	定置場 (3) 1階	ND
	定置場 (4) 1階	ND
	定置場 (5) 1階	ND
	定置場 (6) 1階	ND
	定置場 (1) 2階	ND
	定置場 (2) 2階	ND
	定置場 (3) 2階	ND
	定置場 (4) 2階	ND
	定置場 (5) 2階	ND
	定置場 (6) 2階	ND

表面汚染密度検出下限値：0.40Bq/cm²

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm²

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★：施設の位置



- 【凡例】
- ◆：地下水中の放射能濃度等
 - ★：空間線量率（作業環境）
 - ★：表面汚染密度（床）
 - ★：表面汚染密度（壁）
 - ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2023/10/2	(稼働前)	18	11
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	18	12
下流	2023/10/2	(稼働前)	24	5.4
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	23	6.1

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2023/10/2	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	ND	ND
下流	2023/10/2	(稼働前)	ND	ND
	2025/10/1 ~2026/2/2	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★ 空間線量率（作業環境）

測定地点	2025/10/24 ~2026/2/25 空間線量率 (μ Sv/h)	
	最小値	最大値
	定置場(2) 1階	1.91
荷下ろし場 1階	0.07	0.07
定置場(1) 2階	0.34	3.35
荷下ろし場 2階	0.07	0.07

表面汚染密度（★床、★壁）

測定地点		2025/10/24 ~2026/2/25 表面汚染密度 (Bq/cm ²)
床	定置場(2) 1階	ND
	定置場(1) 2階	ND
壁	定置場(2) 1階	ND
	定置場(1) 2階	ND

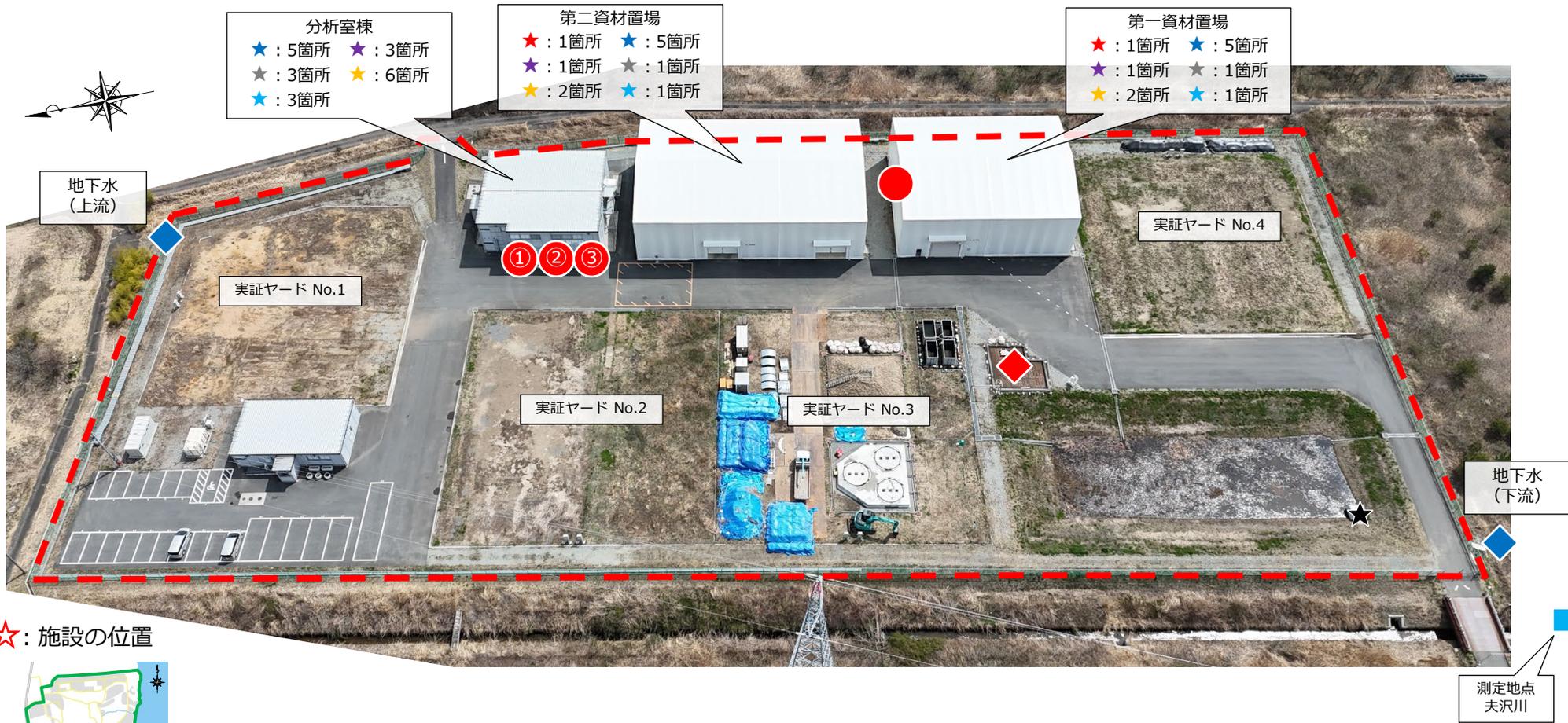
表面汚染密度検出下限値：0.40~0.41Bq/cm²

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm²

技術実証フィールドのモニタリング結果 (月次測定)

技術実証フィールドのモニタリング測定地点（月次測定）



- 【 凡例 】
- ◆ : 地下水中の放射能濃度等
 - : 排気中の放射能濃度
 - ◆ (赤) : 実証試験排水の放射能濃度等
 - ★ : 沈砂池からの放流水の放射能濃度等
 - (青) : 放流先河川の放射能濃度
 - ★ (赤) : 粉じん濃度
 - ★ (青) : 空間線量率 (作業環境)
 - ☆ (紫) : 空気中の放射能濃度
 - ★ (灰) : 表面汚染密度 (床)
 - ★ (黄) : 表面汚染密度 (壁)
 - ★ (水青) : 表面汚染密度 (設備)
 - - - : 敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（月次測定）

◆ 地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
	測定日			
上流	2019/9/6 (稼働前)	27	31	8.2
	2025/10/2 ~2026/2/3 (稼働後)			
下流	2019/9/6 (稼働前)	14	35	8.9
	2025/10/2 ~2026/2/3 (稼働後)			

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
	測定日			
上流	2019/9/6 (稼働前)	ND	ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/3 (稼働後)			
下流	2019/9/6 (稼働前)	ND	ND	ND
	2025/10/2 ~2026/2/3 (稼働後)			

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

● 排気中の放射能濃度

測定地点		測定対象	2025/10/2~2026/2/13	
			Cs-134 (Bq/m ³ N)	Cs-137 (Bq/m ³ N)
第一資材置場	集じん機	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
分析室棟	①一般分析 第一前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	②固体試料 第一前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	③固体試料 第二前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.5Bq/m³N、セシウム137：0.5Bq/m³N

放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：1.0Bq/m³N、セシウム137：1.0Bq/m³N

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆ 実証試験排水の環境項目

排水処理・放流の実績はないため測定なし。
(2025/1/24以降排水なし)

◆ 実証試験排水の放射能濃度等

排水処理・放流の実績はないため測定なし。
(2025/1/24以降排水なし)

★ 沈砂池からの放流水の浮遊物質質量

測定日	測定項目	浮遊物質質量 (SS) (mg/L)
2025/10/2	~2026/2/3	19

SS管理値：60mg/L

浮遊物質質量 (SS) の報告下限値：1mg/L

※期間中の最大値を示す。

★ 沈砂池からの放流水の放射能濃度

測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2025/10/2	~2026/2/3	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■ 放流先河川の放射能濃度

測定日	測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2019/9/27 (稼働前)		ND	ND
2025/10/2 ~2026/2/3 (稼働後)		ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度/60+セシウム137の濃度/90≦1

★ 粉じん濃度

測定地点	測定日
	2025/10/2 ~2026/2/13

第一資材置場 ND
第二資材置場 0.2

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

※期間中の最大値を示す。

★ 空間線量率（作業環境）

測定地点		2025/10/2 ~2026/2/13	
		空間線量率 (μSv/h)	最小値 最大値
第一資材置場	東	0.62	0.70
	西	0.23	0.25
	南	0.56	0.58
	北	0.17	0.18
第二資材置場	中央	0.25	0.34
	東	0.36	0.40
	西	0.20	0.22
	南	0.21	0.22
分析室棟	北	0.23	0.25
	中央	0.23	0.25
	一般分析第一前処理室	0.08	0.09
	固体試料第二前処理室	0.13	0.25
	放射能濃度測定室	0.10	0.11
	防護員脱衣室	0.08	0.09
廊下1	0.10	0.10	

★ 空気中の放射能濃度

測定地点		2025/10/2~2026/2/13	
		Cs-134 (Bq/cm ³)	Cs-137 (Bq/cm ³)
第一資材置場	第二資材置場	ND	ND
	分析室棟	ND	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	ND	ND
	固体試料第一前処理室	ND	ND
	固体試料第二前処理室	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10⁻⁷Bq/cm³、セシウム137：1.0×10⁻⁷Bq/cm³

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度/2×10⁻⁹+セシウム137の濃度/3×10⁻⁹≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点			2025/10/2 ~2026/2/13	
			表面汚染密度 (Bq/cm ²)	
第一資材置場	床	中央	ND	
	壁	東	ND	
	西	ND		
第二資材置場	設備	集じん機	ND	
	床	中央	ND	
	壁	東	ND	
	西	ND		
分析室棟	設備	操作盤	ND	
	床	中央	ND	
	一般分析第一前処理室	壁	東	ND
		西	ND	
		設備	集じん機	ND
	固体試料第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
		西	ND	
	固体試料第二前処理室	設備	集じん機	ND
		床	中央	ND
		壁	東	ND
	西	ND		
設備	集じん機	ND		

表面汚染密度検出下限値：0.20~0.21Bq/cm²

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm²

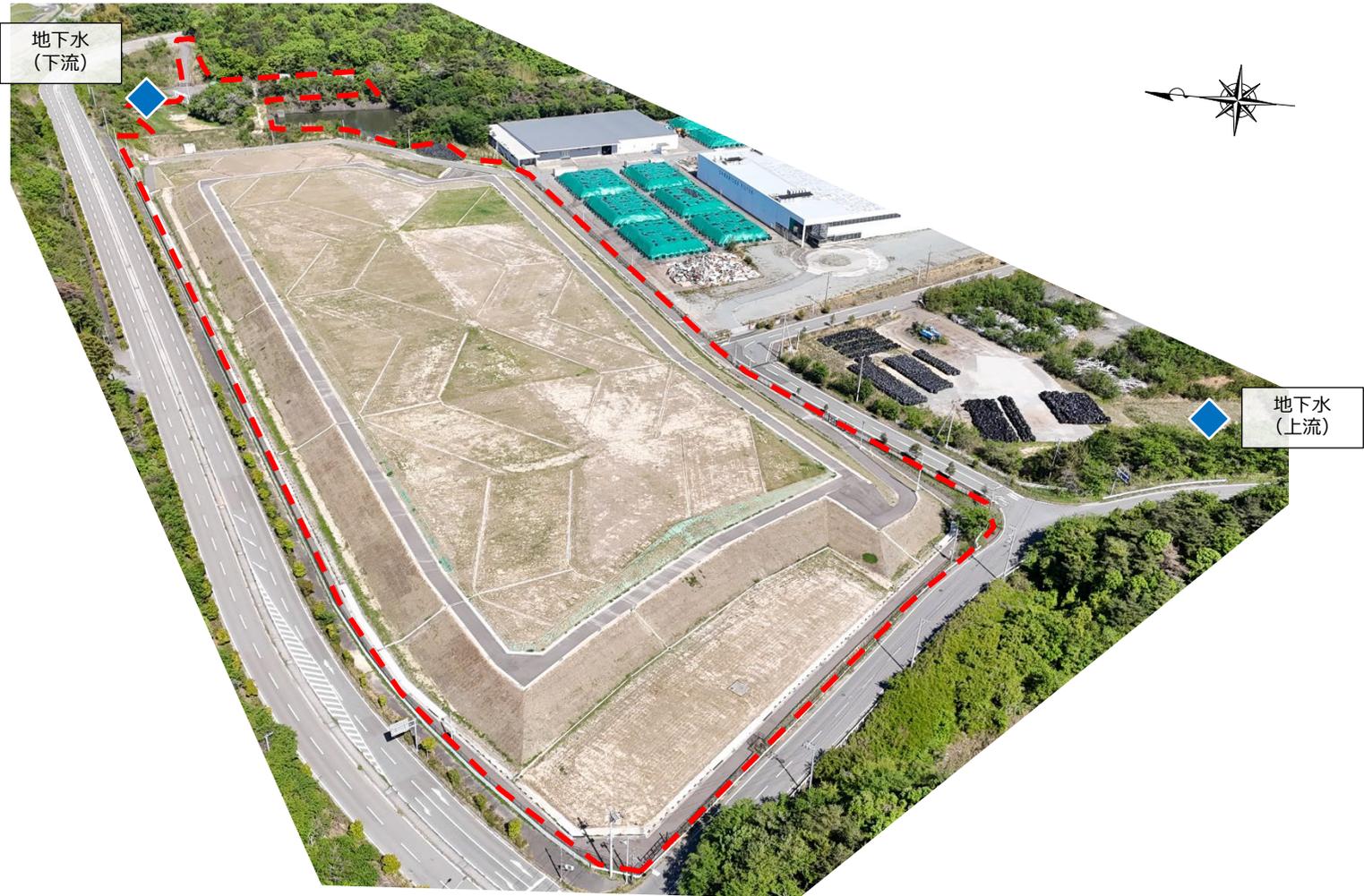
土壌貯蔵施設のモニタリング結果 (年次測定)

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会(第28回)でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

- ・大熊①工区
- ・大熊②工区
- ・大熊③工区
- ・大熊④工区
- ・大熊⑤工区
- ・双葉①工区東側
- ・双葉①工区西側

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（年次測定） <貯蔵中>

19頁参照



☆: 施設の位置



【凡例】

◆ : 地下水検査項目（井戸）

■ : 放流先河川の環境基準項目

--- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目		アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	測定日	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	不検出	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	不検出	ND	0.0003	0.073	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	測定日	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	0.006	不検出	不検出	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	0.003	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	0.007	不検出	不検出	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目		ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	測定日	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキササン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	測定日	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日	地下水検査基準	1以下
上流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	0.23
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	0.041
下流	2019/5/8 (稼働前)	稼働前	0.057
	2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	0.039

■放流先河川の環境基準項目

測定日	測定項目		カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
	水質環境基準	地下水検査基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	ND	不検出	ND	ND	0.002
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	ND	不検出	ND	ND	0.003

測定日	測定項目		総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
	水質環境基準	地下水検査基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	ND	不検出	不検出	ND	ND
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定日	測定項目		1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
	水質環境基準	地下水検査基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND

測定日	測定項目		トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	水質環境基準	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	ND	ND	ND	ND	ND
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	ND	ND	ND	ND	ND

測定日	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
	水質環境基準	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	ND	ND	ND	0.5	0.14
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	ND	ND	ND	0.1	0.14

測定日	測定項目		ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキササン (mg/L)
	水質環境基準	地下水検査基準	1以下	0.05以下
2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	ND	ND
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	ND	ND

測定日	測定項目		水素イオン濃度 (pH) ※1	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※1 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※1 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※1 (mg/L)	大腸菌数 ※1,※2 (CFU/100mL)
	2019/4/24 (稼働前)	稼働前	稼働前	7.9	2.2	140	10.2
2025/11/14 (貯蔵中)	貯蔵中	貯蔵中	7.0	2.5	24	8.5	1

※1：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。

(参考) 河川C類型の環境基準：pH 6.5~8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

※2：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。

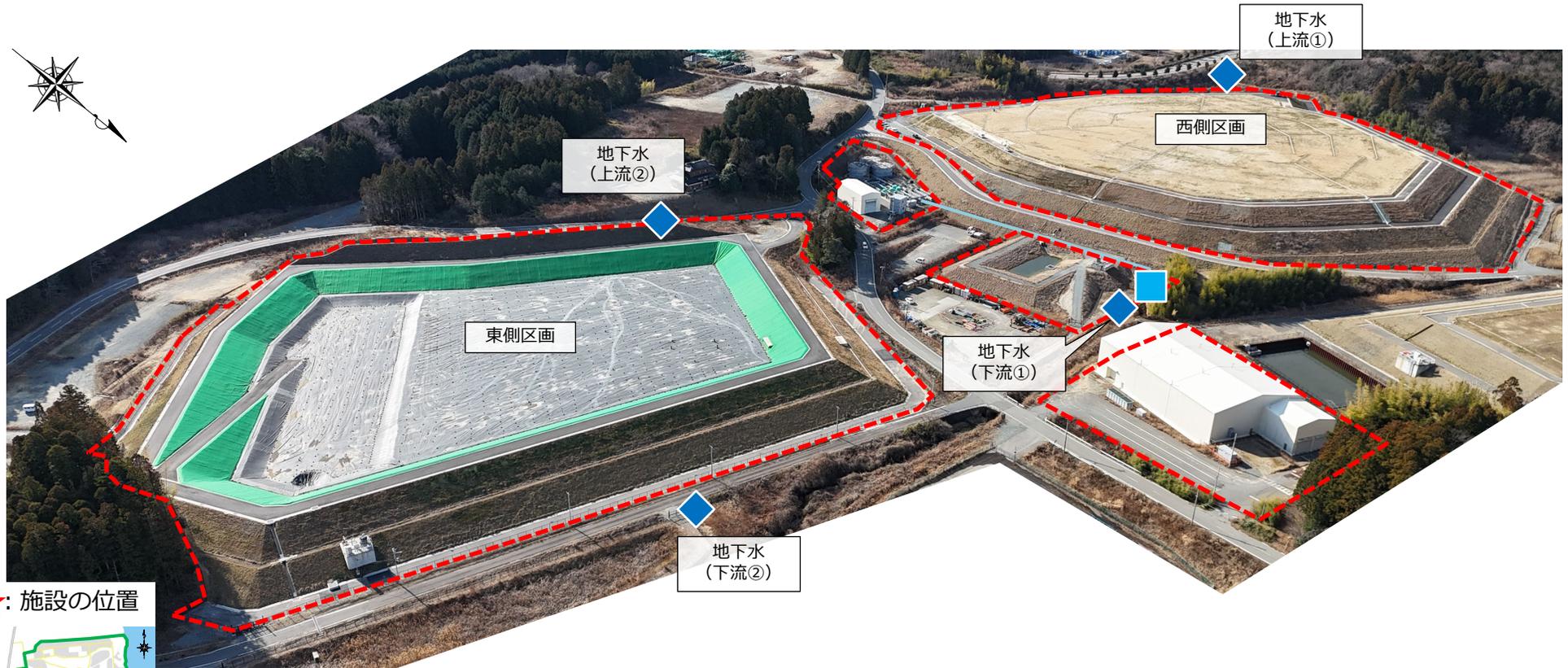
2019年4月24日（稼働前）の大腸菌群数は1400 MPN/100mLであった。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞



☆: 施設の位置



【凡例】

- ◆ : 地下水検査項目（井戸）
- : 放流先河川の環境基準項目
- : 敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	測定日	地下水検査基準						
上流①	2019/12/22 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/1/19 (貯蔵中)	不検出	ND	0.0004	ND	ND	ND	不検出
上流②	2021/12/18 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/1/19 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2019/12/22 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/1/19 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②	2021/12/16 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/1/16 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日	地下水検査基準						
上流①	2019/12/22 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/19 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2021/12/18 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/19 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2019/12/22 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/19 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2021/12/16 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/16 (貯蔵中)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカブ (mg/L)
	測定日	地下水検査基準						
上流①	2019/12/22 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/19 (貯蔵中)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2021/12/18 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/19 (貯蔵中)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2019/12/22 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/19 (貯蔵中)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2021/12/16 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/16 (貯蔵中)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキササン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日	地下水検査基準				
上流①	2019/12/22 (稼働前) ※1	ND	ND	ND	ND	0.81
	2026/1/19 (貯蔵中) ※2	ND	ND	ND	ND	1.5
上流②	2021/12/18 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	0.058
	2026/1/19 (貯蔵中) ※2	ND	ND	ND	ND	0.38
下流①	2019/12/22 (稼働前) ※1	ND	ND	ND	ND	0.72
	2026/1/19 (貯蔵中) ※2	ND	ND	ND	ND	0.57
下流②	2021/12/16 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	2.3
	2026/1/16 (貯蔵中)	ND	ND	ND	ND	0.044

※1 上流①及び下流①：ダイオキシン類の稼働前測定日は2019年11月26日。

※2 上流①②及び下流①：ダイオキシン類の測定日は2026年1月16日。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川的环境基準項目

測定日	測定項目	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
	水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2019/12/17 (稼働前)		ND	不検出	0.001	ND	0.002
2026/1/16 (貯蔵中)		ND	不検出	ND	ND	0.002

測定日	測定項目	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
	水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2019/12/17 (稼働前)		ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/1/16 (貯蔵中)		ND	不検出	不検出	ND	ND

測定日	測定項目	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
	水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2019/12/17 (稼働前)		ND	ND	ND	ND	ND
2026/1/16 (貯蔵中)		ND	ND	ND	ND	ND

測定日	測定項目	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2019/12/17 (稼働前)		ND	ND	ND	ND	ND
2026/1/16 (貯蔵中)		ND	ND	ND	ND	ND

測定日	測定項目	チオベンカブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
	水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2019/12/17 (稼働前)		ND	ND	ND	0.3	0.09
2026/1/16 (貯蔵中)		ND	ND	ND	0.2	0.13

測定日	測定項目	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキササン (mg/L)
	水質環境基準	1以下	0.05以下
2019/12/17 (稼働前)		ND	ND
2026/1/16 (貯蔵中)		ND	ND

測定日	測定項目	水素イオン濃度 (pH) ※3	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※3 (mg/L)	浮遊物質 (SS) ※3 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※3 (mg/L)	大腸菌数 ※3, ※4 (CFU/100mL)
2019/12/17 (稼働前)		7.6	2	66	10	—
2026/1/16 (貯蔵中)		7.6	1.9	17	10.2	1

※3：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。

(参考) 河川C類型の環境基準：pH 6.5~8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

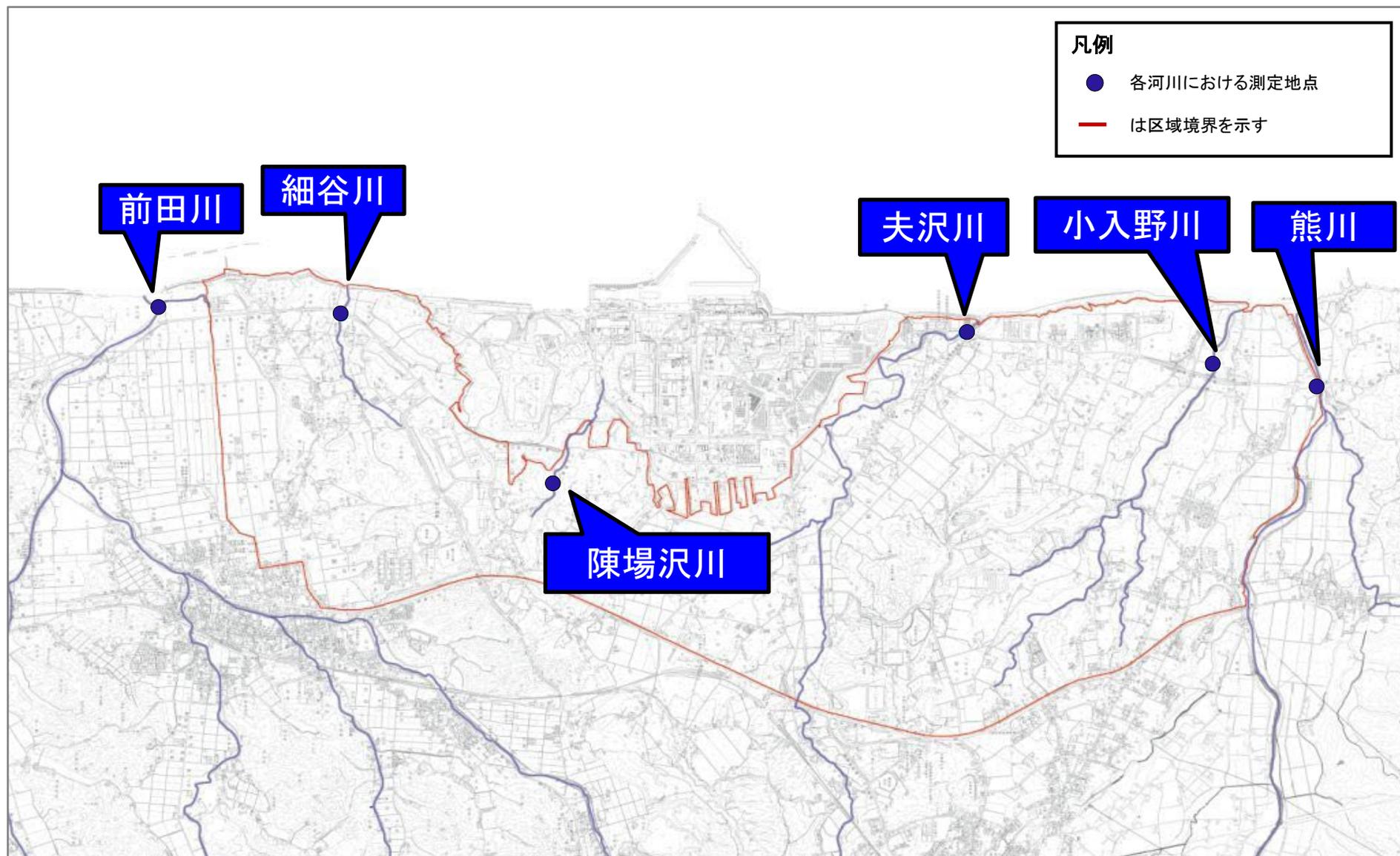
※4：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。

2019年12月17日（稼働前）の大腸菌群数は1700 MPN/100mLであった。

本工区の水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

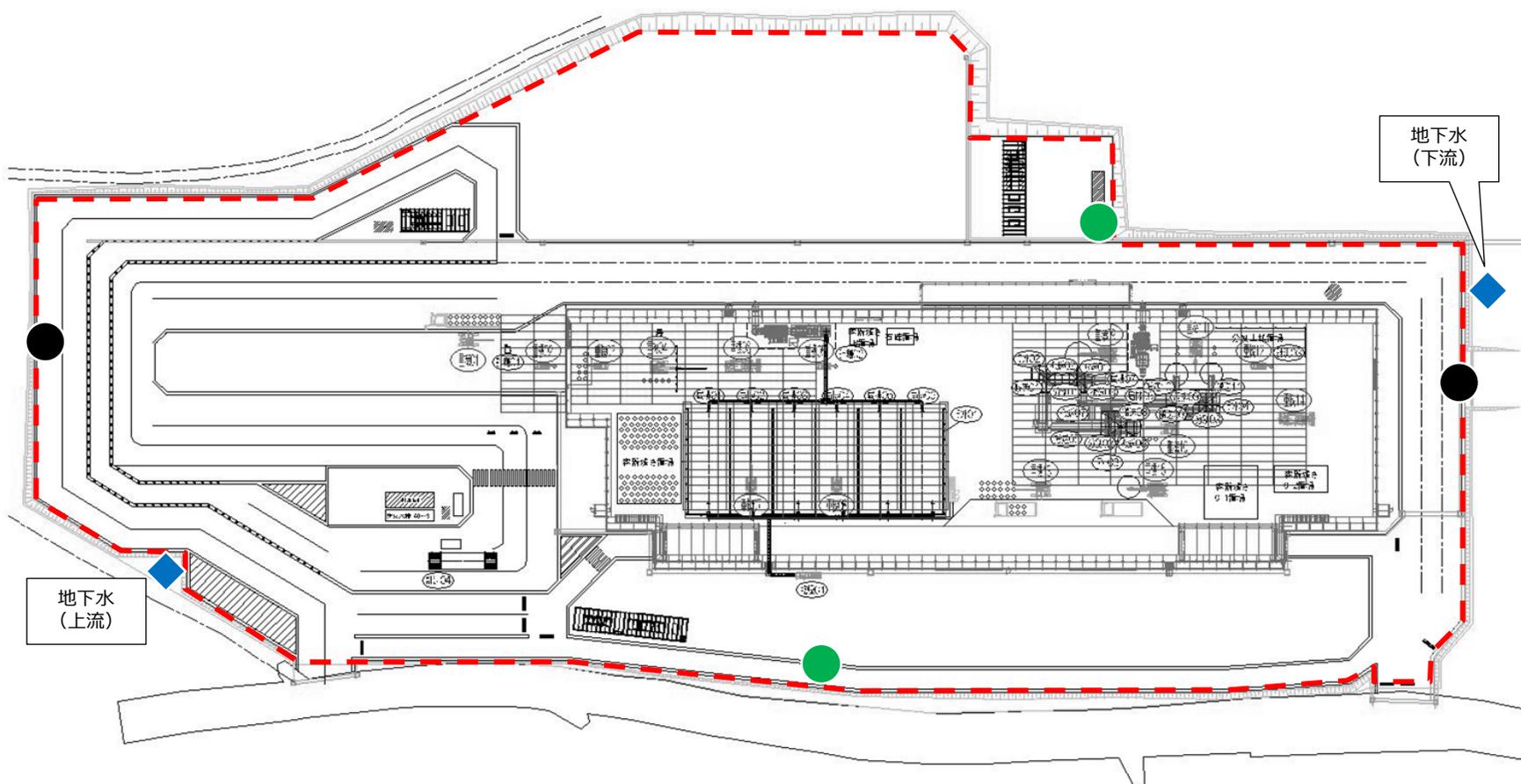
NDとは、定量下限値未満であることを示す。

河川最下流における放射性セシウムの測定地点



中間貯蔵容器残さ分別処理施設のモニタリング結果 (年次測定)

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置



【凡例】

- ：騒音・振動
- ：悪臭
- ◆：地下水検査項目
- ：敷地境界線

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定結果（年次測定）

●騒音

測定地点	測定項目		騒音レベル (dB)
	測定日		
北側	2025/8/7	(稼働前)	53
	2025/12/18	(稼働後)	59
南側	2025/8/7	(稼働前)	59
	2025/12/18	(稼働後)	60

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB（昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目		振動レベル (dB)
	測定日		
北側	2025/8/7	(稼働前)	30未満
	2025/12/18	(稼働後)	49
南側	2025/8/7	(稼働前)	30未満
	2025/12/18	(稼働後)	41

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目		臭気指数
	測定日		
西側	2025/8/7	(稼働前)	10未満 (風下)
	2025/12/18	(稼働後)	10未満 (風下)
東側	2025/8/7	(稼働前)	10未満 (風上)
	2025/12/18	(稼働後)	10未満 (風上)

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目		アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	測定日						
	地下水検査基準		検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2025/8/7	(稼働前)	不検出	ND	ND	0.002	ND
	2026/1/7	(稼働後)	不検出	ND	ND	0.001	ND
下流	2025/8/7	(稼働前)	不検出	ND	ND	0.001	ND
	2026/1/7	(稼働後)	不検出	ND	ND	0.003	ND

測定地点	測定項目		砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	測定日						
	地下水検査基準		0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2025/8/7	(稼働前)	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2025/8/7	(稼働前)	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目		ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日						
	地下水検査基準		0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	測定日						
	地下水検査基準		1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

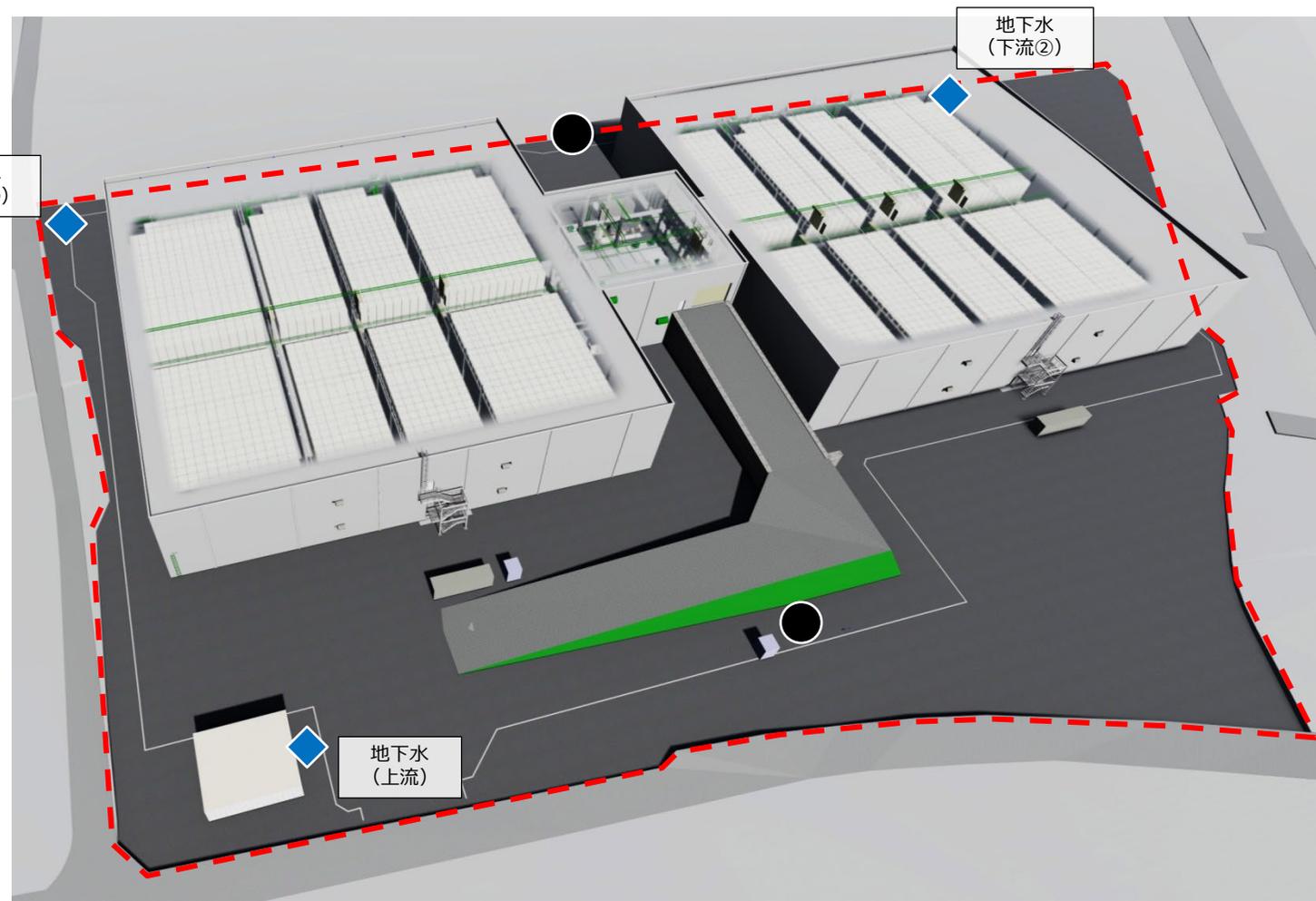
測定地点	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	測定日						
	地下水検査基準		0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND	0.001	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2025/8/7	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/1/7	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日		
	地下水検査基準		1以下
上流	2025/8/7	(稼働前)	0.13
	2026/1/7	(稼働後)	0.15
下流	2025/8/7	(稼働前)	0.11
	2026/1/7	(稼働後)	0.073

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果 (年次測定)

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置



【凡例】

●：悪臭	◆：地下水検査項目	---：敷地境界線
------	-----------	-----------

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

●悪臭

測定地点	測定項目		臭気指数
	測定日		
西側	2020/4/13 (稼働前)	10未満 (風下)	10未満 (風下)
	2025/12/16 (稼働後)	10未満 (風下)	
東側	2020/4/13 (稼働前)	10未満 (風上)	10未満 (風上)
	2025/12/16 (稼働後)	10未満 (風上)	

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目		アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	測定日		検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2020/3/9 (稼働前)	不検出	ND	ND	0.0009	0.015	ND
	2025/12/16 (稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	0.002	ND
	2025/12/16 (稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 (稼働前)	不検出	ND	ND	ND	0.01	ND
	2025/12/16 (稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2020/3/9 (稼働前)	0.016	不検出	不検出	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 (稼働前)	0.002	不検出	不検出	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 (稼働前)	0.009	不検出	不検出	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND

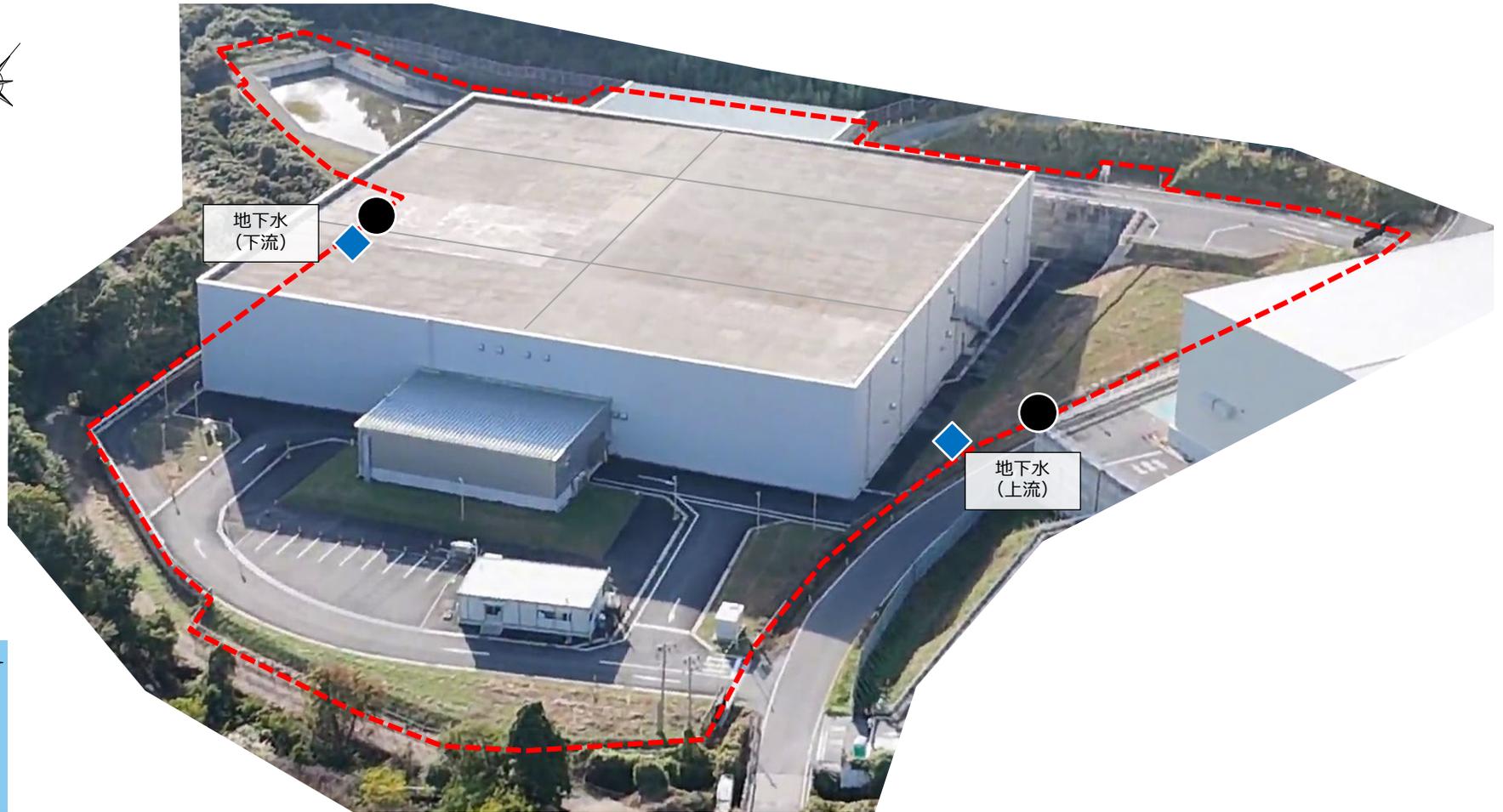
測定地点	測定項目		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	測定日		1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	0.001	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 (稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日		1以下
上流	2020/3/9 (稼働前)	1.3	
	2025/12/16 (稼働後)	0.043	
下流①	2020/3/9 (稼働前)	0.57	
	2025/12/16 (稼働後)	0.090	
下流②	2020/3/9 (稼働前)	1.7	
	2025/12/16 (稼働後)	0.031	

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定地点（年次測定）〈貯蔵中〉



★：施設の位置



【凡例】			
●：悪臭	◆：地下水検査項目	---	敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

● 悪臭

測定地点	測定項目		臭気指数
	測定日		
西側	2020/3/2	(稼働前)	10未満 (風上)
	2025/12/16	(稼働後)	10未満 (風上)
東側	2020/3/2	(稼働前)	10未満 (風下)
	2025/12/16	(稼働後)	10未満 (風下)

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。

福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆ 地下水検査項目

測定地点	測定項目		アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	測定日		検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2020/3/2	(稼働前)	不検出	ND	ND	0.15	ND
	2025/12/16	(稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	(稼働前)	不検出	ND	ND	0.62	ND
	2025/12/16	(稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2020/3/2	(稼働前)	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2020/3/2	(稼働前)	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目		ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

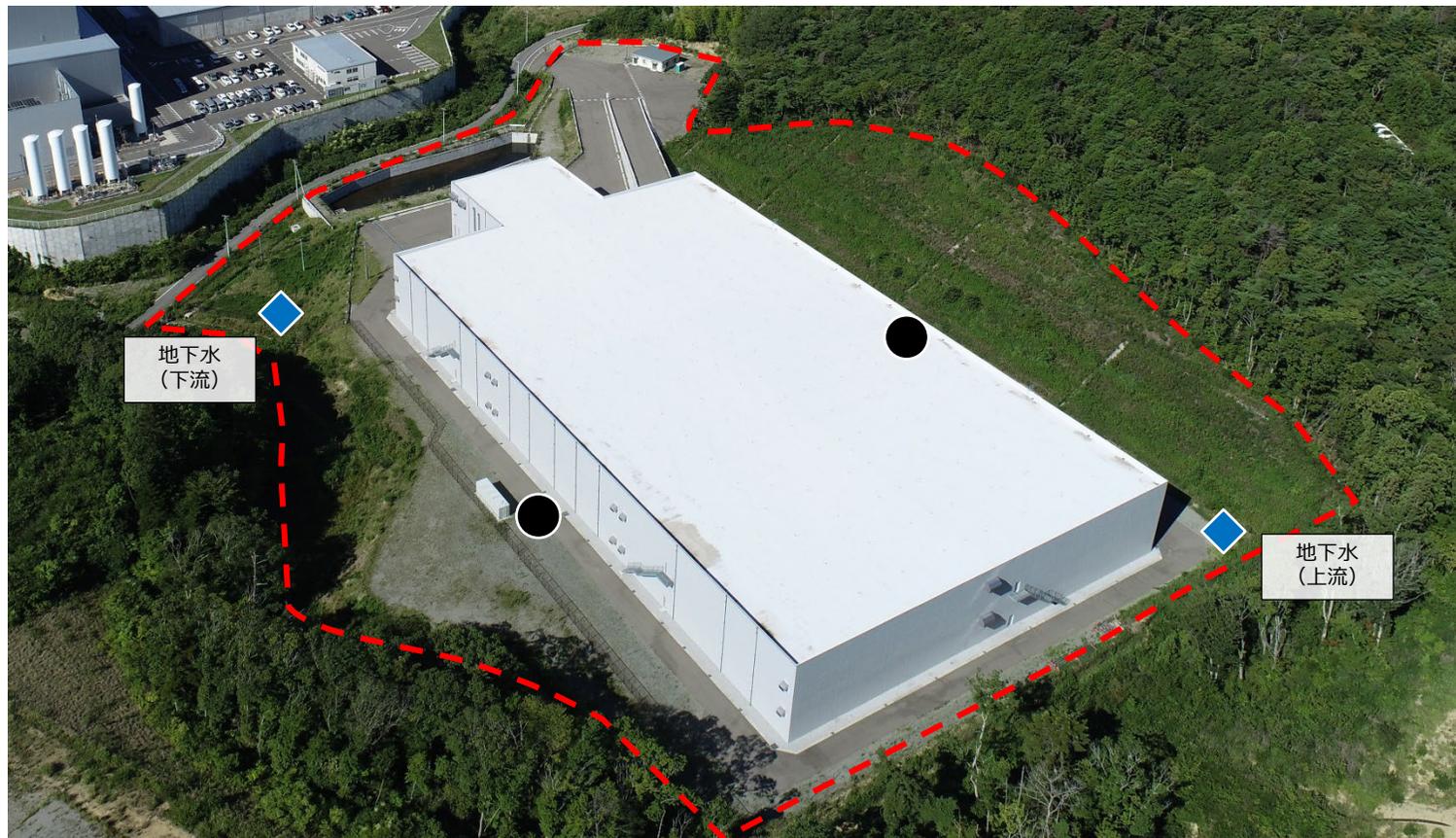
測定地点	測定項目		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	測定日		1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2020/3/2	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/12/16	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日		1以下
上流	2020/3/2	(稼働前)	0.18
	2025/12/16	(稼働後)	0.042
下流	2020/3/2	(稼働前)	0.43
	2025/12/16	(稼働後)	0.079

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置



【凡例】

●：悪臭

◆：地下水検査項目

---：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

● 悪臭

測定地点	測定項目		臭気指数
	測定日		
西側	2023/10/5 (稼働前)	10未満 (風上)	10未満 (風上)
	2025/10/15 (稼働後)	10未満 (風下)	
東側	2023/10/5 (稼働前)	10未満 (風下)	10未満 (風上)
	2025/10/15 (稼働後)	10未満 (風上)	

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。

福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆ 地下水検査項目

測定地点	測定項目		アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	測定日		検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	不検出	ND	ND	0.077	ND
	2025/10/15 (稼働後)		不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	不検出	ND	ND	0.001	ND
	2025/10/15 (稼働後)		不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	0.005	不検出	不検出	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目		ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	測定日		1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND

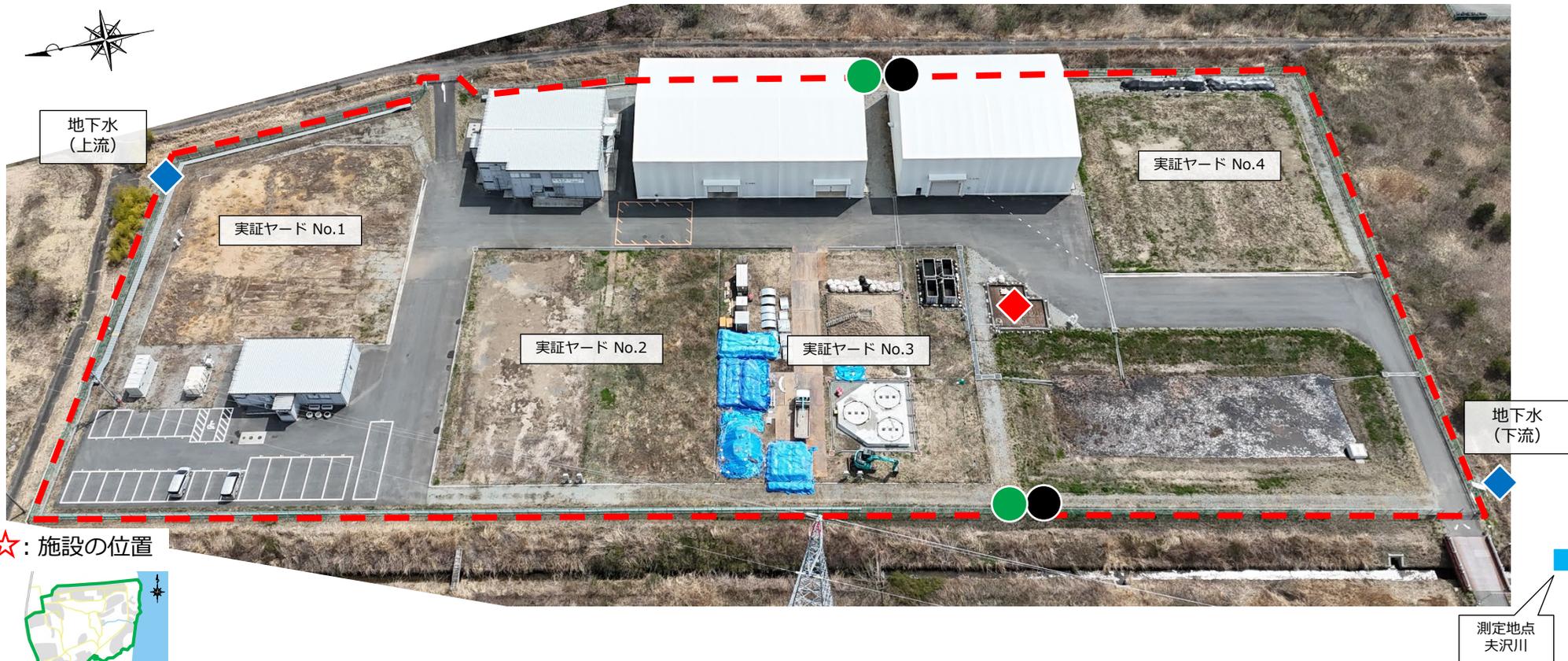
測定地点	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキササン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/15 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日		1以下
上流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	0.099
	2025/10/15 (稼働後)		0.054
下流	2023/10/2 (稼働前)	地下水検査基準	0.039
	2025/10/15 (稼働後)		0.033

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

技術実証フィールドのモニタリング結果 (年次測定)

技術実証フィールドのモニタリング測定地点（年次測定）



☆: 施設の位置



- 【凡例】
- : 騒音・振動
 - : 悪臭
 - ◆ : 地下水検査項目
 - ◆ : 実証試験排水の排水基準項目
 - : 放流先河川的环境基準項目
 - - - : 敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目		騒音レベル (dB)
	測定日		
西側	2019/9/21	(稼働前)	38
	2025/10/2	(稼働後)	50
東側	2019/9/21	(稼働前)	38
	2025/10/2	(稼働後)	57

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB（昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目		振動レベル (dB)
	測定日		
西側	2019/9/21	(稼働前)	30未満
	2025/10/2	(稼働後)	30未満
東側	2019/9/21	(稼働前)	30未満
	2025/10/2	(稼働後)	30未満

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目		臭気指数
	測定日		
西側	2019/9/21	(稼働前)	10未満（風下）
	2025/10/2	(稼働後)	10未満（風上）
東側	2019/9/21	(稼働前)	10未満（風上）
	2025/10/2	(稼働後)	10未満（風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目		アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)
	測定日		検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2019/9/6	(稼働前)	不検出	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6	(稼働前)	不検出	ND	0.0007	0.094	ND
	2025/10/2	(稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2019/9/6	(稼働前)	0.039	不検出	不検出	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	0.001	不検出	不検出	ND	ND
下流	2019/9/6	(稼働前)	0.014	不検出	不検出	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目		ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2019/9/6	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	測定日		1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2019/9/6	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	測定日		0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2019/9/6	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2019/9/6	(稼働前)	ND	ND	ND	ND	ND
	2025/10/2	(稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目		ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	測定日		1以下
上流	2019/9/6	(稼働前)	0.043
	2025/10/2	(稼働後)	0.038
下流	2019/9/6	(稼働前)	4
	2025/10/2	(稼働後)	0.039

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（年次測定）②

◆実証試験排水の排水基準項目

測定項目	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及び その化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
2025/10/3 (稼働後)	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目	六価クロム化合物 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ホリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.5以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサソ (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アミノ酸化合物、 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量) (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量) (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
測定日	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
実証試験排水の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌数 ※1 (CFU/mL)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
測定日	(mg/L)	(CFU/mL)	(pg-TEQ/L)
実証試験排水の排水基準	2以下	800以下	10以下
2025/10/3 (稼働後)	ND	0	0.0002

※1：放射性物質汚染対処特措法施行規則の改正（2025年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。

■放流先河川の環境基準項目

測定日	測定項目	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
	水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2019/9/27 (稼働前)		ND	不検出	ND	ND	ND
2025/10/3 (稼働後)		ND	不検出	ND	ND	ND

測定日	測定項目	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
	水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2019/9/27 (稼働前)		ND	不検出	不検出	ND	ND
2025/10/3 (稼働後)		ND	不検出	不検出	ND	ND

測定日	測定項目	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
	水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2019/9/27 (稼働前)		ND	ND	ND	ND	ND
2025/10/3 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND

測定日	測定項目	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2019/9/27 (稼働前)		ND	ND	ND	ND	ND
2025/10/3 (稼働後)		ND	ND	ND	ND	ND

測定日	測定項目	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
	水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2019/9/27 (稼働前)		ND	ND	ND	0.09	0.09
2025/10/3 (稼働後)		ND	ND	ND	0.2	ND

測定日	測定項目	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサソ (mg/L)
	水質環境基準	1以下	0.05以下
2019/9/27 (稼働前)		ND	ND
2025/10/3 (稼働後)		ND	ND

測定日	測定項目	水素イオン濃度 (pH) ※2	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※2 (mg/L)	浮遊物質 (SS) ※2 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※2 (mg/L)	大腸菌数 ※2, ※3 (CFU/100mL)
2019/9/27 (稼働前)		8	1.3	ND	11.7	—
2025/10/3 (稼働後)		8.1	1.9	ND	11.2	91

※2：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。

（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上

※3：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。

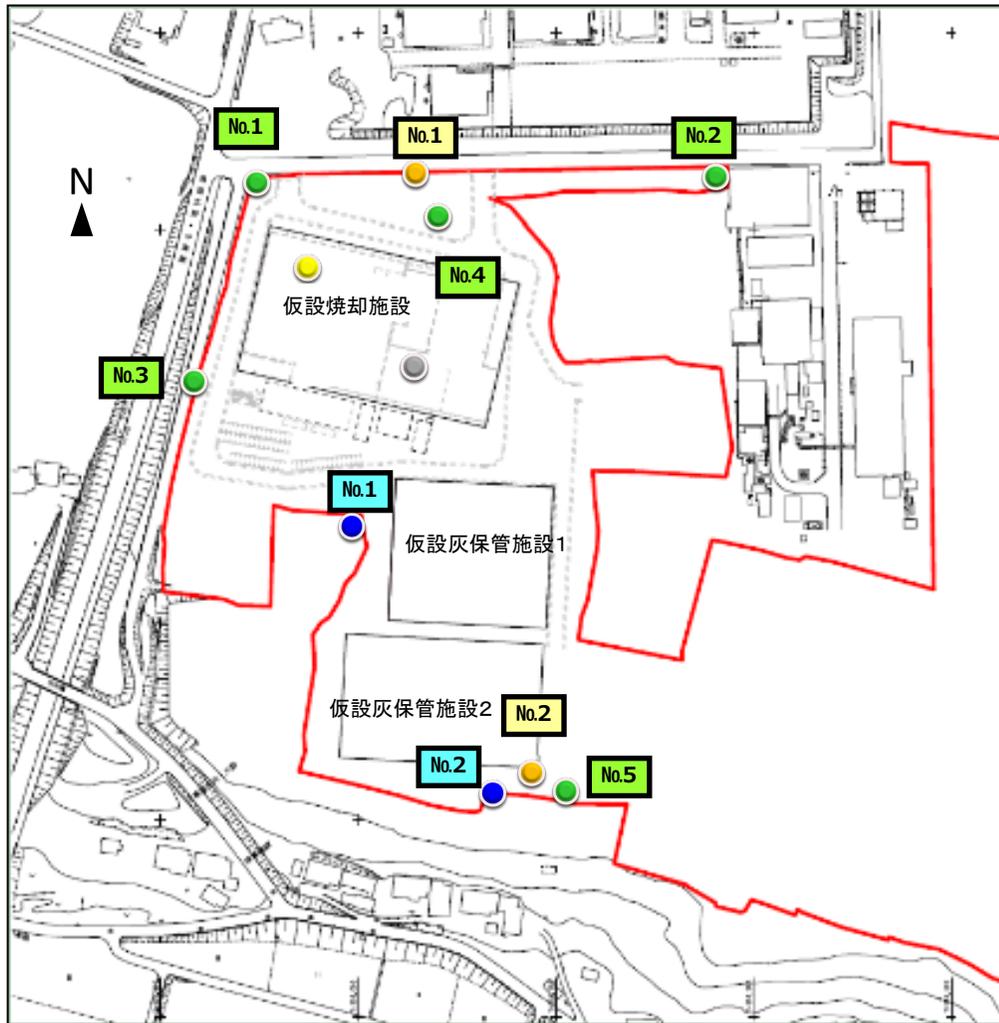
2019年9月27日（稼働前）の大腸菌群数は 11000 MPN/100mLであった。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

仮設焼却施設のモニタリング結果

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定地点



凡例

- | | |
|----------------------|---------|
| ● 排ガス中の放射性物質濃度 | ● 空間線量率 |
| ● 地下水(井戸)中の放射性物質濃度 | ● 粉じん濃度 |
| ● 雨水(雨水排水集水桝)中の放射能濃度 | |

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定結果

悪臭

測定地点	測定日	臭気指数	
		基準値	測定値
業務用地境界(東)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(西)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(南)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(北)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(南西)	2025/12/1	15	<10
気体排出口	2025/12/1	35	17

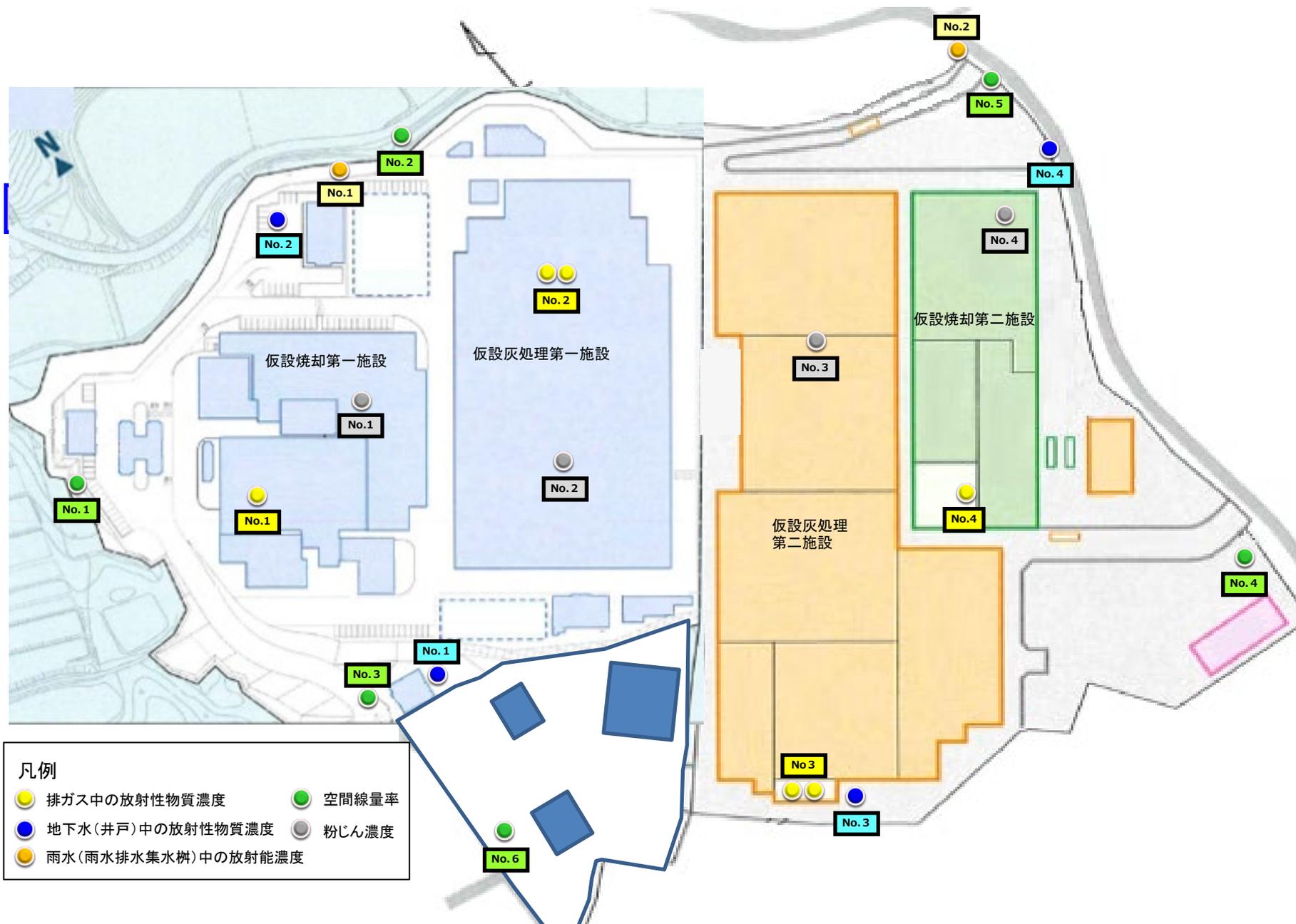
排ガス中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m ³ ・N)	
		基準値	測定値
排ガス	2025/12/1	0.1以下	0.000031

焼却灰・ばいじん中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)	
		基準値	測定値
焼却灰	2025/12/1	3	0.000037
ばいじん	2025/12/1	3	0.059

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定地点



- 凡例
- 排ガス中の放射性物質濃度
 - 空間線量率
 - 地下水(井戸)中の放射性物質濃度
 - 粉じん濃度
 - 雨水(雨水排水集水樹)中の放射能濃度

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定結果

仮設焼却第一施設・仮設灰処理第一施設

悪臭

測定地点	測定日	臭気指数	
		基準値	測定値
業務用地境界(風上)	2025/4/9	15	<10
業務用地境界(風下)	2025/4/9	15	<10
気体排気口 (仮設焼却第一施設)	2025/4/9	38	32
気体排気口 (仮設灰処理第一施設・1号炉)	2025/4/8	38	25
気体排気口 (仮設灰処理第一施設・2号炉)	2025/4/16	38	26

排ガス中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m ³ ・N)	
		基準値	測定値
排ガス (仮設焼却第一施設)	2025/4/9	0.1以下	0.000016
排ガス (仮設灰処理第一施設・1号炉)	2025/4/16	0.1以下	0
排ガス (仮設灰処理第一施設・2号炉)	2025/4/16	0.1以下	0.000018

生成物・ばいじん中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)	
		基準値	測定値
生成物 (仮設焼却第一施設)	2025/4/9	0.25	0
生成物 (仮設灰処理第一施設)	2025/5/13	0.25	0
ばいじん (仮設焼却第一施設)	2025/4/9	—	0.077
ばいじん (仮設灰処理第一施設)	2025/5/13	—	0.19

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定結果

仮設焼却第二施設・仮設灰処理第二施設

悪臭

測定地点	測定日	臭気指数	
		基準値	測定値
業務用地境界(風上)	2025/10/9	15	<10
業務用地境界(風下)	2025/10/9	15	<10
気体排気口 (仮設焼却第二施設)	2025/9/11	38	34
気体排気口 (仮設灰処理第二施設・1号炉)	2025/10/9	38	29
気体排気口 (仮設灰処理第二施設・2号炉)	2025/10/9	38	29

排ガス中のダイオキシン類濃度

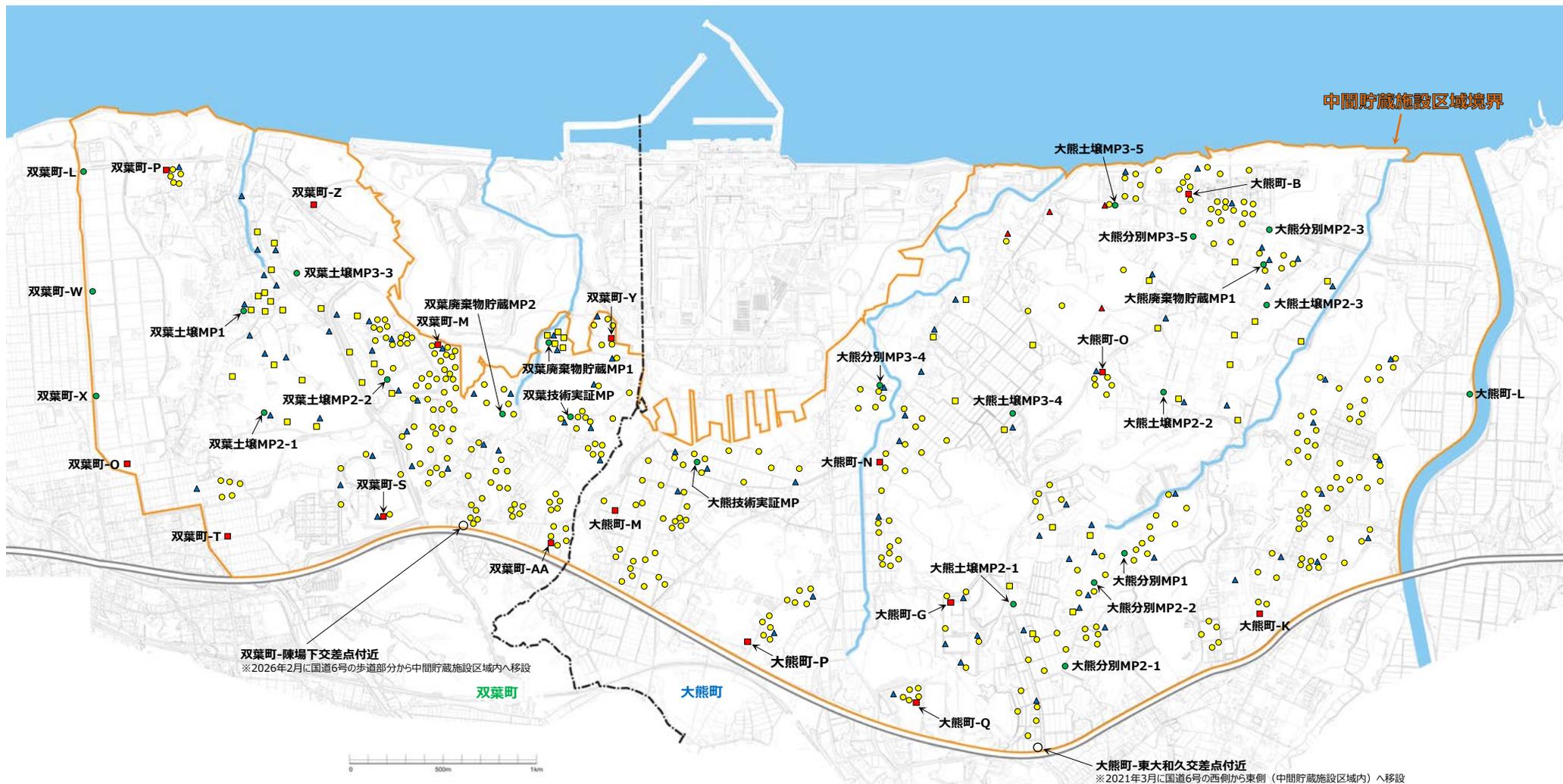
測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m ³ ・N)	
		基準値	測定値
排ガス (仮設焼却第二施設)	2025/9/10	0.1以下	0.00000013
排ガス (仮設灰処理第二施設・1号炉)	2025/9/5	0.1以下	0.00000019
排ガス (仮設灰処理第二施設・2号炉)	2025/9/7	0.1以下	0

焼却灰・生成物・ばいじん中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)	
		基準値	測定値
焼却灰 (仮設焼却第二施設)	2025/9/10	—	0
生成物 (仮設灰処理第二施設)	2025/9/5	0.25	0.00000018
ばいじん (仮設焼却第二施設)	2025/9/10	—	0.0022
ばいじん (仮設灰処理第二施設)	2025/9/5	—	0.053

中間貯蔵施設区域におけるモニタリング結果

中間貯蔵施設区域における放射線モニタリング位置図



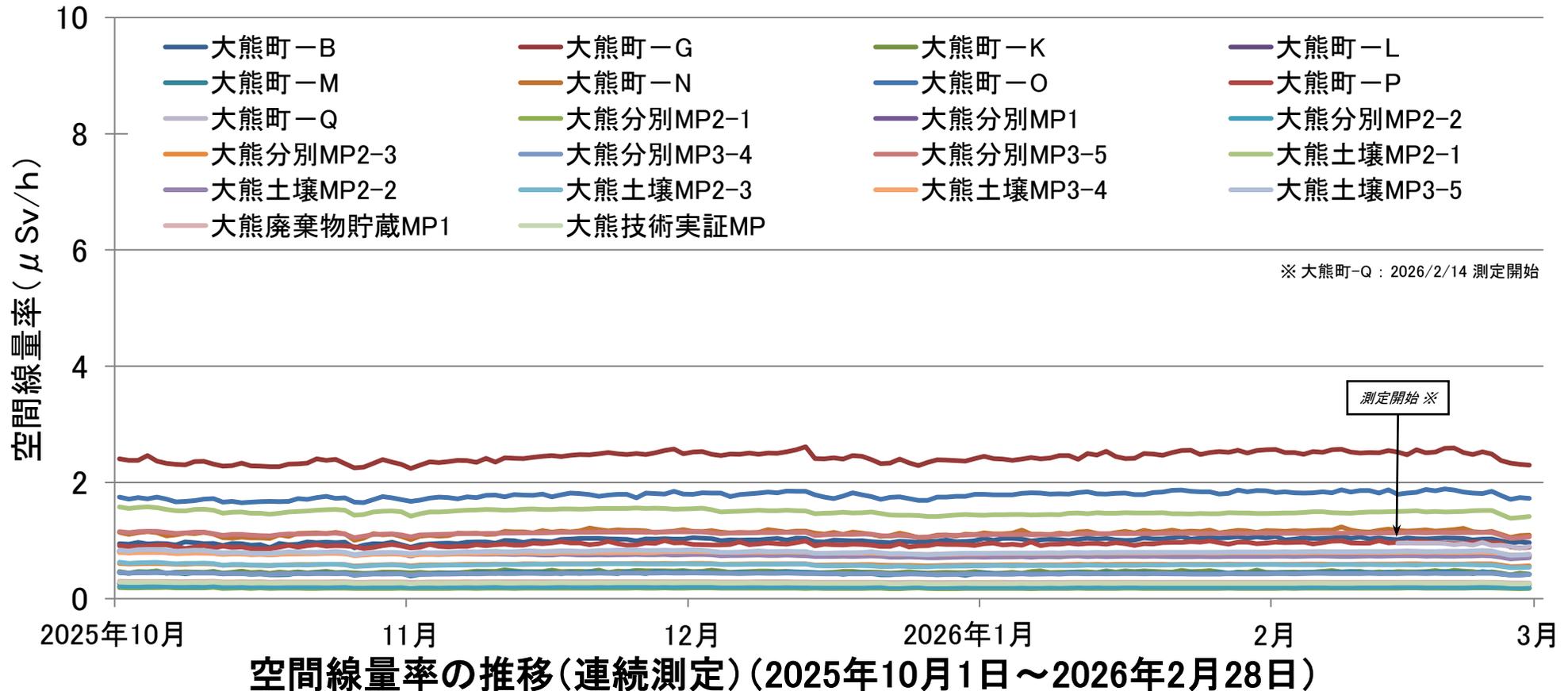
【凡例】

- 空間線量率測定地点 (リアルタイムデータ自動送信)
- 空間線量率測定地点 (連続測定週次データ回収)
- 空間線量率測定地点 (週次測定)
- 空間線量率測定地点 (月次測定)
- ▲ 地下水中放射能濃度測定地点 (月次測定)
- ▲ 地下水中放射能濃度測定地点 (週次測定)
- 大気中放射能濃度、空間線量率測定地点 (リアルタイムデータ自動送信)



空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（大熊町）

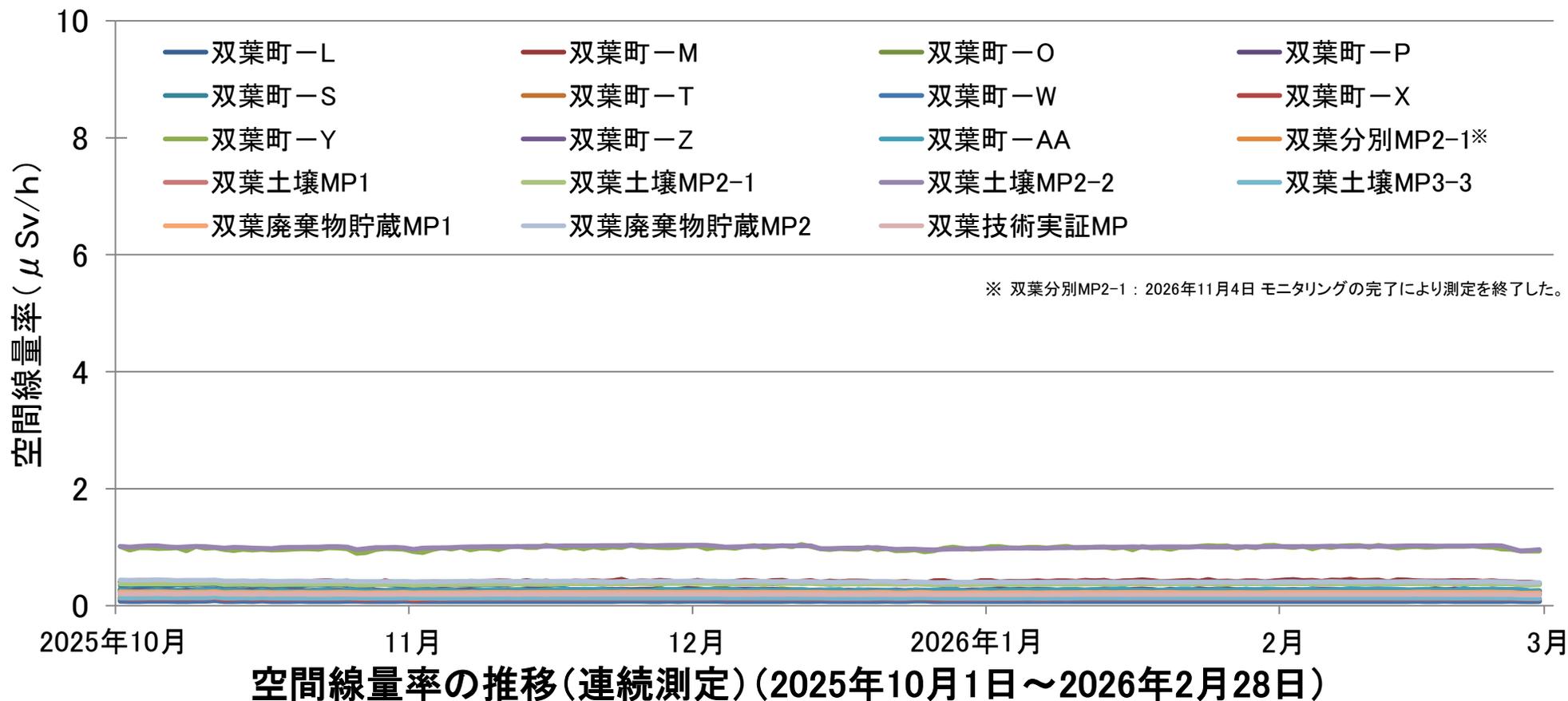
- モニタリングの地点数：連続測定22箇所、週次測定240箇所で行っている。
- モニタリングの結果：空間線量率は0.20～5.14 $\mu\text{Sv/h}$ の範囲であり、降雨等による変動が見られたが、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び除去土壌等を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。また、解体作業を実施している施設や除去土壌の貯蔵作業が完了した施設においても周辺への影響は見られなかった。



○ 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（双葉町）

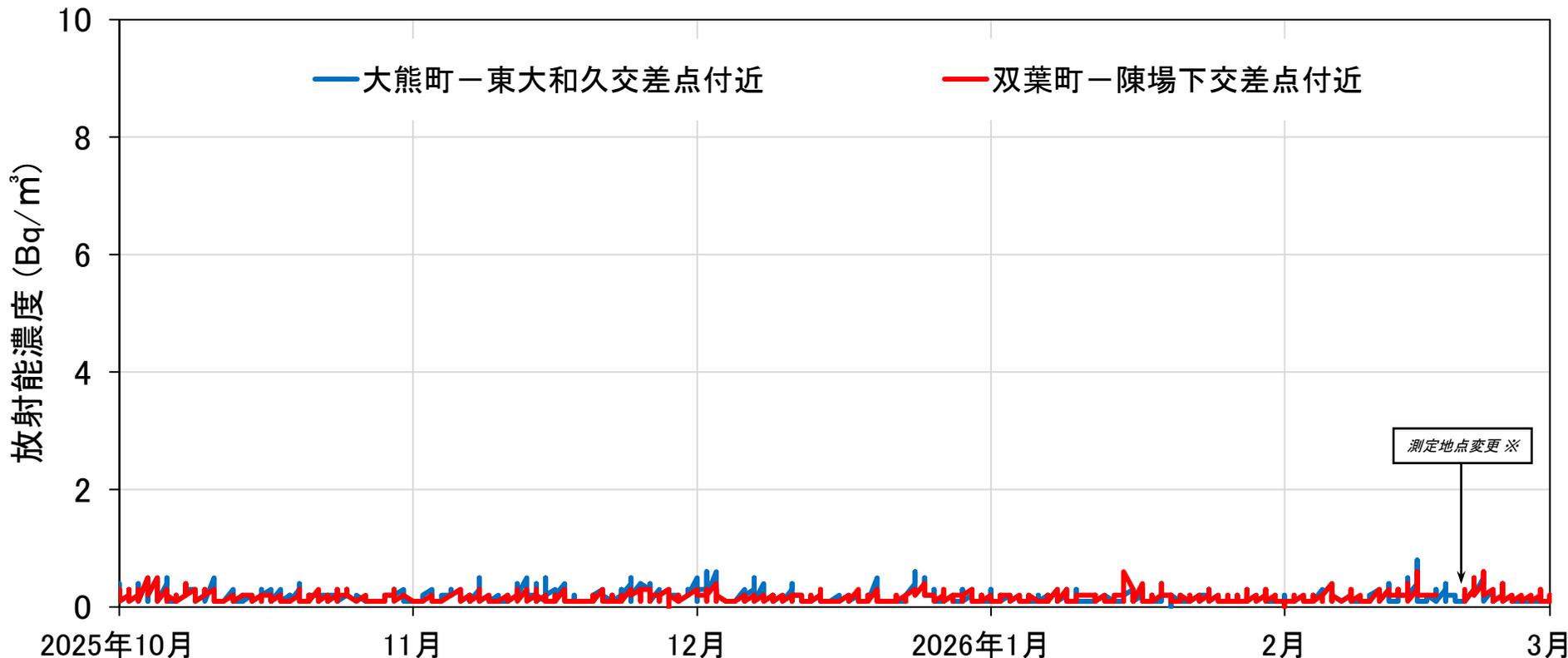
- モニタリングの地点数：連続測定19箇所、週次測定148箇所です空間線量率の測定を行っている。
- モニタリングの結果：空間線量率は0.12～4.33 $\mu\text{Sv/h}$ の範囲であり、降雨等による変動が見られたが、除去土壌等の保管・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵による周辺への影響は見られなかった。また、除去土壌の貯蔵作業が完了した施設においても周辺への影響は見られなかった。



○ 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。

中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度の測定結果

- 区域境界における大気中放射能濃度は全て検出下限値未満であることを確認した(測定頻度:週1回)。
※検出下限値は数万分の $1\text{Bq}/\text{m}^3$ 程度、濃度限度はセシウム134濃度/20+セシウム137濃度/30 \leq 1
- 放射能濃度の変化をより迅速に把握するため、 β 線の放射能濃度をリアルタイムに監視している。
連続測定結果は下図のとおりであり、通常の変動の範囲内で推移している。



中間貯蔵施設区域境界における大気中の β 線の放射能濃度(連続測定)
(2025年10月1日～2026年2月28日)

※陳場下交差点付近：2026年2月17日～20日(うち、2月17日及び20日は一部時間帯)のリアルタイムデータについては、装置の移設を行ったため欠測となりました。
なお、装置の移設に際しては、同一型式の測定装置を用いて採取した試料(2月17日～19日 10時～15時)を測定し、いずれも検出下限値未満であることを確認しています。

中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の測定結果（連続測定）

○ 区域境界における空間線量率は下図のとおりであり、降雨等による変動が見られたが、通常の変動の範囲内で推移している。



中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の推移（連続測定）
（2025年10月1日～2026年2月28日）

輸送路における放射線量率の測定結果

輸送路における放射線量率の測定地点

○ 輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

○ 輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

測定地点	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの[台] ^{※1}	(参考) 当該地点の空間線量率 [μ Sv/h]	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [μ Sv/h] ^{※2}	線量率の増加が観測された時間 (累積) [分] ^{※2}	追加被ばく線量 (累積) [μ Sv]
①南相馬IC	0	0	0.10	—	—	—
②浪江IC ^{※3}	221	10	0.21	—	1.3	0.0006
③大熊IC	22	0	0.17	—	—	—
④常磐双葉IC	2053	70	0.66	0.02	27	0.007

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値+標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

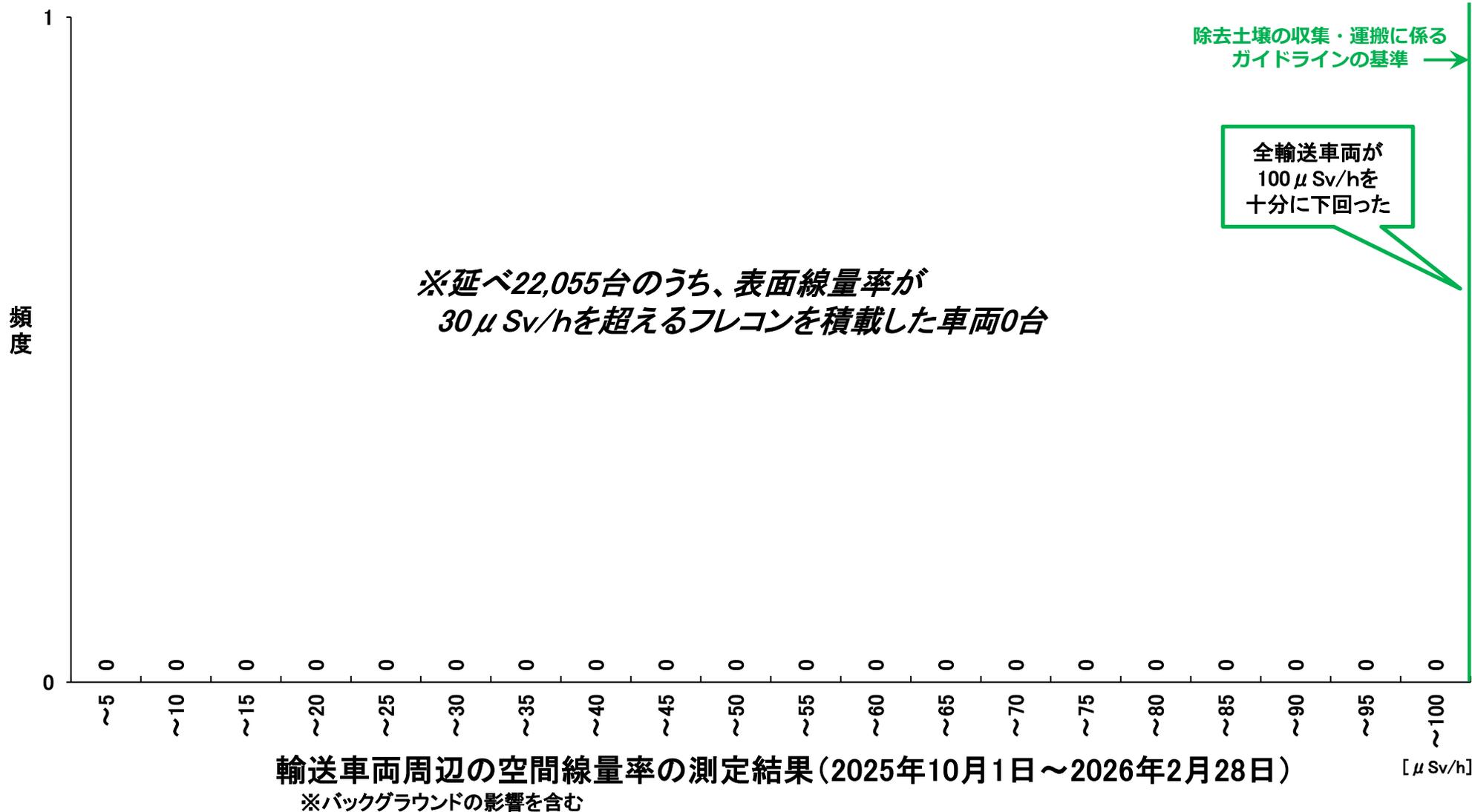
※3 ICにおける降車と乗車の輸送車両を対象としている。

輸送路における放射線量率の測定結果(2025年10月～2026年2月)

輸送車両のモニタリング結果

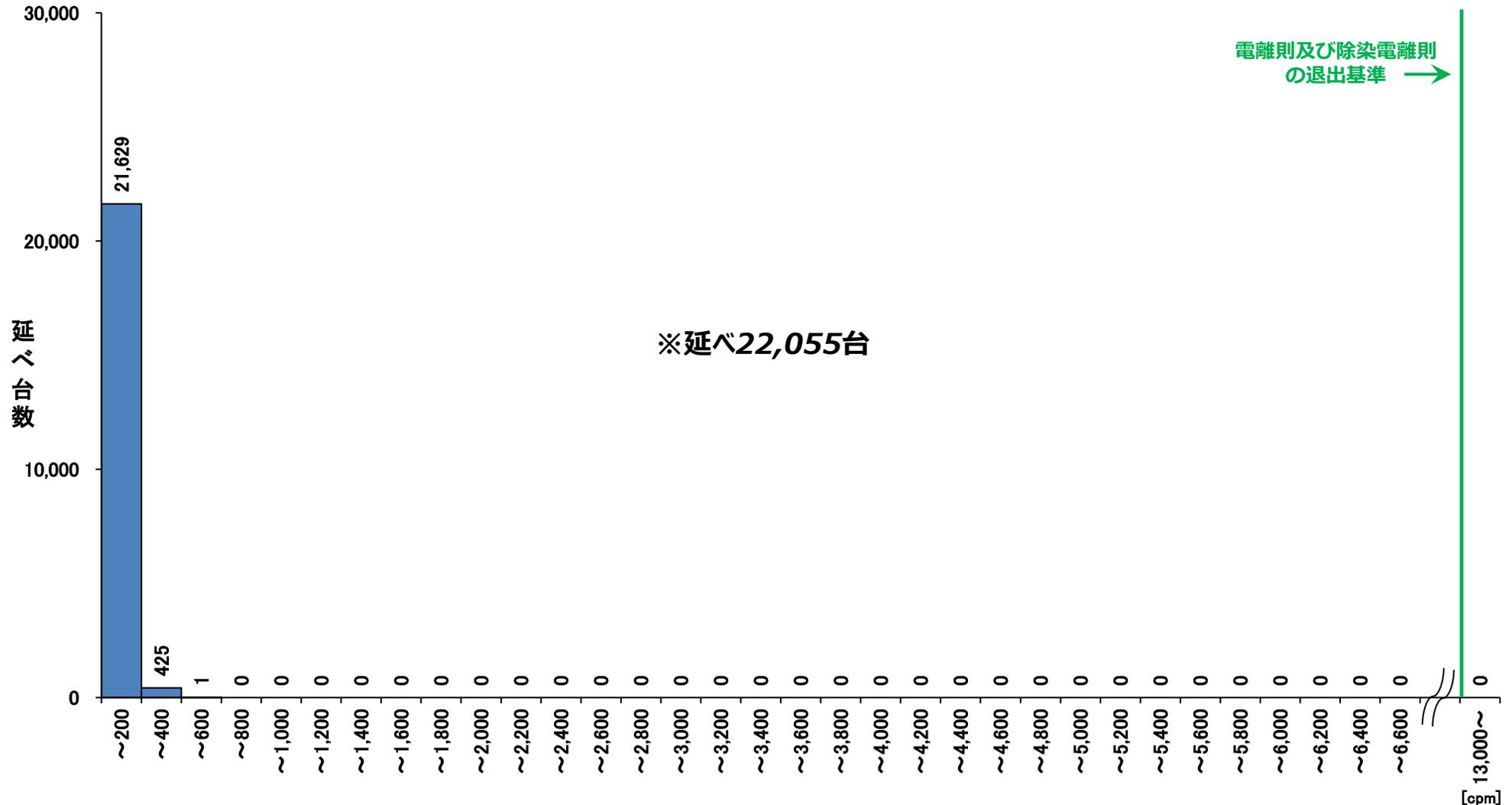
仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率の測定結果

- 仮置場からの搬出時に、表面線量率が $30 \mu\text{Sv/h}$ を超えるフレコンを積載した車両について、前後左右1メートル離れた地点で空間線量率を測定し、積載した除去土壌等による周辺への放射線の影響を確認する。



中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度の測定結果

○ 中間貯蔵施設からの退出時に、除去土壌等を荷下ろした輸送車両の汚染検査（スクリーニング）を行い、電離則及び除染電離則に定められた基準を超えていないことを確認している。



輸送車両のスクリーニング時の最大の表面汚染密度の分布（2025年10月1日～2026年2月28日）

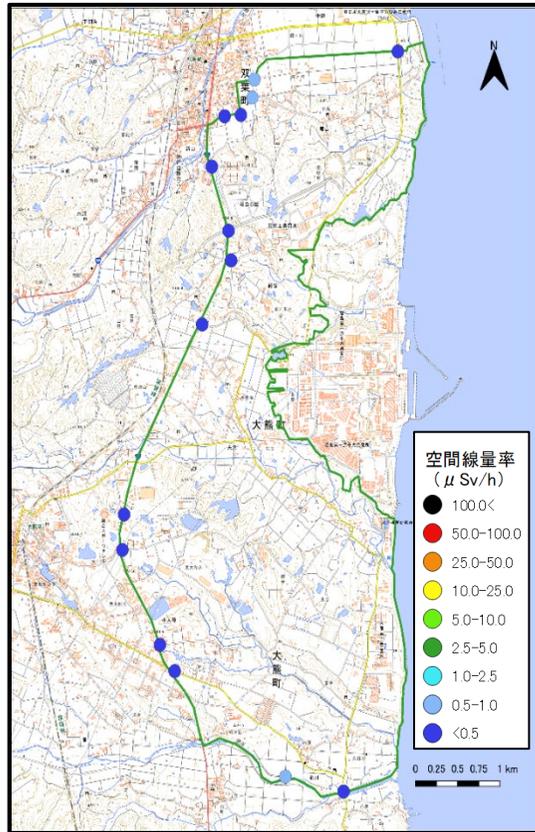
※表面汚染密度の値はバックグラウンドを含むグロス値

中間貯蔵施設区域境界(ゲート付近等)の モニタリング結果

中間貯蔵施設における区域境界（ゲート付近等）のモニタリングの実施について

- 特定復興再生拠点の避難指示解除を踏まえ、中間貯蔵施設区域の安全に係る情報提供として、中間貯蔵施設区域境界(ゲート付近等)の地表面のモニタリング(空間線量率及び表面汚染密度の測定)を実施している。
- 2025年12月の測定結果は以下のとおり。当該データはJESCOホームページにて公表している。

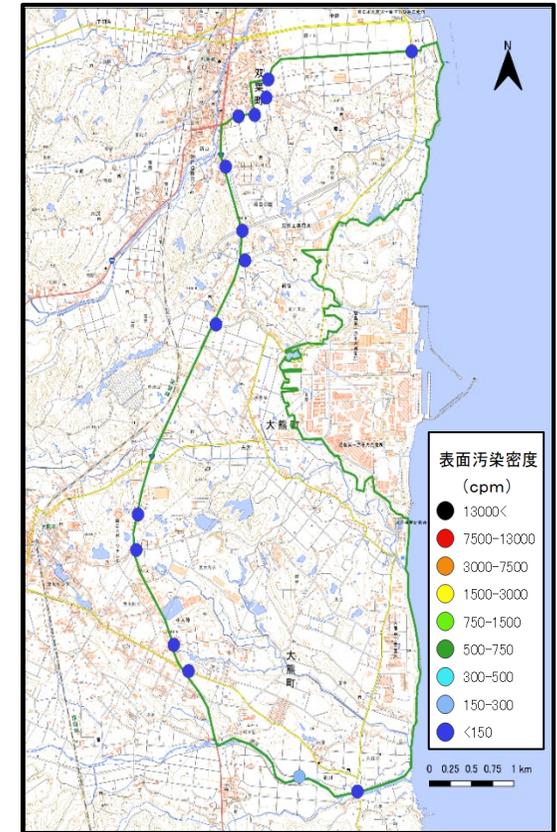
空間線量率 (at 1m)



空間線量率 (表面)



表面汚染密度 (計数率)

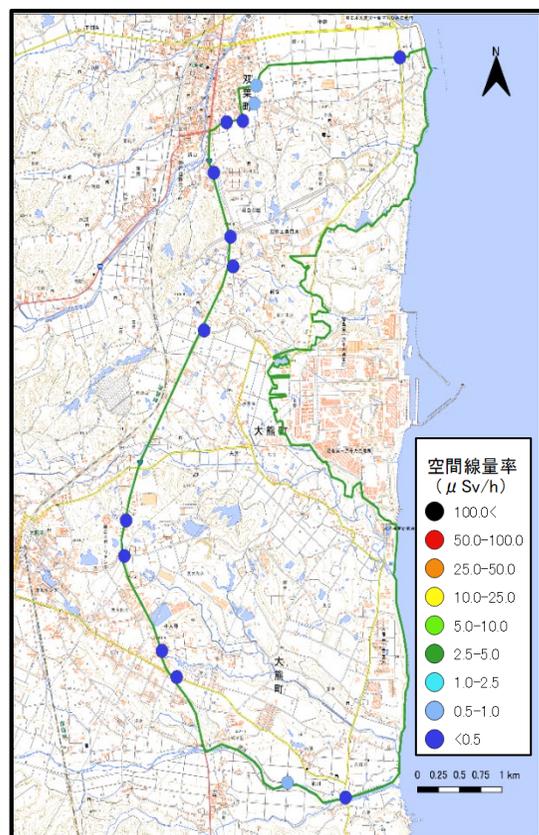


□ 中間貯蔵施設区域

中間貯蔵施設における区域境界（ゲート付近等）のモニタリングの実施について

- 特定復興再生拠点の避難指示解除を踏まえ、中間貯蔵施設区域の安全に係る情報提供として、中間貯蔵施設区域境界(ゲート付近等)の地表面のモニタリング(空間線量率及び表面汚染密度の測定)を実施している。
- 2026年3月の測定結果は以下のとおり。当該データはJESCOホームページにて公表している。

空間線量率 (at 1m)



空間線量率 (表面)



表面汚染密度 (計数率)



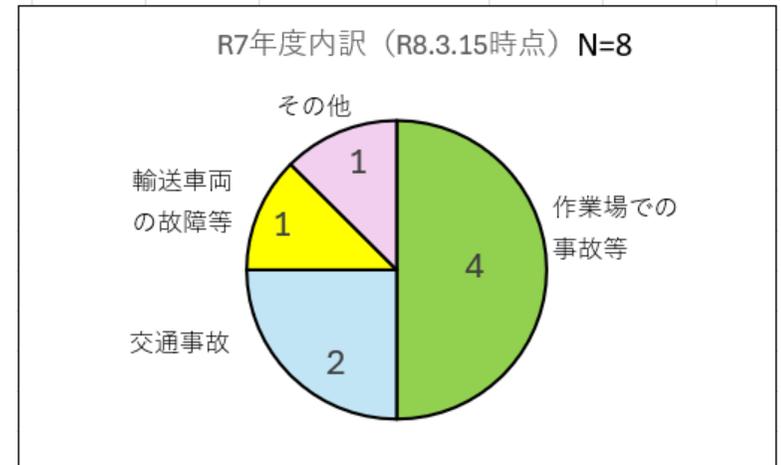
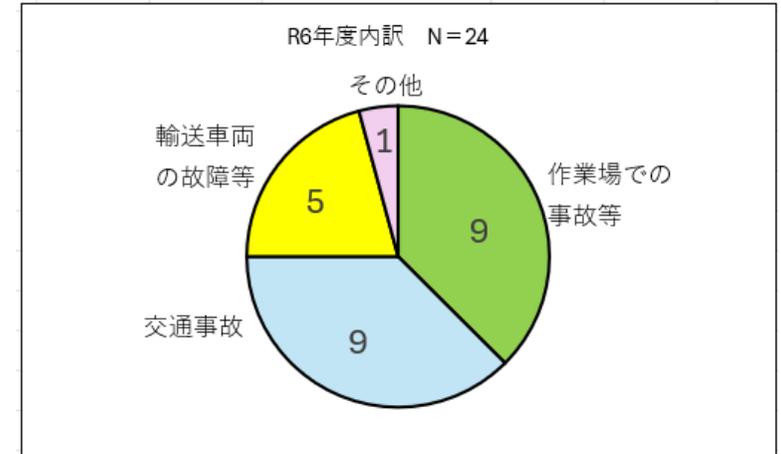
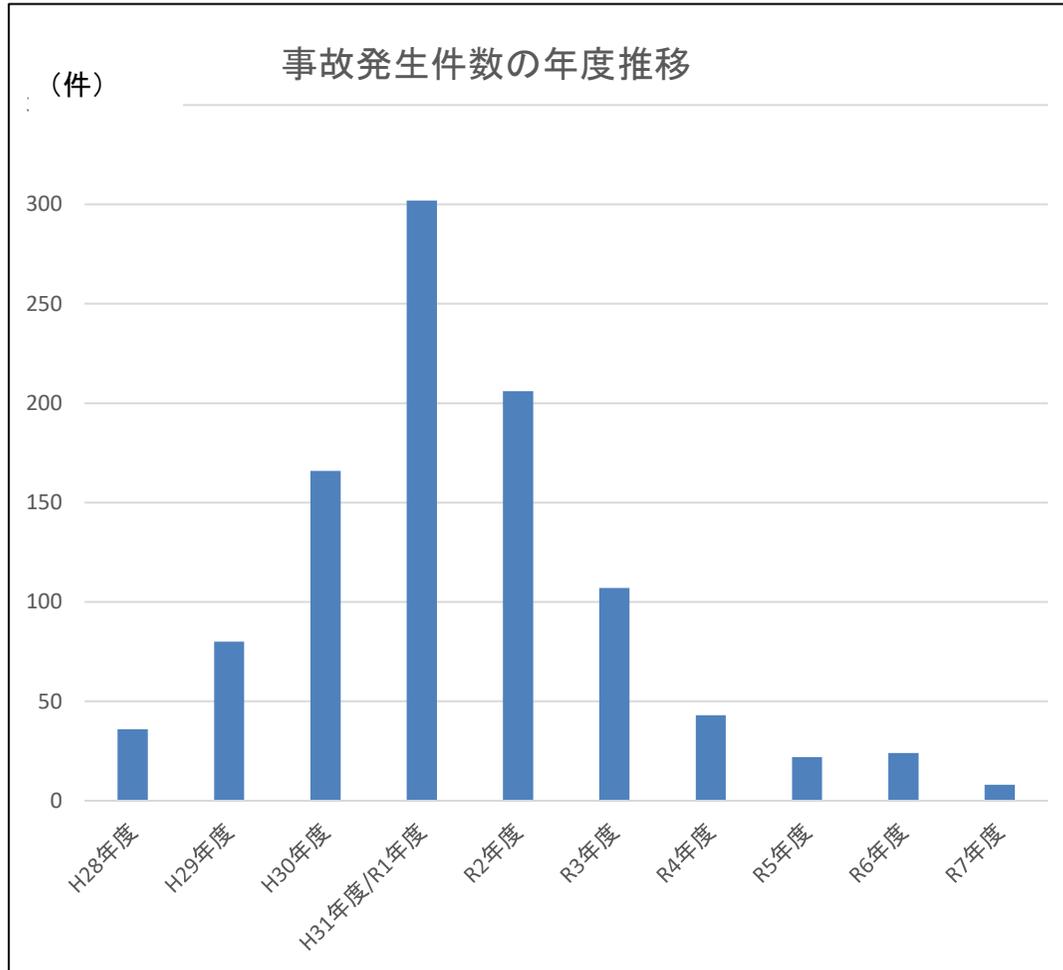
□ 中間貯蔵施設区域

中間貯蔵施設事業において
発生した事故事例と対応等について
(2025年11月環境安全委員会報告以降)

2026年3月

環境省

事故発生件数の推移等



死亡災害・重大事故ゼロ！

～安全に対する意識を高く持ち、基本に忠実な安全行動の徹底～

事故防止重点事項と対策

- (1) 重機・機械に係わる事故の防止
 - ・基本ルール（退避・合図・手順）の徹底と予定外作業の禁止。
 - ・架空線チェックシートによるリスク洗い出しと対策の徹底。
 - ・正しい機械・工具の使い方と安全装備。
- (2) 墜落・転落、転倒事故の防止
 - ・作業手順の整備・改善と安全装備の適切な使用
 - ・日々のKY活動と現場での注意喚起。
- (3) 運搬、荷役作業に係わる事故の防止
 - ・車両機構の点検整備と早めの修理
 - ・積込み時と荷下ろし時双方で荷姿のチェックと手順の周知。
- (4) 輸送車両の安全走行と漏水防止対策の徹底
 - ・健康管理・運行前点検の確実な実施と安全運転の指導継続。
 - ・漏水防止フローに基づく対策の徹底。
- (5) 業務車両及び通勤時の交通事故削減
 - ・事件事例の周知と繰り返しの教育・指導実施。事前の注意喚起。
- (6) 相談・報告しやすい職場・環境づくり
 - ・初動対応マニュアルの更新・展開と報告しやすい職場づくりへの工夫。

事業において発生した事件事例と対応等

	【事例の内容】 ↓	【主な発生要因】 ↓	【主な再発防止策】 ↓
交通事故	該当事例無し		
輸送車両の故障等	該当事例無し		
作業場での事故等	作業員が階段を降りる際にバランスを崩し転倒を避けるためにジャンプし着地した際に、踵を骨折	<ul style="list-style-type: none"> とび工である被災者は階段昇降に慣れており足下への注意を疎かにした。 蹴上が一般的な階段よりも大きく22cmあり昇降リズムが一般的な階段と違っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地KYの強化（全員がリスクの洗い出し） 階段を降りる際は手摺を持つように徹底
その他	該当事例無し		

作業場での事故等（足の骨折）

事例の概要

作業員が階段を降りる際にバランスを崩し転倒を避けるためにジャンプし着地した際に、骨折
2026年3月12日 14時20分頃 <株丸東>
被災者は解体家屋の建屋外階段を降りている途中でバランスを崩し転倒しそうになったことから、転倒を回避するためジャンプを試みコンクリート土間に着地した際に踵を骨折した。

発生要因

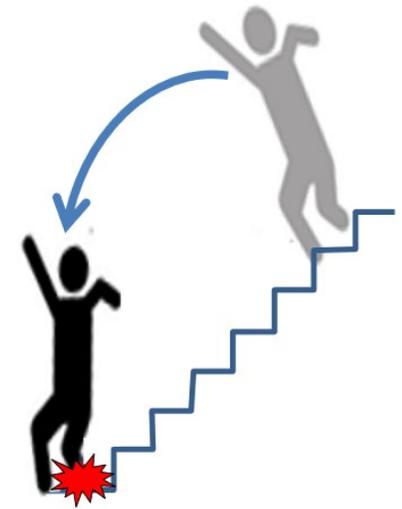
- ・とび工である被災者は階段昇降に慣れており足下への注意を疎かにした。
- ・蹴上が一般的な階段よりも大きく22cmあり昇降リズムが一般的な階段と違っていた。

再発防止策

- ・現地KYの強化（全員がリスクの洗い出し）
- ・階段を降りる際は手摺を持つように徹底



【災害発生場所：解体家屋】



【災害再現写真・図】

「伝えるべきときに しっかり伝わるよう 伝える」

- 「令和7年度中間貯蔵施設工事事故防止目標及び重点対策」を定例会議の都度（毎月2回以上）、繰り返し伝達、確認。
- 事故発生情報を速報で周知。類似事故防止を呼びかけ。
- 過去の事例に基づく重要な教訓、反省を集約した「場面別 再発防止チェックシート」を作成。日々の作業場面に応じた類似事故防止対策を下支え。
- 工事の進捗、季節気象に応じた声かけ、注意喚起を、発注者から積極的に実施。

安全対策について②（作業員安全研修）

作業員研修

2022年度より、仮置場を含めて中間貯蔵施設工事に携わる全ての作業員を対象に安全研修を実施。
2025年度は2月末までに14回開催、計534名が受講。

<主な内容>

- ルール遵守の重要性・発生事故事例を基に再発防止に重要となるポイントを周知。
- 通勤・帰宅時の交通事故の状況と交通安全の指導・教育を実施。
- 中間貯蔵施設事業は、地域の多大なご協力の下に実施されていることをあらためて説明。
- 本事業において発生した事故等の状況を説明し、労働災害含む危険予知の気付きを促す教育を実施。



作業員安全研修

安全対策について③（運転者研修）

新任運転者研修

輸送車両の運転者及び受注者職員等を対象に、中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修を実施。2025年度は2月末までに2回開催。

＜主な内容＞

- 福島県警察本部からの県内の交通事情、高速道路での交通安全対策、事故時の対応等について指導。
- 環境省から緊急時の対応に関するマニュアルの周知を行い、緊急時の迅速な通報・連絡訓練を実施。

現任運転者研修

輸送に従事している全ての運転者が毎年度の再研修として受講。2025年度は2月末までに6回開催。

＜主な内容＞

- 中間貯蔵施設工事・輸送は地域の多大なご協力の下に実施される事業であることについて、地元の方々から寄せられているご意見も含めて改めて説明。
- 中間貯蔵施設工事・輸送において発生している事故等の状況を説明。
- 自らの運転の自己評価や危険予知の気付きを促す教育を実施。



新任運転者研修



現任運転者研修

安全対策について④（協議会）

中間貯蔵工事等協議会

労働安全衛生・公衆災害・交通安全の情報交換と安全施工の向上を目的に2015年12月より開催。重大事故等の発生要因及び再発防止策等の共有と、安全課題に対するテーマを決め定期的に意見交換を行い、各現場における安全対策の強化・改善につなげている。

・2025年度は対面、Webにより8回開催した。至近の対面開催である10月14日には容器残さ分別処理工事に伴う安全対策及び保管容器の定置作業について意見交換を行った。

労働災害防止協議会

福島県労働局及び富岡労働基準監督署の指導により、中間貯蔵施設工事の安全管理の更なる向上を目的に、2020年9月より開催。

・2025年度は対面、Webにより8回開催した。至近の対面開催である10月14日には、令和7年度労働災害発生状況の説明と労働安全施策の確認を行った。



10月14日 中間貯蔵工事等協議会



10月14日 労働災害防止協議会

安全対策について⑤（安全パトロール）

受注者と環境省職員による合同パトロール

受注者と環境省職員による合同の安全パトロールを定期的を実施。

- ・ 2025年度は7月8日、10月14日に実施した。10月14日のパトロールは容器残さ分別処理工事と保管容器の定置作業実施時の安全対策を重点的に実施した。

労働安全コンサルタントによるパトロール

通常の巡回パトロールとは別に、環境省職員と労働安全コンサルタントによる安全パトロールを実施。

- ・ 2025年度は新規受注者や過去に発生した事故の現場等を対象に年間10回、現場の安全衛生管理状況の確認と指導を行っている。

走行状況のパトロール

速度超過や交通安全に注意すべき箇所等において、輸送車両等の（帰投時を含む）走行状況を確認。

- ・ 2025年度は富岡町、大熊町、浪江町において実施した。



受注者と環境省職員による
合同パトロール



労働安全コンサルタントによる
パトロール



走行状況のパトロール

安全対策について⑤ (優良ドライバー表彰)

優良ドライバー表彰

運転手の安全意識とモチベーションの維持・向上のため、安全な輸送を100日以上行った者に、受注者を通じて優良ドライバー認定証(ヘルメット及び車両ダッシュボードに掲示)を交付することとしている。

※R7年度現時点においては連続100日の工期がある事業者がおらず、該当者はなし。



金: 300日以上



銀: 200日以上300日未満



銅: 100日以上200日未満

優良ドライバー認定証
(安全輸送の継続日数ごとに3種類)



認定証の交付



中間貯蔵施設による 環境への影響の予測・評価について

- 令和7～10年度中間貯蔵大熊地区受入分別処理・貯蔵工事
- 令和7～10年度中間貯蔵双葉地区受入分別処理・貯蔵工事

2026年3月
環境省

本資料の位置付けと構成

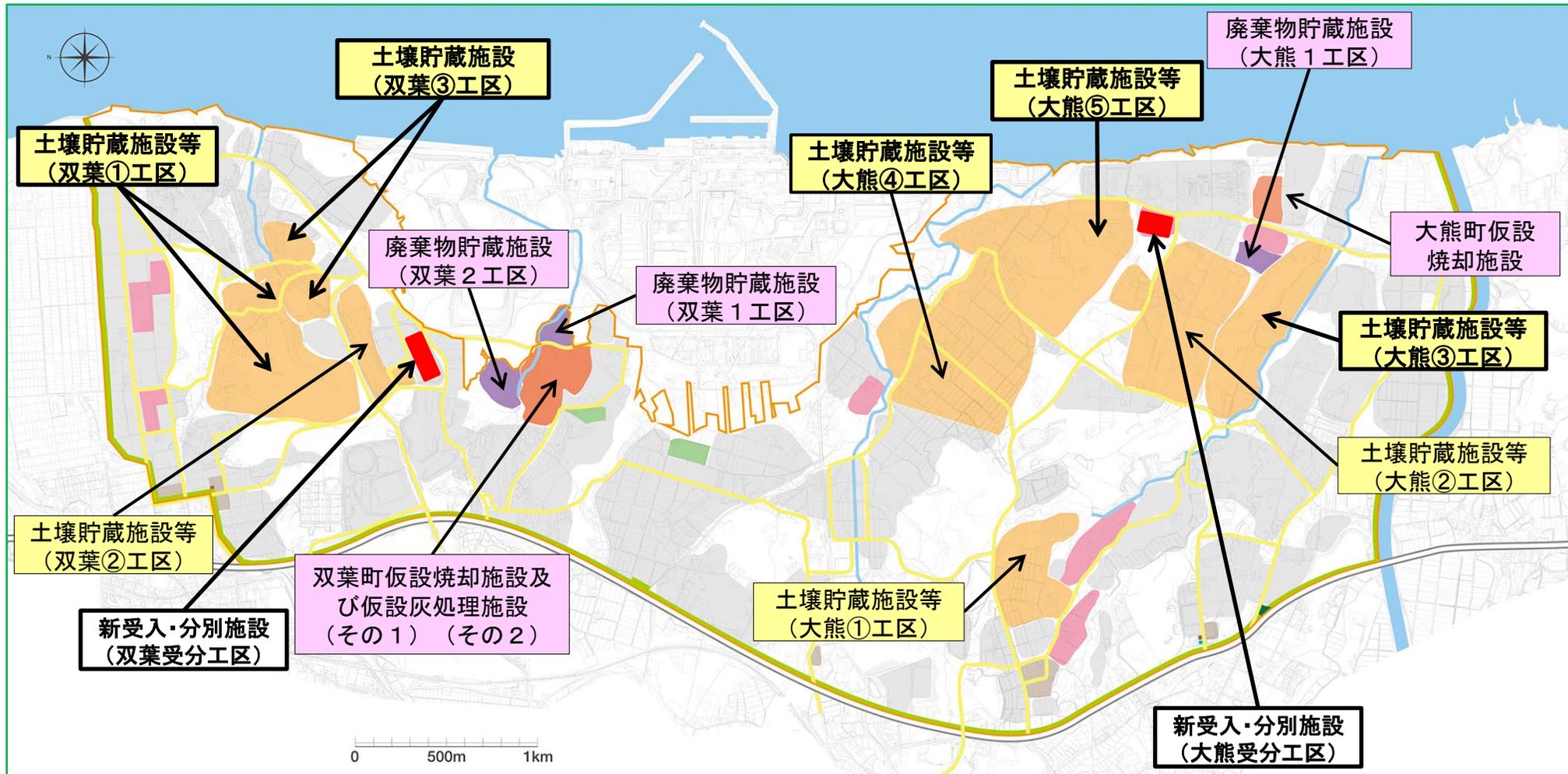
本資料の位置付け

中間貯蔵施設については、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法に基づく基本方針」に基づき、当該施設による環境影響の評価等を行い、その結果に応じた適切な環境保全措置を講ずることとしています。本資料は、2025年度以降に整備される施設を含む、現時点での中間貯蔵施設事業全体の環境影響の予測・評価を行った結果を取りまとめたものです。

<本資料の構成>

中間貯蔵施設区域内の施設位置	2
主要な施設の概要	3
2025年度以降の施設の整備	4
予測・評価の前提とした環境保全対策	6
予測・評価の方法	8
予測・評価結果	11
まとめ	22

中間貯蔵施設区域内の施設配置



主要な施設の概要：受入・分別施設及び土壌貯蔵施設

【受入・分別施設及び土壌貯蔵施設工事の概要】

工事件名	令和7～10年度中間貯蔵大熊地区 受入分別処理・貯蔵工事			令和7～10年度中間貯蔵双葉地区 受入分別処理・貯蔵工事	
	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉③工区	大熊③工区	双葉①工区
概要	既設テントを活用した受入・分別施設および土壌貯蔵施設を整備するとともに、整備後は土壌の受入・分別処理、土壌貯蔵施設への埋立てを行う。			受入・分別施設および土壌貯蔵施設を整備するとともに、整備後は土壌の受入・分別処理、土壌貯蔵施設への埋立てを行う。	
受入・分別要求処理能	100袋/時以上			100袋/時以上	
受注者	清水・竹中土木・東洋特定建設工事共同企業体			大林・大本・西武特定建設工事共同企業体	
工期 ※継続工事あり	令和7年9月～令和11年3月			令和7年9月～令和11年3月	

【土壌貯蔵施設の概要】

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
貯蔵容量※1	約103万m ³	約297万m ³ ※2	約167万m ³ ※2,3	約180万m ³	約269万m ³ ※2,3	約105万m ³ ※2,3	約85万m ³	約77万m ³ ※2,3
貯蔵量※1	約103万m ³	約289万m ³	約167万m ³	約171万m ³	約221万m ³	約102万m ³	約85万m ³	約63万m ³
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 貯蔵開始 2023年1月 貯蔵完了	2017年10月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2018年10月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2020年3月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2019年4月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2017年12月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2019年5月 貯蔵開始 2022年9月 貯蔵完了	2019年12月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)

※1 貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース(1袋=1m³で換算)であり締め固め前。

※2 今後、必要に応じ堰堤を造成し、容量を増やす予定の工区。

※3 ※2のうち現行工事において堰堤の造成を行う工区。

2025年度以降の施設の整備内容:受入分別処理・貯蔵工事 ①

施設の整備内容(予測・評価時)

【処理対象物】

仮置場及び保管場に保管されている土壌等（土類、小石、砂利等）

【設置する施設】

・ 受入・分別施設

主要設備：荷下ろし設備、破袋設備、一次分別設備、二次分別設備、濃度分別設備及び計量設備

・ 土壌貯蔵施設

主要設備：堰堤、遮水工及び浸出水処理施設

・ 主な施設諸元

		項目	大熊地区	双葉地区
受入・分別施設		処理能力	100袋/h以上	100袋/h以上
		建屋仕様	鉄骨支持膜構造	鉄骨支持膜構造
土壌貯蔵施設	施設の構造		遮水工：二重の遮水シート	遮水工：二重の遮水シート
	貯蔵予定量	高濃度	双葉3工区東側区画 14.4万m ³ 大熊4工区C区画 5.6万m ³	双葉1工区拡張北区画 14.9万m ³ 双葉1工区拡張南区画 8.9万m ³
		低濃度	大熊5工区J区画 22.0万m ³ 大熊5工区K1区画 6.6万m ³	大熊3工区拡張②区画 22.0万m ³

【スケジュール】

	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度～
大熊地区	発注公告	調査・設計・建設 (約1年4か月)	運転・貯蔵等	
双葉地区	発注公告	調査・設計・建設 (約1年6か月)	運転・貯蔵等	

【浸出水処理施設】

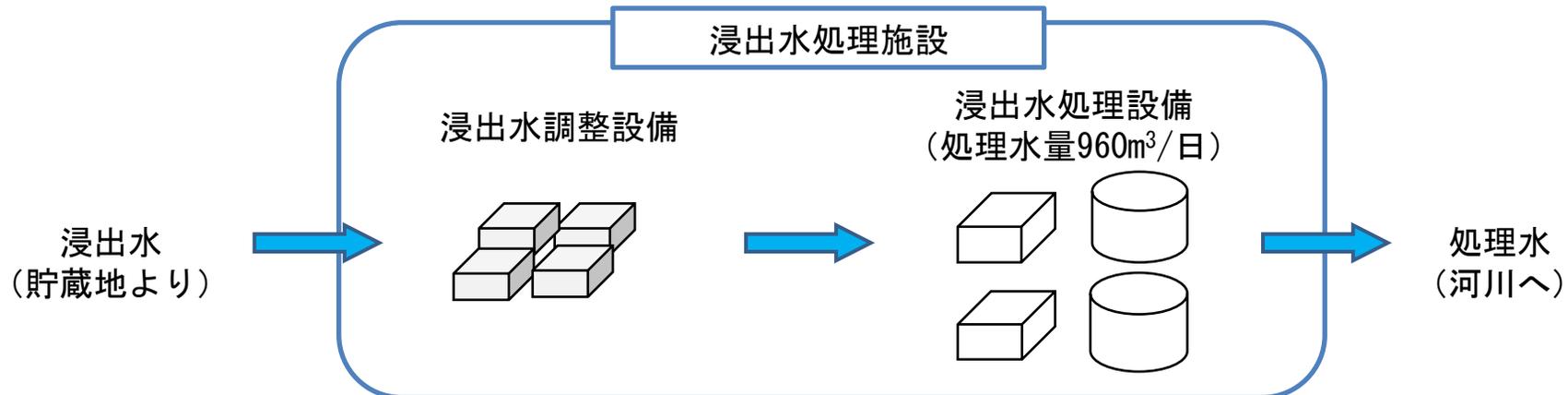
- 双葉1工区、双葉3工区、大熊3工区及び大熊5工区については既設の浸出水処理設備を解体・新設し、大熊4工区については既設の浸出水処理設備を使用します。
- 各工区で、浸出水調整設備及び浸出水処理設備（処理水量960m³/日）の運転・維持を行います。

浸出水調整設備

- 浸出水調整設備は、既存設備（鋼製タンク、鉄筋コンクリート造）を使用します。

浸出水処理設備

- 浸出水処理設備は、維持管理・故障時の対応等を考慮して2系列を設置します。（合計処理水量960m³/日）
- 水処理方法は、凝集沈殿処理及び砂ろ過処理とします。
- 処理水を濁度計及びNaIシンチレータにより連続測定します。



予測・評価の前提とした環境保全対策①

大気質

- 排出ガス対策型建設機械の導入
- 粉じん対策として散水等を実施
- 効率的な車両の運行
- 分別後の除去土壌の運搬に、粉じん対策を施したベルトコンベアを導入

騒音・振動

- 低騒音型及び低振動型の機械の積極的な使用
- 効率的な車両の運行

水質・底質

- 浸出水処理施設の適切な管理

動物・植物

- 動物・植物の生息・生育状況から、保全対策の必要性を検討

放射線の量

- 工事用地内の線量低減措置の実施
- 必要な離隔の確保

【受入・分別施設】

- 屋根・壁等を有する施設内での破袋・分別作業の実施
- 破袋・分別作業範囲の床を液体が浸透しにくい構造で仕上げ
- 施設における二重扉、集じん機の設置及び施設の負圧管理

【土壌貯蔵施設】

- 遮水工の実施
- 保有水等の集排水、浸出水の適切な処理
- 除去土壌の飛散防止のための散水等の実施
- 運搬車両の荷台のシート掛け、除去土壌等の上を走行するルートにおける敷き鉄板等の設置
- 分別後の除去土壌の運搬に、粉じん対策を施したベルトコンベアを導入
- 覆土厚さ50cm以上の被覆工（キャッピング工）の実施

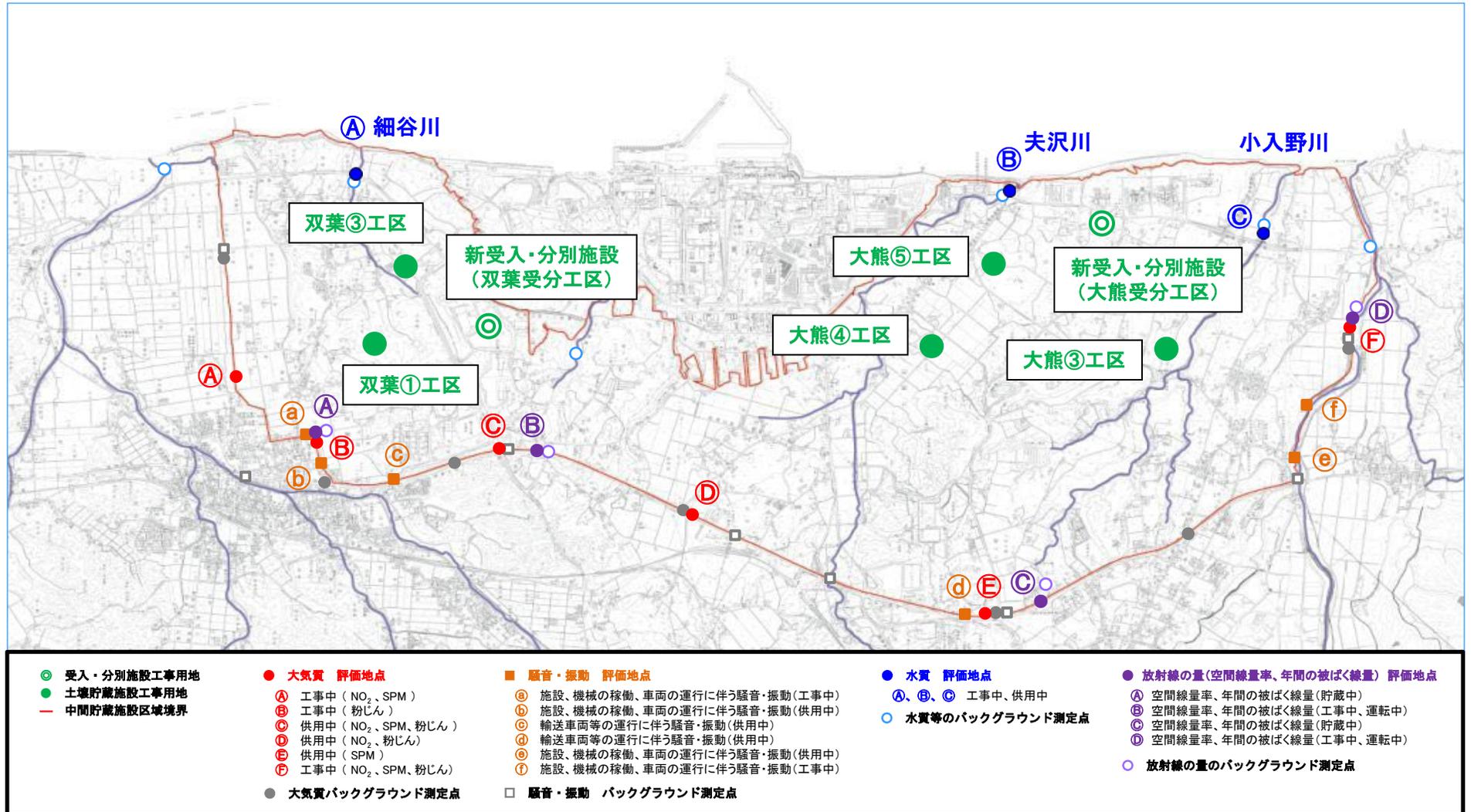
予測・評価の方法:概要

- 2025年度以降に整備される受入・分別施設、土壌貯蔵施設及び浸出水処理施設の工事内容・施設の諸元を基に、環境への影響を検討する項目を選定しました。(項目はP9)
- P6-7の環境保全対策の実施を前提として、環境への影響を予測・評価しました。
- 予測・評価時期については、2025年度以降で、工事中及び供用中の寄与量がそれぞれの項目で最大となる時期を基本としました。
- 予測・評価地点については、上記の予測・評価時期において各項目の寄与量が、工事中及び供用中それぞれで最大となる場所を基本としました。詳細はP10のとおりです。
- 予測・評価結果は、P11以降に示すとおりです。バックグラウンド値は、2024年度の実測値を基本としました。予測結果は、施設諸元から算定した評価時期の寄与量と、予測・評価地点にできるだけ近い調査地点でのバックグラウンド値を合計し算出することを基本としました。
- 以上の考え方は大気質、騒音・振動、水質及び放射線の量で共通としています。

予測・評価の方法：環境への影響を検討する項目

環境要素の区分		影響要因の区分		工事の実施						土地又は工作物の存在及び供用							
				建設機械の稼働	いる車両の運行	資材、機械及び運搬に用事	造成等の施工	土質材の採取の工事	の施工設備及び工事用道路	建設発生土の処理の工事	中間貯蔵施設の存在	貯蔵・覆土用機械の稼働	受入・分別施設の稼働	浸出水処理施設の稼働	運材の大量除去に用いる車両の土質	大量除去土壌等の存在・	浸出水処理水の排出
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として環境への影響が把握されるべき環境要素	大気環境	大気質	窒素酸化物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			硫黄酸化物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			浮遊粒子状物質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			粉じん等 有害物質等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		騒音 振動 悪臭		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
																○	
	水環境	水質(地下水の水質を除く)	水の濁り				○	○	○	○							○
			水の汚れ 有害物質等														○
		底質	有害物質等														○
		地下水の水質及び水位	地下水の水質 地下水の水位 地下水の流れ				○	○	○	○	○	○				○	
	土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				○	○	○	○	○	○					
地盤		地盤及び斜面の安定性				○	○	○	○	○							
土壌		土壌汚染															
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として環境への影響が把握されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	植物	重要な種及び群落				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	生態系	地域を特徴づける生態系	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として環境への影響が把握されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観									○						
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境への負荷の量の程度により環境への影響が把握されるべき環境要素	廃棄物等	廃棄物				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		建設工事に伴う副産物				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	温室効果ガス等	二酸化炭素 メタン	○	○							○				○	○	
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき環境要素	放射線の量		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

予測・評価の方法: 評価地点



大気質、騒音・振動、水質、放射線の量の評価地点

※ 大気質については、中間貯蔵施設区域境界周辺で、“2025年度以降に整備される施設(大熊地区受入分別処理・貯蔵工事及び双葉地区受入分別処理・貯蔵工事)の寄与量が”最大となる場所を評価地点とした。輸送車両等の運行に伴う影響については、幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準が適用される地域のうち2025年度以降に整備される施設の寄与量が最大となる場所を評価地点とした。中間貯蔵施設区域内の機械・施設の稼働及び車両の運行に伴う騒音・振動については、中間貯蔵施設区域境界の北端・南端周辺のうち2025年度以降に整備される施設の寄与量が最大となる場所を評価地点とした。悪臭については、寄与量が最大となる場所を評価地点とした。水質・底質については、施設の下流側にあたるバックグラウンド測定点を評価地点とした。空間線量率及び年間の被ばく線量については、2025年度以降に整備される施設の寄与量が最大となる場所を評価地点とした。

予測・評価結果:大気質①

- 工事中及び供用中の機械の稼働、車両の運行及び施設の稼働に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等を予測しました。

工事中の大気の予測結果

区分	評価地点	バックラウンド値	予測結果
二酸化窒素 (NO ₂) [ppm]	環境基本法に基づく環境基準	0.04~0.06	
	㊤双葉町郡山地区	0.007	0.007
	㊦大熊町熊川地区	0.007	0.007
浮遊粒子状 物質 (SPM) [mg/m ³]	環境基本法に基づく環境基準	0.10	
	㊤双葉町郡山地区	0.040	0.040
	㊦大熊町熊川地区	0.040	0.040
粉じん等 [t/km ² /月]	(参考値) ※1	—	
	㊤双葉町新山地区	3.1	4.8
	㊦大熊町熊川地区	3.9	4.2

※1 粉じん等については、環境基準、規制基準及び県条例に基づく基準は定められていない。
(参考)スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月(出典:「道路環境影響評価の技術手法(国土技術政策総合研究所)」)

予測・評価結果:大気質②

供用中の大気の予測結果

区分	評価地点	バックグラウンド値	予測結果
二酸化窒素 (NO ₂) [ppm]	環境基本法に基づく環境基準	0.04~0.06	
	◎双葉町新山地区	0.007	0.012
	①大熊町夫沢地区	0.007	0.010
浮遊粒子状 物質 (SPM) [mg/m ³]	環境基本法に基づく環境基準	0.10	
	◎双葉町新山地区	0.040	0.041
	⑤大熊町小入野地区	0.040	0.041
粉じん等 [t/km ² /月]	(参考値) ※1	—	
	◎双葉町新山地区	3.8	4.9
	①大熊町夫沢地区	3.8	4.4

※1 粉じん等については、規制基準、環境基準及び県条例に基づく基準は定められていない。

(参考)スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月(出典:「道路環境影響評価の技術手法(国土技術政策総合研究所)」)

評価: 工事中及び供用中において、大気質の予測結果は環境基準等に適合しており、環境保全対策として排出ガス対策型の建設機械の導入、散水等の粉じん対策の実施により、大気質への影響は実行可能な範囲で低減されるものと評価しました。

予測・評価結果：騒音・振動①

- 中間貯蔵施設区域内の工事中及び供用中の機械の稼働、施設の稼働及び車両の運行に伴う騒音・振動を予測しました。

区域内の機械・施設の稼働及び車両の運行に伴う騒音の予測結果(その1)

<工事中>

区分	評価地点	時間区分	予測結果※1
時間率騒音 レベル (L_{A5}) [dB]	福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準	—※2	
	㉑双葉町新山地区	昼間(7:00~19:00)	54
	㉒大熊町熊川地区		50

<供用中>

区分	評価地点	時間区分	予測結果※1
時間率騒音 レベル (L_{A5}) [dB]	福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準	—※3	
	㉓双葉町新山地区	昼間(7:00~19:00)	59
	㉔大熊町小入野地区		56

※1 時間率騒音レベルの予測結果は、2025年度以降に整備される施設の寄与量を示した。

※2 評価地点は、福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく建設作業騒音規制地域に該当しない。

(参考)指定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準： L_{A5} で85dB(7:00~19:00)

※3 評価地点は、福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく騒音指定施設を設置する事業場に接していない。

(参考)騒音指定施設を設置する工場又は事業場が遵守しなければならない基準(第3種区域)： L_{A5} で60dB(昼間7:00~19:00)

予測・評価結果：騒音・振動②

区域内の機械・施設の稼働及び車両の運行に伴う騒音の予測結果(その2)

<工事中>

区分	評価地点	時間区分	バックグラウンド値	予測結果
等価騒音 レベル (L_{Aeq}) [dB]	環境基本法に基づく環境基準		—※1	
	㊸双葉町新山地区	昼間(6:00~22:00)	43	51
	㊹大熊町熊川地区		42	48

<供用中>

区分	評価地点	時間区分	バックグラウンド値	予測結果
等価騒音 レベル (L_{Aeq}) [dB]	環境基本法に基づく環境基準		—※1	
	㊺双葉町新山地区	昼間(6:00~22:00)	43	54
	㊻大熊町小入野地区		42	51

※1 大熊町と双葉町は、環境基準の類型を当てはめる地域を有していない。
 (参考)C類型の環境基準(道路に面する地域以外の地域)： L_{Aeq} で60dB(昼間6:00~22:00)

予測・評価結果：騒音・振動③

区域内の機械・施設の稼働及び車両の運行に伴う振動の予測結果

<工事中>

区分	評価地点	時間区分	予測結果※1
時間率振動 レベル (L ₁₀) [dB]	福島県振動防止対策指針に基づく基準		—※2
	㉓双葉町新山地区	昼間(7:00~19:00)	30未満
	㉔大熊町熊川地区		30未満

<供用中>

区分	評価地点	時間区分	予測結果※1
時間率振動 レベル (L ₁₀) [dB]	福島県振動防止対策指針に基づく基準		—※3
	㉕双葉町新山地区	昼間(7:00~19:00)	30未満
	㉖大熊町小入野地区		30未満

※1 時間率振動レベルの予測結果は、2025年度以降に整備される施設の寄与量を示した。

※2 評価地点は、福島県振動防止対策指針が適用される建設作業騒音規制地域に該当しない。

(参考)振動建設工事に伴って発生する振動に係る基準:L₁₀で75dB(7:00~19:00)

※3 評価地点は、福島県振動防止対策指針に基づく振動施設を設置する事業場に接していない。

(参考)振動施設を設置している工場等における事業活動に伴って発生する振動に係る基準(第2種区域):L₁₀で65dB(昼間7:00~19:00))

予測・評価結果：騒音・振動④

輸送車両等の運行に伴う騒音・振動の予測結果

<供用中>

区分	評価地点		時間区分	バックグラウンド値	予測結果
等価騒音 レベル (L_{Aeq}) [dB]	環境基本法に基づく環境基準			70※1	
	騒音規制法に基づく要請限度			—※2	
	㉔双葉町新山地区	一般国道6号	昼間(6:00~22:00)	76	76
	㉔大熊町夫沢地区			71	71
時間率振動 レベル (L_{10}) [dB]	振動規制法に基づく要請限度			—※3	
	㉔双葉町新山地区	一般国道6号	昼間(7:00~19:00)	42	43
	㉔大熊町夫沢地区			47	49

※1 輸送車両等の運行に伴う騒音を評価するため、環境基準については「幹線交通を担う道路に近接する空間」に係る基準値を適用した。

※2 大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。

(参考)自動車騒音の要請限度(幹線交通を担う道路に近接する空間): L_{Aeq} で75dB(昼間6:00~22:00)

※3 大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。

(参考)道路交通振動に係る要請限度(第二種区域): L_{10} で70dB(昼間7:00~19:00)

評価:騒音については、一般国道6号に接する評価地点で、バックグラウンド値及び予測結果が「幹線交通を担う道路に近接する空間」の環境基準を超過しました。今後、環境保全対策として効率的な車両の運行並びに低騒音型及び低振動型の機械の採用により、騒音・振動を実行可能な範囲で低減するとともに、モニタリングを行い、環境への影響を確認していきます。

予測・評価結果:水質・底質①

- 河川の水質への影響については、工事に伴う水の濁り(浮遊物質)、及び供用中における土壌貯蔵施設の浸出水処理施設からの浸出水処理水の排水による水の濁りと水の汚れ(生物化学的酸素要求量、健康項目、ダイオキシン類)を予測しました。
- 河川の底質への影響については、河川の水質への影響の予測結果を基に、定性的に評価しました。

工事中の水質の予測結果

区分	評価地点※1	バックグラウンド値	予測結果
浮遊物質 (SS) [mg/L]	環境基本法に基づく環境基準	—※2	
	Ⓐ細谷川 下流	8.8	10.0
	Ⓑ夫沢川 下流	8.3	8.4
	Ⓒ小入野川 下流	4.3	4.7

※1 工事に伴う水の濁りは、降雨強度3mm/時の降水量を条件として予測した。

※2 評価地点は環境基準の水域類型は指定されていない。

(参考)河川C類型の浮遊物質(SS)の環境基準:50mg/L

予測・評価結果:水質・底質②

供用中の水質の予測結果

区分	評価地点※ ¹	バックグラウンド値	予測結果
生物化学的 酸素要求量 (BOD) [mg/L]	環境基本法に基づく環境基準	—※ ²	
	①細谷川 下流	1.2	1.6
	②夫沢川 下流	1.5	1.9
	③小入野川 下流	0.68	0.78
浮遊物質 (SS) [mg/L]	環境基本法に基づく環境基準	—※ ²	
	①細谷川 下流	8.8	9.1
	②夫沢川 下流	8.3	8.6
	③小入野川 下流	4.3	4.4
健康項目 27項目	環境基本法に基づく環境基準	健康項目27項目の環境基準※ ³	
	①細谷川 下流	全項目適合	全項目適合
	②夫沢川 下流	全項目適合	全項目適合
	③小入野川 下流	全項目適合	全項目適合
ダイオキシン類 [pg-TEQ/L]	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準	1	
	①細谷川 下流	0.065	0.065
	②夫沢川 下流	0.15	0.15
	③小入野川 下流	0.069	0.069

※¹ 浸出水処理施設の年間の平均的な稼働を想定し、過去15年間の降水量をもとにして算定した年間の平均的な降水量を条件として各項目を予測した。

※² いずれの評価地点も環境基準の水域類型は指定されていない。(参考)河川C類型の生物化学的酸素要求量(BOD)の環境基準:5mg/L、浮遊物質(SS)の環境基準:50mg/L

※³ 健康項目27項目の環境基準:「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年環告第59号)別表1に規定された基準は以下のとおり。

カドミウム(0.003mg/L以下)、全シアン(検出されないこと)、鉛(0.01mg/L以下)、六価クロム(0.02mg/L以下)、砒素(0.01mg/L以下)、総水銀(0.0005mg/L以下)、アルキル水銀(検出されないこと)、PCB(検出されないこと)、ジクロロメタン(0.02mg/L以下)、四塩化炭素(0.002mg/L以下)、1,2-ジクロロエタン(0.004mg/L以下)、1,1-ジクロロエチレン(0.1mg/L以下)、シス-1,2-ジクロロエチレン(0.04mg/L以下)、1,1,1-トリクロロエタン(1mg/L以下)、1,1,2-トリクロロエタン(0.006mg/L以下)、トリクロロエチレン(0.01mg/L以下)、テトラクロロエチレン(0.01mg/L以下)、1,3-ジクロロプロペン(0.002mg/L以下)、チウラム(0.006mg/L以下)、シマジン(0.003mg/L以下)、チオベンカルブ(0.02mg/L以下)、ベンゼン(0.01mg/L以下)、セレン(0.01mg/L以下)、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素(10mg/L以下)、ふっ素(0.8mg/L以下)、ほう素(1mg/L以下)、1,4-ジオキサン(0.05mg/L以下)

評価: 工事中及び供用中において、水質の予測結果は環境基準等に適合しており、環境保全対策として浸出水処理施設の設置・管理等により、河川の水質への影響は実行可能な範囲で低減されるものと評価しました。水質への影響を低減することで、河川の底質への影響も低減されるものと評価しました。

予測・評価結果：動物・植物及び生態系

- 評価対象の工事用地周辺における動物・植物の生息・生育状況と、中間貯蔵施設区域全体及び区域周辺の状況を比較し、工事用地周辺を含めて同様の生息・生育環境が維持されるかどうかに着目し、影響を予測しました。

調査項目	調査年度※1	出現種数		レッドリスト等の掲載種※3の出現種数			区域全体に出現した掲載種の例
		区域全体		区域全体		区域周辺※4	
		工事用地周辺※2		工事用地周辺			
昆虫類	2022 (R4)	180	540	2	2	0	ケシゲンゴロウ、ミズスマシ
植物※5		275	465	0	8	10	コ克蘭、キンラン、エビネ
哺乳類	2023 (R5)	11	13	0	1	1	カヤネズミ
鳥類		31	42	2	6	4	オオヨシキリ、アオバト、カッコウ
爬虫類		1	1	0	0	1	なし
両生類		3	4	1	1	2	ニホンアカガエル
魚類	2024 (R6)	14	23	2	7	12	ニホンウナギ、ホトケドジョウ、キンブナ
底生生物（貝類）		1	9	0	2	0	マシジミ、モノアラガイ
底生生物（水生昆虫）		28	156	0	3	2	ケシゲンゴロウ、コオイムシ、オオミズスマシ
猛禽類		12		8			ハヤブサ、チュウヒ、サシバ

※1 予測・評価におけるバックグラウンドに設定した2024年度時点で、最新の調査結果を参考とした。

※2 工事用地周辺と植生が類似する調査地点の結果を参考とした。

※3 掲載種は、①文化財保護法、②種の保存法、③福島県条例、④第4次環境省レッドリスト、⑤福島県レッドリストに掲載されている種とした。

※4 区域周辺は、中間貯蔵施設区域境界から約2kmの範囲内とした。

※5 植林又は植栽、逸出と考えられた種は、掲載種から除いた。

評価：工事用地は基本的に造成済であり、またその周辺における動物・植物の生息・生育環境は中間貯蔵施設区域内又は区域周辺にも分布していることから、動物・植物の個体群及び生態系への影響は最小化されるものと評価しました。

予測・評価結果：その他の項目

環境要素	影響の予測、評価、保全対策の検討結果
悪臭	<ul style="list-style-type: none"> 稼働中の受入・分別施設及び土壌貯蔵施設における周辺環境測定結果から、工事用地における臭気指数は福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度を下回ることを確認しました。臭気を発する可能性がある可燃物等は、適切に分別され、焼却されることから、悪臭の影響は小さいと評価しました。
地下水	<ul style="list-style-type: none"> 地下水の水質・水位・流れを事前に把握し、遮水工を実施することにより、工事の実施並びに工作物の存在及び供用に伴う地下水への影響は、実行可能な範囲で低減が図られるものと評価しました。
地形及び地質	<ul style="list-style-type: none"> 工事用地及び中間貯蔵施設区域には、文献及び現地調査において重要な地形及び地質は確認されていないことから、重要な地形及び地質への影響はないものと評価しました。
地盤	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全性確保の一環として実施する地盤の安定性確保及び構造物自体の強度の確保に係る対策により、地盤及び斜面の安定性への影響は、実行可能な範囲で低減が図られるものと評価しました。
景観	<ul style="list-style-type: none"> 景観資源は本事業の工事用地及び中間貯蔵施設区域には存在しないことから、景観資源の直接改変等の影響はないと評価しました。眺望景観への対応については、中間貯蔵施設全体として、地域の復興状況を勘案し、緑地整備等の保全対策を実行可能な範囲で検討し、順次、実施しているところです。
人と自然との 触れ合いの活 動の場	<ul style="list-style-type: none"> 今後の施設整備に伴い、現在、中間貯蔵施設区域に存在する人と自然との触れ合いの活動の場は消失する可能性があります。人と自然との触れ合いの活動の場に対する保全策については、中間貯蔵施設以外の事業を含めた地域の復興状況を勘案して、今後、検討する必要があります。
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 造成等の施工に当たり発生する土壌及び廃棄物の発生量については、減容化及び再生利用を図ることにより、実行可能な範囲で低減が図られるものと評価しました。
温室効果ガス	<ul style="list-style-type: none"> 工事及び施設の供用に当たっては、車両について効率的な運行を行うこととしています。またICTを活用した効率的な施工を行うこととしています。これらの取組は燃料消費量の削減にも寄与することから、温室効果ガスの発生については、実行可能な範囲で低減が図られるものと評価しました。

予測・評価結果：放射線の量（空間線量率等）

- 工事中及び供用中（運転中及び貯蔵中）の機械の稼働、車両の運行及び施設の稼働に伴う、空間線量率及び公衆に対する年間の被ばく線量への影響を予測しました。

空間線量率及び公衆に対する年間の被ばく線量の予測結果

予測内容	段階		評価地点	バックグラウンド値※1	寄与量
空間線量率 [μ Sv/h]	工事の実施		㊸双葉町細谷地区	0.16	0.023
			㊹大熊町熊川地区	1.05	0.0028
	土地又は工作物の 存在及び供用	運転	㊸双葉町細谷地区	0.16	0.030
			㊹大熊町熊川地区	1.05	0.00059
		貯蔵	㊶双葉町新山地区	0.38	0.00000012
			㊺大熊町小入野地区	3.06	0.000000013
年間の被ばく線量※2 [mSv]	工事の実施※3		㊸双葉町細谷地区	0.32	0.0082
			㊹大熊町熊川地区	2.10	0.0054
	土地又は工作物の 存在及び供用	運転※4	㊸双葉町細谷地区	0.32	0.060
			㊹大熊町熊川地区	2.10	0.0011
		貯蔵※4	㊶双葉町新山地区	0.76	0.00000025
			㊺大熊町小入野地区	6.12	0.000000025

※1 バックグラウンド値は、2024年度の実測値を使用した。

※2 公衆に対する年間の被ばく線量は、年間2,000時間滞在したと仮定して算出した。

※3 工事中の12ヶ月間について線量を合計した。

※4 運転中又は貯蔵中の12ヶ月間について線量を合計した。

評価：屋根・壁を有する施設内での破袋・分別、作業中の散水、除去土壌の被覆、遮水工、適切な水処理等の対策により、空間線量率への寄与は最大で0.030 μ Sv/h、公衆に対する追加被ばく線量への寄与は最大で年間0.060mSvと、バックグラウンド値と比較して十分に小さいと予測されました。よって実行可能な範囲で影響が低減されるものと評価しました。

まとめ

- 2025年度以降に整備される施設を含む、現時点での事業全体の環境影響の予測・評価を実施しました。
- 予測・評価の結果、騒音について、一般国道6号に接する評価地点で、バックグラウンド値(整備工事前、最大76dB)が「幹線交通を担う道路に近接する空間」の環境基準(70dB)を超過しており、予測結果も最大76dBと超過しました。今後、環境保全対策として効率的な車両の運行並びに低騒音型及び低振動型の機械の採用により、騒音・振動を実行可能な範囲で低減します。
- それ以外の項目は環境保全対策を講じることにより環境基準等に適合しており、2025年度以降に整備される施設に伴う環境への影響は実行可能な範囲で低減されるものと評価しました。
- 工事・供用に伴う環境への影響等を確認するため、今後もモニタリングを実施していく予定です。

令和 7 年度中間貯蔵施設における福島県の取組について

令和 8 年 3 月 30 日
福島県生活環境部
中間貯蔵・除染対策課

1 状況確認（施設）

【 目 的 】 安全協定に基づき、施設の周辺地域の安全の確保について確認する。

【 確認内容 】 放射性物質汚染対処特措法に基づく除去土壌処理基準等への適合状況
中間貯蔵施設に係る指針（環境省策定）の順守状況

対象	確認場所	確認日	確認者	確認方法	確認項目
施設	土壌貯蔵施設	5月21日 6月18日 7月15日	福島県 大熊町 双葉町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地での目視確認 ・ 書類確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の安全性 ・ 除去土壌等の飛散流出防止対策 ・ 施設の維持管理状況 ・ 施設の点検記録 ・ モニタリング実施状況及び結果
	廃棄物貯蔵施設	9月26日			
	保管場 ※6カ所抽出	4月24日 6月20日			
	容器残さ分別処理施設	12月15日			
	減容化施設	10月30日 11月18日 11月25日			

1 状況確認（輸送）

【 目 的 】 安全協定に基づき、施設の周辺地域の安全の確保について確認する。

【 確認内容 】 放射性物質汚染対処特措法に基づく除去土壌処理基準への適合状況

対象		確認場所	確認日	確認者	確認方法	確認項目
輸送	中間貯蔵施設 への搬入	積込場 (飯舘村、富岡町、 浪江町、南相馬市、 双葉町、大熊町)	8月6日	福島県	・ 現地での 目視確認 ・ 書類確認	・ 積込作業の安全性 ・ 除去土壌の飛散流出防止対策 ・ 事故時対応用資機材の携行状況 ・ 必要書面の備え付け状況
			9月1日			
	10月7日					
	11月6日					
	2月10日					
	除染工事現場 (大熊町、双葉町)	10月23日	大熊町			
		1月26日				
	中間貯蔵施設 からの搬出	中間貯蔵施設内 保管場 (大熊町)	7月18日	双葉町		
			9月8日			
			9月12日			
			9月19日			
			9月24日			
			9月26日			
			10月3日			

1 状況確認（結果）

【結果】関係法令等に基づき、事業が適正に実施されていることが確認できた。
ただし、一部の項目について以下の対応を求めた。

項目	要求事項	対応要求日	改善確認日
施設	特定廃棄物の保管場所である旨を表示した掲示板が設置されていなかったため、設置するよう求めた。（大森仮設灰保管施設a）	4月24日	6月13日
	除去土壌の付着した容器残さの法令上の扱い（除去土壌or特定廃棄物等）の整理を求めた。（容器残さ分別処理施設）	12月15日	環境省において整理中
輸送	除去土壌取扱い時の注意事項を記載した書面の運搬車への備え付けを確認できなかったため、運転手が常に確認できるように備え付けるよう求めた。（深谷国有林仮置場、大堀仮置場）	9月1日	10月7日
	運搬の再委託に係る書面が運搬車に備え付けられていなかったため、備え付けるよう求めた。（東大和久建屋a）	9月12日	9月19日
	除去土壌の飛散流出時の対応について記載した書面が運搬車に備え付けられていなかったため、備え付けるよう求めた。（中央台仮置場）	2月10日	3月3日

(状況確認の様子)

施設



双葉町仮設焼却施設の状況



廃棄物貯蔵施設の状況

輸送



積込作業（除染工事現場）



事故時対応用資機材の確認

2 環境モニタリング

【目的】 安全協定に基づき、施設の周辺地域の安全の確保について確認する。

【調査内容】 中間貯蔵施設に係る指針（環境省策定）の順守状況

調査対象	調査月	調査者	調査項目	結果
土壌貯蔵施設	4月～ 2月 計44回	福島県	①空間線量率 ②放射能濃度 （大気浮遊じん、地下水、雨水、 放流水、河川水質、河川底質） ③有害物質等 （地下水、放流水）	①変化なし ②不検出 又は これまでの結果と同程度 ③不検出 又は 基準値以下
廃棄物貯蔵施設				
保管場				
容器残さ分別処理施設				
減容化施設				
研究施設				
敷地境界				
河川				



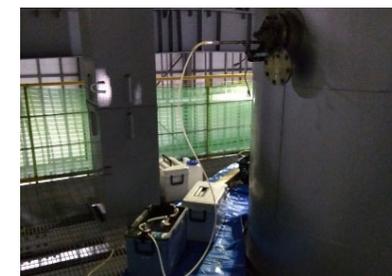
地下水の採取の様子



大気浮遊じんと空間線量率の
測定の様子



放流水の採取の様子



排ガスの採取の様子

【結果】 これまでの結果と同程度であり、周辺環境への影響は確認されなかった。

令和7年度

中間貯蔵施設事業に係るモニタリング結果

令和7年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング結果一覧

調査場所	調査項目	調査地点数	結果
土壌貯蔵施設	地下水中の放射能濃度	45	すべて検出下限値未満
	放流水中の放射能濃度	3	すべて検出下限値未満
	放流水中の有害物質等	3	基準超過なし
廃棄物貯蔵施設	地下水中の放射能濃度	4	すべて検出下限値未満
	地下水中の有害物質等	4	基準超過なし
	雨水排水中の放射能濃度	3	すべて検出下限値未満
保管場	地下水中の放射能濃度	6	すべて検出下限値未満
容器残さ 分別処理施設	空間線量率	1	周辺と同程度
	大気浮遊じん中の放射能濃度	1	検出下限値未満
	地下水中の放射能濃度	1	検出下限値未満
	雨水排水中の放射能濃度	1	検出下限値未満
減容化施設	雨水排水中の放射能濃度	4	これまでの結果と同程度
	排ガス中の放射能濃度	5	すべて検出下限値未満
研究施設	空間線量率	1	これまでの結果と同程度
	大気浮遊じん中の放射能濃度	1	検出下限値未満
敷地境界	空間線量率	2	これまでの結果と同程度
	大気浮遊じん中の放射能濃度	2	すべて検出下限値未満
河川	河川水中の放射能濃度	6	これまでの結果と同程度
	河川底質中の放射能濃度	6	これまでの結果と同程度

1 土壤貯蔵施設

(1) 地下水中の放射能濃度

(単位：Bq/L)

調査地点	調査日	調査項目	地図番号	分析結果	
				Cs-134	Cs-137
大熊①工区	R7. 4. 17	井戸	4	不検出	不検出
			5	不検出	不検出
			80	不検出	不検出
		集排水	2	不検出	不検出
			3	不検出	不検出
			79	不検出	不検出
大熊②工区 (1期)	R7. 4. 17	井戸	9	不検出	不検出
		集排水	8	不検出	不検出
大熊②工区 (2期)	R7. 4. 17	井戸	16	不検出	不検出
			17	不検出	不検出
		集排水	12	不検出	不検出
			13	不検出	不検出
			14	不検出	不検出
			15	不検出	不検出
大熊③工区	R7. 4. 24	井戸	22	不検出	不検出
		集排水	20	不検出	不検出
			21	不検出	不検出
			81	不検出	不検出
大熊④工区	R7. 4. 24	井戸	29	不検出	不検出
			30	不検出	不検出
			31	不検出	不検出
		集排水	25	不検出	不検出
			26	不検出	不検出
			27	不検出	不検出
大熊⑤工区	R7. 4. 24	井戸	37	不検出	不検出
			38	不検出	不検出
			110	不検出	不検出
		集排水	34	不検出	不検出
			35	不検出	不検出
			36	不検出	不検出
双葉①工区 (1期)	R7. 4. 21	井戸	48	不検出	不検出
		集排水	47	不検出	不検出
双葉①工区 (2期)	R7. 4. 21	井戸	52	不検出	不検出
			53	不検出	不検出
			112	不検出	不検出
		集排水	50	不検出	不検出
			51	不検出	不検出
			111	不検出	不検出
双葉②工区	R7. 4. 21	井戸	57	不検出	不検出
		集排水	56	不検出	不検出
双葉③工区	R7. 4. 21	井戸	60	不検出	不検出
			107	不検出	不検出
		集排水	59	不検出	不検出
			113	不検出	不検出

[検出下限値：1]

(2) 放流水中の放射能濃度

(単位: Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊②工区(1期)	R7.11.13	10	不検出	不検出
大熊②工区(2期)	R7.11.20	18	不検出	不検出
大熊④工区	R7.11.13	32	不検出	不検出

[検出下限値: 1]

(3) 放流水中の有害物質等濃度

調査項目	単位	大熊②工区(1期)	大熊②工区(2期)	大熊④工区	基準(※)	測定方法	
		地図番号10	地図番号18	地図番号32			
		R7.11.13	R7.11.20	R7.11.13			
一般項目	1 水素イオン濃度	—	8.1	8.1	8.0	5.8以上 8.6以下	環告第64号
	2 生物化学的酸素要求量	(mg/L)	1.1	1.5	2.2	60 以下 (河川に放流される場合のみ)	環告第64号
	3 化学的酸素要求量	(mg/L)	7.4	13	9.6	90 以下 (湖沼・海域に放流される場合のみ)	環告第64号
	4 浮遊物質	(mg/L)	<1	<1	<1	60以下	環告第64号
	5 大腸菌数	(CFU/mL)	0	0	0	800以下	環告第64号
有害物質項目	1 カドミウム及びその化合物	(mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	0.03 以下	環告第64号
	2 シアン化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	1 以下	環告第64号
	3 有機燐化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	1 以下	環告第64号
	4 鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	0.1 以下	環告第64号
	5 六価クロム化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	0.5 以下	環告第64号
	6 砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 以下	環告第64号
	7 水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005 以下	環告第64号
	8 アルキル水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	環告第64号
	9 ポリ塩化ビフェニル	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003 以下	環告第64号
	10 トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下	環告第64号
	11 テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.1 以下	環告第64号
	12 1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	3 以下	環告第64号
	13 ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.2 以下	環告第64号
	14 四塩化炭素	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	環告第64号
	15 1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下	環告第64号
	16 1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	1 以下	環告第64号
	17 シス-1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.04	<0.04	<0.04	0.4 以下	環告第64号
	18 1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.006	<0.006	<0.006	0.06 以下	環告第64号
	19 1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	環告第64号
	20 チウラム	(mg/L)	<0.006	<0.006	<0.006	0.06 以下	環告第64号
	21 シマジン	(mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	0.03 以下	環告第64号
	22 チオベンカルブ	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	0.2 以下	環告第64号
	23 ベンゼン	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 以下	環告第64号
	24 セレン及びその化合物	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	0.1 以下	環告第64号
	25 ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<0.8	<0.8	<0.8	15 以下	環告第64号
	26 ほう素及びその化合物	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	50 以下	環告第64号
	27 アンモニア、アンモニウム化合物、 亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	<2	<2	<2	200 以下	環告第64号
	28 1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	0.5 以下	環告第64号
特殊項目	1 ノルマルヘキサン抽出物質含有量	(mg/L)	3.5	<0.5	<0.5	5 以下(鉱油類) 30 以下(動植物油脂類)	環告第64号
	2 フェノール類含有量	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	5 以下	環告第64号
	3 銅含有量	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	3 以下	環告第64号
	4 亜鉛含有量	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	2 以下	環告第64号
	5 溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	10 以下	環告第64号
	6 溶解性マンガン含有量	(mg/L)	<0.02	0.04	0.22	10 以下	環告第64号
	7 クロム含有量	(mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	2 以下	環告第64号
その他	1 電気伝導率	(mS/m)	55	93	67	—	日本産業規格K0102-1 13
	2 塩化物イオン	(mg/L)	32	50	63	—	日本産業規格K0102-2 6
	3 ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0	0.00072	0.00090	10以下	日本産業規格K0312

※ 「中間貯蔵施設に係る指針」

2 廃棄物貯蔵施設

(1) 地下水中の放射能濃度

(単位：Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊工区	R7. 4. 15	40	不検出	不検出
		41	不検出	不検出
双葉1工区	R7. 4. 15	62	不検出	不検出
双葉2工区	R7. 4. 15	108	不検出	不検出

[検出下限値：1]

(2) 雨水排水中の放射能濃度

(単位：Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊工区	R7. 5. 27	102	不検出	不検出
双葉1工区	R7. 5. 26	87	不検出	不検出
双葉2工区	R7. 5. 26	88	不検出	不検出

[検出下限値：1]

(3) 地下水中の有害物質等濃度

調査項目	単位	大熊工区				基準 ^(※)	測定方法
		地図番号40	地図番号41	双葉1工区 地図番号62	双葉2工区 地図番号108		
		R7. 5. 27	R7. 5. 27	R7. 5. 26	R7. 5. 26		
1 アルキル水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	環告第10号
2 総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下	環告第10号
3 カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下	環告第10号
4 鉛	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	0.009	0.01 以下	環告第10号
5 六価クロム	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 以下	環告第10号
6 砒素	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下	環告第10号
7 全シアン	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと	環告第10号
8 ポリ塩化ビフェニル	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	環告第10号
9 トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下	環告第10号
10 テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下	環告第10号
11 ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	環告第10号
12 四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	環告第10号
13 1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下	環告第10号
14 1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下	環告第10号
15 1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下	環告第10号
16 1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下	環告第10号
17 1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下	環告第10号
18 1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	環告第10号
19 チウラム	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下	環告第10号
20 シマジン	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下	環告第10号
21 チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	環告第10号
22 ベンゼン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下	環告第10号
23 セレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下	環告第10号
24 1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下	環告第10号
25 クロロエチレン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	環告第10号
26 ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.14	0.090	0.060	0.065	1 以下	日本産業規格 K0312
27 電気伝導率	(mS/m)	16	11	22	19	-	日本産業規格 K0102-1 13
28 塩化物イオン	(mg/L)	<2	<2	5	5	-	日本産業規格 K0102-2 6

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年環境庁告示第10号）

（ただし、ダイオキシン類については、「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」（平成11年環境庁告示第68号）による。）

3 保管場

(1) 地下水中の放射能濃度 (単位：Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
東大和久保管場d	R7. 4. 15	43	不検出	不検出
東平仮設灰保管施設	R7. 4. 15	44	不検出	不検出
長者原保管場e	R7. 4. 15	45	不検出	不検出
弥平迫保管場	R7. 4. 15	68	不検出	不検出
島保管場	R7. 4. 15	69	不検出	不検出
森ノ内仮設灰保管施設	R7. 4. 15	70	不検出	不検出

[検出下限値：1]

4 容器残さ分別処理施設

(1) 空間線量率 (単位： μ Sv/h)

調査地点	調査日	地図番号	測定時刻	調査結果
容器残さ分別処理施設	R7. 12. 15	123	13:22	0.47

(2) 大気浮遊じん中の放射能濃度 (単位：mBq/m³)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
容器残さ分別処理施設	R7. 12. 15	123	不検出	不検出

[検出下限値：5]

(3) 地下水中の放射能濃度 (単位：Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
容器残さ分別処理施設	R7. 12. 15	124	不検出	不検出

[検出下限値：1]

(4) 雨水排水中の放射能濃度 (単位：Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
容器残さ分別処理施設	R7. 12. 15	125	不検出	不検出

[検出下限値：1]

5 減容化施設

(1) 雨水排水中の放射能濃度 (単位：Bq/L)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊町仮設焼却施設	R7. 10. 21	103	不検出	不検出
		114	不検出	不検出
双葉町減容化施設 (その1)	R7. 11. 19	89	不検出	3
双葉町減容化施設 (その2)	R7. 11. 26	90	不検出	不検出

[検出下限値：1]

(2) 排ガス中の放射能濃度

(単位: Bq/m³)

調査地点	調査日	地図番号	調査項目	分析結果	
				Cs-134	Cs-137
大熊町仮設焼却施設	R7. 10. 21	42	ドレン水	不検出	不検出
			排ガス	不検出	不検出
双葉町 減容化施設 (その1)	R7. 11. 18	64	ドレン水	不検出	不検出
			排ガス	不検出	不検出
	R7. 11. 19	65	ドレン水	不検出	不検出
			排ガス	不検出	不検出
双葉町 減容化施設 (その2)	R7. 11. 25	66	ドレン水	不検出	不検出
			排ガス	不検出	不検出
	R7. 11. 26	67	ドレン水	不検出	不検出
			排ガス	不検出	不検出

[検出下限値: 1]

6 研究施設

(1) 空間線量率

(単位: μ Sv/h)

調査地点	調査日	地図番号	測定時刻	調査結果
技術実証フィールド	R7. 8. 5	105	11:14	0.45

(2) 大気浮遊じん中の放射能濃度

(単位: mBq/m³)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
技術実証フィールド	R7. 8. 5	105	不検出	不検出

[検出下限値: 5]

7 敷地境界

(1) 空間線量率

(単位: μ Sv/h)

調査地点	調査日	地図番号	測定時刻	調査結果
大熊町東大和久	R7. 8. 5	78	10:29	0.41
	R8. 2. 5		10:28	0.42
双葉町陣場下	R7. 8. 5	77	9:49	0.20
	R8. 2. 5		9:45	0.23

(2) 大気浮遊じん中の放射能濃度

(単位: mBq/m³)

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊町東大和久	R7. 8. 5	78	不検出	不検出
	R8. 2. 5		不検出	不検出
双葉町陣場下	R7. 8. 5	77	不検出	不検出
	R8. 2. 5		不検出	不検出

[検出下限値: 5]

8 河川

(1) 河川水中の放射能濃度

(単位：Bq/L)

調査地点	調査日	調査項目	地図番号	分析結果	
				Cs-134	Cs-137
夫沢川	R7. 12. 10	上流	71-1	不検出	不検出
		下流	71-2	不検出	2
小入野川	R7. 12. 11	上流	72-1	不検出	不検出
		下流	72-2	不検出	不検出
熊川	R7. 12. 10	上流	73-1	不検出	不検出
		下流	73-2	不検出	不検出
細谷川	R7. 12. 11	上流	74-1	不検出	不検出
		下流	74-2	不検出	不検出
陳場沢川	R7. 12. 11	上流	75-1	不検出	不検出
		下流	75-2	不検出	不検出
前田川	R7. 12. 10	上流	76-1	不検出	不検出
		下流	76-2	不検出	不検出

[検出下限値：1]

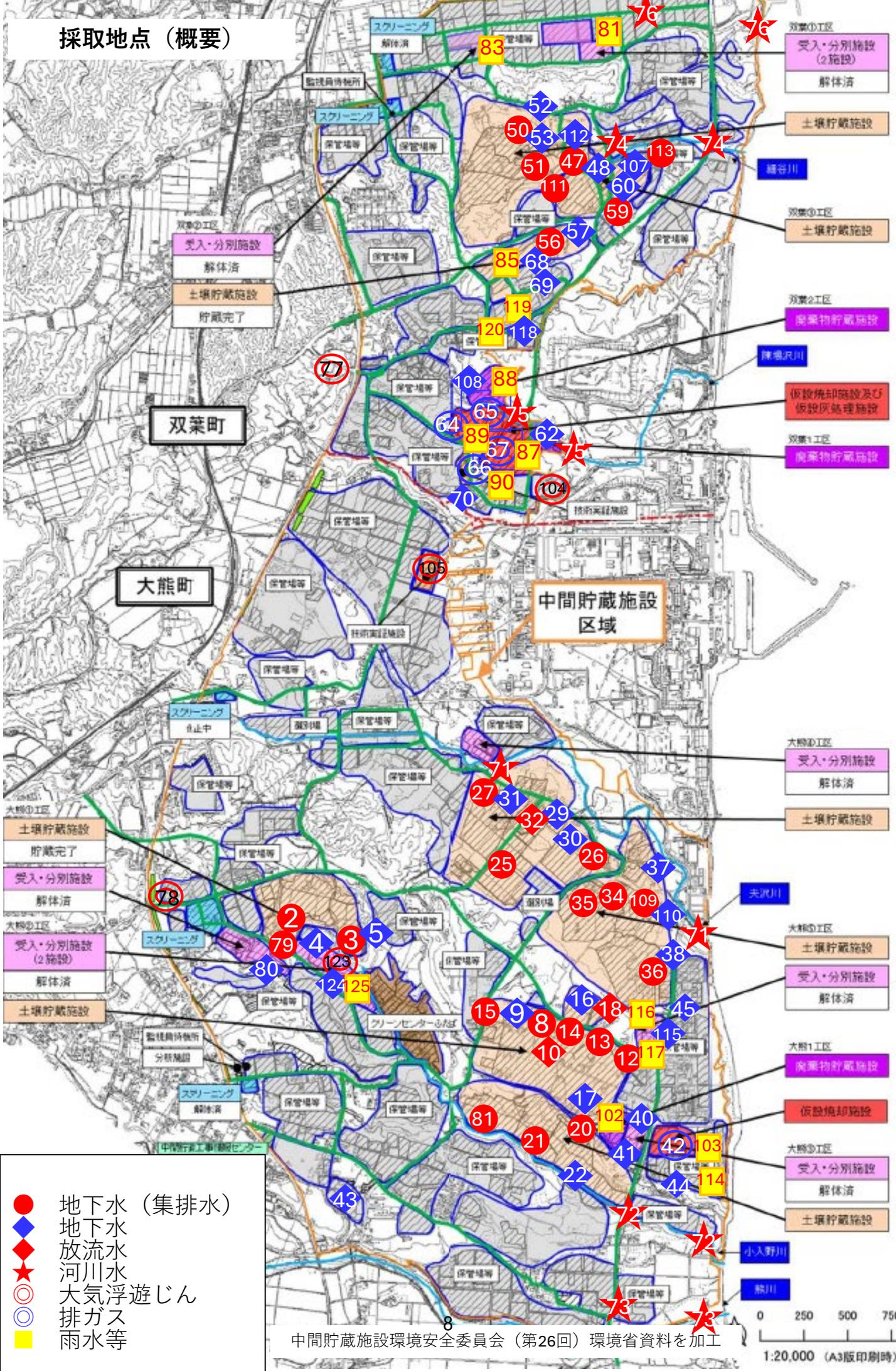
(2) 河川底質中の放射能濃度

(単位：Bq/kg乾)

調査地点	調査日	調査項目	地図番号	分析結果 ^(※)	
				Cs-134	Cs-137
夫沢川	R7. 12. 10	上流	71-1	110 (12)	12,000 (11)
		下流	71-2	49 (8)	5,300 (7)
小入野川	R7. 12. 11	上流	72-1	55 (11)	5,500 (10)
		下流	72-2	7 (6)	710 (6)
熊川	R7. 12. 10	上流	73-1	不検出 (3)	210 (3)
		下流	73-2	8 (5)	740 (7)
細谷川	R7. 12. 11	上流	74-1	14 (4)	1,300 (4)
		下流	74-2	15 (5)	1,300 (5)
陳場沢川	R7. 12. 11	上流	75-1	11 (7)	1,100 (7)
		下流	75-2	12 (5)	1,400 (5)
前田川	R7. 12. 10	上流	76-1	10 (4)	1,300 (4)
		下流	76-2	4 (4)	400 (3)

※：()内の数値は検出下限値を示す。

採取地点（概要）



- 地下水（集排水）
- ◆ 地下水
- ◆ 放流水
- ★ 河川水
- ◎ 大気浮遊じん
- 排ガス
- 雨水等

中間貯蔵施設環境安全委員会（第26回）環境省資料を加工

0 250 500 750
1:20,000 (A3版印刷時)